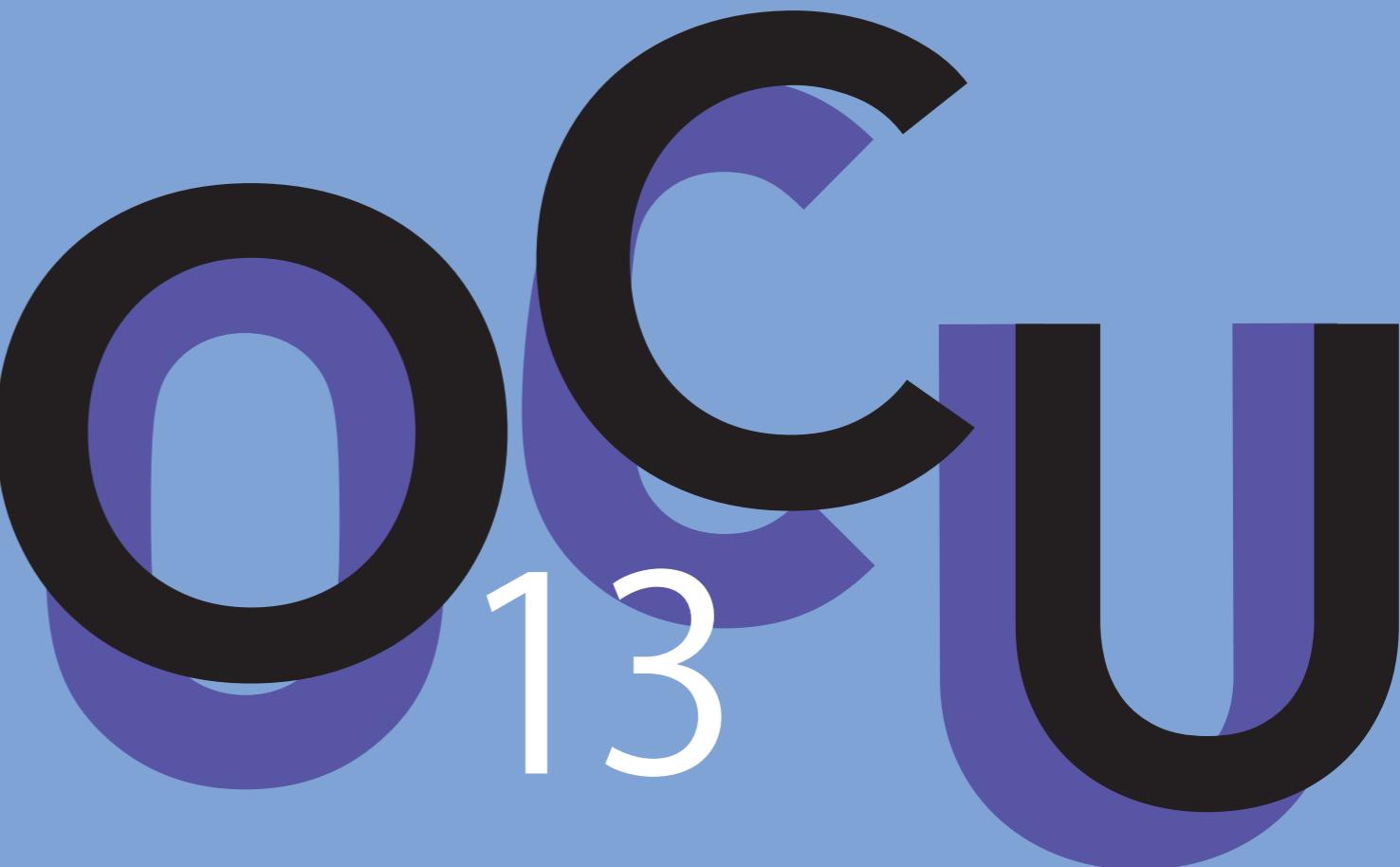


Publication of Onomichi City University Community Collaboration & Outreach Office



尾道市立大学 地域総合センター 叢書 no.13

Publication of Onomichi City University Community Collaboration & Outreach Office



尾道市立大学
地域総合センター
叢書 no.13

Publication of Onomichi City University Community Collaboration & Outreach Office

尾道市立大学
地域総合センター
叢書 no.13

ごあいさつ

平素は地域総合センターの活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

このたび、令和5年～6年度（2023～2024）にわたる2年間の活動成果をまとめた『地域総合センター叢書』No.13（ISSN登録2187-1205）を刊行致しました。本誌は尾道市立大学学術リポジトリ（JAIRO Cloud）からインターネットでもご覧いただける内容です。新型コロナウィルスによる活動自粛期間を振り返る時期を迎え、本学地域総合センターも地域学修の支援と地域連携の充実に向けて継続的に取り組んでまいりました。これらの様子は本学ホームページ：地域貢献欄でもご確認いただけます。本誌とあわせてぜひご覧ください。

現在、地域の情報は広く発信されて尾道もさまざまに賑わっております。観光の話題はもちろんですが、地域社会を支えて来られた人々の歴史や在地の魅力に注目することで、未来への大きな力を得ることもあります。たとえば、本学に隣接する久山田水源地は完成してちょうど100年を迎え、2025年4月13日（日）には記念行事も行われました。その歴史を辿ると、設立に尽力された名誉市民山口玄洞氏の功績は全国に及んでおり、地域社会をめぐる人々の生き方や生き様からも未来を考えることができます。また、ふと気づく豊かな自然と静かな学修環境からは、平和の尊さについても今さらのように思いを致すところです。

社会に目を向けますと乱立する情報やことばの形骸化などの問題も錯綜しており、従来当たり前のように進めてきたことも他者への配慮や負担の軽減からすべての踏襲が難しく、人を結ぶ方法なども課題とされます。急速な社会変動にともなうさまざまな揺らぎや不安を確実に乗り越えるためには、危機管理の意識に加えつねに正しい情報の見極めや柔軟な協力関係も一層求められるわけですが、ここに至りわたくしどもは日々進歩し続ける技術と多様な視点を身につけております。革新的と思われるような技術の不足を補い、明るい未来へと前進させることができるのはなにより人の力です。大学でも積み重ねた経験を教育・研究・創作において適切な形で活かし、確かな質保証に日々取り組んでおります。そして、現在は学びのスタートを支援するだけでなく学び直す機会の提供も増えており、建設中の新図書館への期待も高まるなかで高等教育機関としての本学の可能性も多方面に広がってまいりました。

ご存じの通り本学の魅力は尾道市立女子専門学校、尾道短期大学、尾道大学時代から継承される手厚くきめ細かな少人数教育にあります。理念とする「知と美の探究と創造」のさらなる発展に向けて、そして本学地域総合センターが地域社会において、一層良質な機縁の場となりますよう引き続き幅広い視野から丁寧なサポートをしてまいりたいと存じます。

どうぞ今後とも本学地域総合センターの活動にご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和7年（2025）9月吉日

尾道市立大学地域総合センター長

藤井 佐美

目次

はじめに 尾道市立大学地域総合センター長 藤井 佐美 ━━━━━━━━ 1

尾道酒を求めて - 2023年度「吉源酒造場」フィールドワーク報告 -

尾道の「顔」研究会

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授 藤本 真理子

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科准教授 吉田 宰

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科教授 森本 幾子 ━━━━━━ 4

研究論文／研究要旨

尾道市立大学 教養講座について ━━━━━━ 9

『源氏物語』を読んでみる - 「帯木」巻 -

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授 宮谷 聰美 ━━━━━━ 10

地域社会が変わるとき - 江戸時代尾道を訪れた旅人の役割 -

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科教授 森本 幾子 ━━━━━━ 16

油彩技法とその変遷

尾道市立大学芸術文化学部美術学科油画コース准教授 西村 有未 ━━━━━━ 20

安心してインターネットを楽しむために - 情報セキュリティの基本 -

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科教授 南郷 育 ━━━━━━ 22

ヒトを知るための言語学 - 認知言語学の考え方 -

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科講師 高島 彰 ━━━━━━ 37

古典模写による実習授業の体験

尾道市立大学芸術文化学部美術学科日本画コース講師 山梨 千果子 ━━━━━━ 49

研究って面白い！ - 私の研究履歴をとおして -

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科准教授 吉田 宰 ━━━━━━ 52

「絵」から「場所」へ - これまでの実践を辿る -

尾道市立大学芸術文化学部美術学科油画コース教授 小野 環 ━━━━━━ 54

公開講座開催リスト／アンケート集計

令和 5 年度（2023 年度） 教養講座 アンケート集計	57
令和 6 年度（2024 年度） 教養講座 アンケート集計	64
令和 5 年度（2023 年度） 尾道学入門 アンケート集計	75
令和 6 年度（2024 年度） 尾道学入門 アンケート集計	84
令和 5 年度（2023 年度） コンピュータ公開講座 アンケート集計	96
令和 6 年度（2024 年度） コンピュータ公開講座 アンケート集計	99
令和 5 年度（2023 年度） 情報科学研究会 アンケート集計	103
令和 5, 6 年度（2023, 2024 年度） 尾道文学談話会 テーマ一覧	105
尾道市立大学教員 FM おのみち出演 トークテーマ一覧	108

受託研究

受託研究等一覧表	109
----------	-----

メディア掲載

中国新聞令和 5 年（2023 年）7 月 22 日掲載	110
尾道新聞令和 7 年（2025 年）3 月 5 日掲載	111
尾道市立大学ホームページ令和 6 年（2024 年）9 月 12 日掲載	112
尾道市立大学ホームページ令和 6 年（2024 年）11 月 25 日掲載	113

地域学修

地域学修報告一覧	114
地域学修の風景	122

地域学修紹介

昔話資料集『芸備の昔話』の輪読記録 －二〇二四年度伝承文学専門演習 b の報告より－ 尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授 藤井 佐美	[2]
--	-------



尾道酒を求めて – 2023年度「吉源酒造場」フィールドワーク報告 –

尾道の「顔」研究会
藤本 真理子・吉田 宰・森本 幾子

1. はじめに

2023年度、尾道の「顔」研究会は、次の内容でフィールドワークを実施した。

- 実施場所：吉源酒造場（広島県尾道市三軒家町 14-6）
- 実施日時：2024年2月7日（水）13:00～16:00 ごろ
- 実施内容：学生3名、教員3名で訪問。酒造場内で、かつてお酒が造られていた場所や道具を見たり、蔵のこれまでの歴史について説明を聞いたりした。



2. 酿造場内の見学

かつて稼働していた醸造場内を、当主の吉田均氏に案内してもらひながら、さまざまな部屋や道具をはじめ、施設を見せていただいた。部屋はそのままに残されているところも多く、大勢が酒造りを行っていたであろう光景が眼前に立ち現れるようであった。

以下、見学の際に見せていただいたいくつかの部屋について記録もかねて記す。



(醸造場へ向かう通路)

醸造が、非常に科学的な側面をもつものであることが次のような部屋の存在からもわかる。



(試験室)



(検査室 (手前) と手洗室)

また、寝室や手洗い等が集団に向けて用意されていたことから、リーダーである杜氏のもと、酒造りが多く人の手による協同作業であったことが再確認できる。



(杜氏室)



(寝室)

これらの部屋のある2階中央には、当時用いられていた道具も置かれていた。

(ため桶、暖気樽、金属製暖気樽などの道具)



醸造場の2階には、他に酒造りの重要な場所である「醸室（もとむろ）」や「麹室」の名残があった。どちらも温度管理が肝となる部屋として知られている。ちなみに、「醸室」に見える「醸」は、漢字の成り立ちからも「酒の元」であることがわかるものであり、日本でできた漢字（国字）の一つである。



(醸室)

3. 麹室の保存状況

麹室は、現在も当時を十分にしのばせる保存状況であった。



(麹室入り口)



(麹室内部)



(麹室 天井)



(醸造場 2階部屋中央天井)

麹室の天井には、温度や湿度を適切に保てるような天窓がとりつけられていたこともうかがえ、壁には「添・伸・留」といった仕込みの工程で使用される種麹の量が記された「種麹使用表」の紙も貼られていた。

なお、天窓に関する、酒造場内には1階から2階へ吹き抜けになっている場所もあり、醸造工程で発生する蒸気を効率よく逃がすための工夫が随所にみられる。

4. まとめ

かつては因島にかまえていた蔵を、船を使って移築し、現在の地にあるとのお話をうかがった。訪れた吉源酒造場の鬼瓦として帆立瓦が使われており、その様子を伝えるものとも考えられる。



(帆立瓦)



(商品名を記した看板)



(酒造場の入口付近に置かれた酒樽)

今回、学生とともに吉源酒造場に訪れ、内部の様子や当時の写真を見せていただくことができ、尾道にあった酒造の様子の一つを知る機会となった。江戸期には「古き名産」(『橋本年誌』文政8年条)とも紹介された尾道酒だが、現在は、酒造そのものが行われなくなっている。かつてを辿る手がかりとなる貴重な情報をさまざまに見せていただいた。

謝 辞

本稿をなすにあたって、吉源酒造場の吉田均ご夫妻には格別のご協力を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

本研究は、令和5年度尾道市立大学学長裁量教育研究費の助成を受けたものです。

尾道市立大学 教養講座について

尾道市立大学では、地域に開かれた大学をめざし、教育研究活動の一端を地域に還元することを目的として、毎年秋にオムニバス形式の「教養講座」を開講しています。

本書には、令和5、6年度（2023、2024年度）に対面開催された講座の研究論文・要旨論文を掲載しております。



宮谷 聰美 (みやたに さとみ)

博士（文学）（早稲田大学）。『伊勢物語』を中心に、歌物語史という視点から作品相互の関係を考え表現を読み解く研究を行う。著書に『歌物語史から見た伊勢物語』（新典社、2022年）、共編著書に『狭衣物語が拓く言語文化の世界』（翰林書房、2008年）、『古今和歌集卷二十一注釈と論考一』（新典社、2011年）、『学びを深めるヒントシリーズ 伊勢物語』（明治書院、2018年）、『学びを深めるヒントシリーズ 枕草子』（明治書院、2020年）がある。

『源氏物語』を読んでみる - 「帚木」巻 -

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授
宮谷 聰美

1. はじめに

『源氏物語』五十四巻のうち二番目の「帚木」巻には、十七歳の光源氏が登場する。前半はいわゆる「雨夜の品定め」であり、後半には光源氏と空蟬の物語が描かれている。一見大きく異なる内容の両者が、なぜ一巻にまとめられているのか。女性作家が描いた雨夜の品定めに込められた意図とともに考えてみたい。

2. 光源氏の紹介

「帚木」巻冒頭には、光源氏の紹介にかかわる仕掛けとして引用表現がちりばめられている。

光源氏、名のみことごとしう、言ひ消たれたまふ咎多かなるに、いとど、かかるすき事どもを末の世にも聞きつたへて、軽びたる名をや流さむと、忍びたまひける隠ろへごとをさへ語りつたへけん人のもの言ひさがなさよ。さるは、いといたく世を憚りまめだちたまひけるほど、なよびかにをかしきことはなくて、交野の少将には、笑はれたまひけむかし。

まだ中将などにものしたまひし時は、内裏にのみさぶらひようしたまひて、大殿には絶え絶えまかでたまふ。忍ぶの乱れや、と疑ひきこゆることもありしかど、さしもあだめき目馴れたるうちつけのすきずきしさなどは好ましからぬ御本性にて、まれには、あながちにひき違へ心づくし

なることを御心に思しとどむる癖なむあやにくにて、さるまじき御ふるまひもうちまじりける。

光源氏は、「光」という大仰な名で呼ばれるが過ちが多く、色恋沙汰が噂になるのではないかと本人が隠していることまで語り伝えた人の口さがなさ、と自らの語りを相対化しつつ、その実、色好みで有名な交野の少将に笑われるほど真面目にふるまい、面白い話もないという。さらに、結婚したばかりの葵の上のもとへも足は途絶えがちで、忍んで通う女でもいるのではないかと疑われることもあったが、ありふれた浮気などは好まない性分である。そうはいってもまれには気苦労なことに執念を燃やし、あってはならないふるまいが混じることもあったと続く。

「忍ぶの乱れ」は『伊勢物語』初段^(注1)をふまえ、色好みの在原業平らしき青年の初々しい恋のイメージを「忍ぶ恋」のイメージに反転させていく。さらに、この行きつ戻りつする文脈は、唐代小説『鶯鶯伝』冒頭部の、主人公張生の紹介文の翻案であることが指摘されている^(注2)。

貞元(785-805)の頃、張という書生がいた。性格はおだやかで、容姿端麗だったが、志操堅固で、礼に適わなければ、見向きもしなかった。(中略)二十三歳の今まで、まだ色香を近づけたことがなかった。それを知っている者が冷かすと、弁解して言った。「好色で有名なあの登徒子は、色好みというのではなく、単なる淫乱にすぎない。私こそ真の色好みなのだが、たまたま理想の美女にめぐり合っていないだけだ。なぜ真の色好みかといえば、およそ世のすぐれて美しい者には、必ず心を引かれ、執着するからだ。これで私が情のない男ではないことがわかるだろう。」それで冷かした者は、納得するのだった^(注3)。

登徒子は、宋玉「登徒子好色賦」(『文選』十九卷)に登場する人物である。宋玉を非難して、「体貌閑麗にして、口に微辞多く、又性色を好む」^(注4)、つまり、姿・形は美しく、ことばが巧みで、そのうえ色好みであるという。宋玉は、自分は隣家の絶世の美人から三年越しに恋い慕われても受けいれなかったのに、登徒子は醜女の妻を愛している好色者だと答える。「登徒子好色賦」は、『万葉集』にもこれをふまえた歌があるほどはやくから日本で流行したものであるが、この「体貌閑麗」という表現は在原業平の卒伝(『日本三代実録』元慶四年五月二十八日)に用いられていることでも有名である。

業平は体貌閑麗、放縱にして拘らず。略才学無けれども、善く倭歌を作る。

業平は、すがたかたちが美しく、勝手気まで、こだわらない。あまり漢学の才はないけれども、すぐれた和歌を作るというのである。業平が美男であったと言われるのは、この記事によっている。

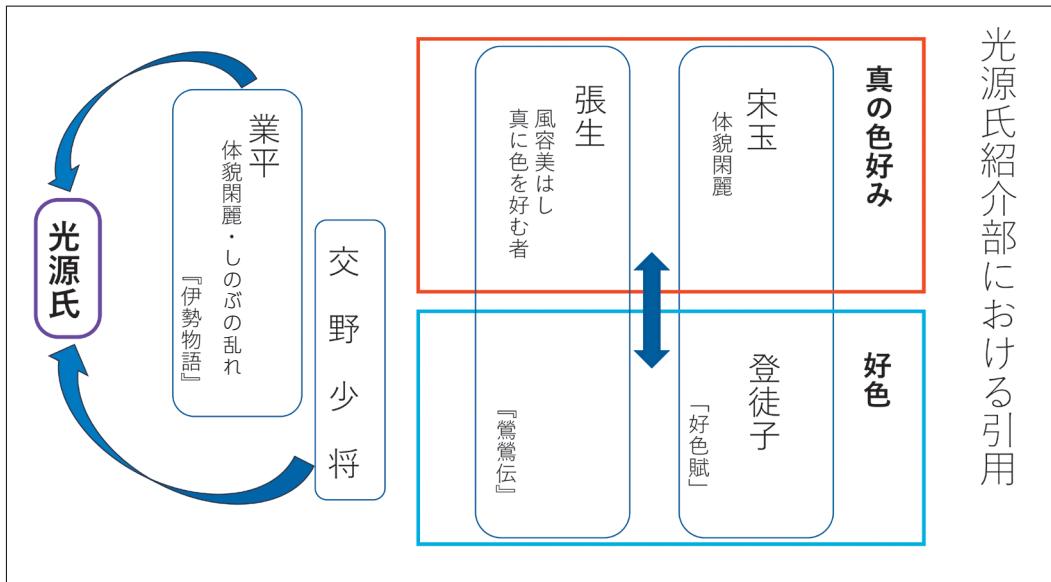
つまり、「帯木」巻冒頭部は、光源氏を張生に、交野少将を登徒子に置き換えて、「源氏はとかくの悪い噂があるが、本人はまじめで、出来心の浮気は好まず、その道で名高い交野少将には笑われそうだが、しかし、時にはうって変って、気苦労なことに執念を燃やして、とんでもない行動に出る癖があるのは困ったものだ」といっていることになる^(注5)。

ふりかえれば、『源氏物語』「桐壺」には、

心の中には、ただ、藤壺の御ありさまをたぐひなしと思ひきこえて、さやうならん人をこそ見め、似る人なくもおはしけるかな、大殿の君、いとをかしげにかしづかれたる人とは見ゆれど、心にもつかずおぼえたまひて、幼きほどの心ひとつにかかりて、いと苦しきまでぞおはしける。

と、心の中で、義理の母である藤壺の御有様だけをこの世に類いのない方と慕い、このような方をこそ妻にしたい、左大臣家の姫君である葵の上は、いかにも美しげで大切に育てられた人とは思われるけれども、心がひかれないという光源氏の思いが描かれていた。

光源氏は、このように重層的な引用によって造型されているのである。



3. 雨夜の品定め

梅雨のある晩、宮中に光源氏、頭中将(宮の中将)、左馬頭、藤式部丞が集まり、雑談となる。雨夜の品定めと呼ばれるものである。まず、頭中将が、上流階級の家に生まれた女は大事に世話をされ、様子がすばらしいのは当然であり、下流の女は問題外であるが、中流の女は性格、考え方や好みなどに個性が現れると言う。

その後は左馬頭の体験談となる。若い頃好きだった女は、不得手なことでも努力をして世話をしてくれ、優しく素直な性格だったが、容姿が優れていたわけでもなかったので物足りず、他の女のものとへ出かけていたのをひどく嫉妬するので煩わしく思い、暫くは懲らしめてやろうと意地を張っていたところ、女が気に病んで亡くなってしまったのはかわいそうなことをした(指喰いの女)。その時通っていた別の女は、歌も字も琴もうまく、品があってきれいだったので惚れていたが、少し派手で思わずぶりだと思っていたら、他の男を通わせていた(浮気の女)。

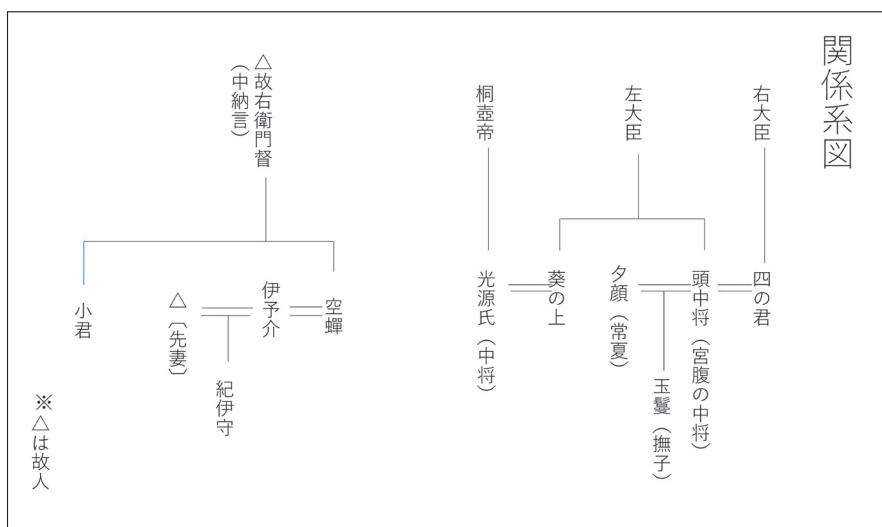
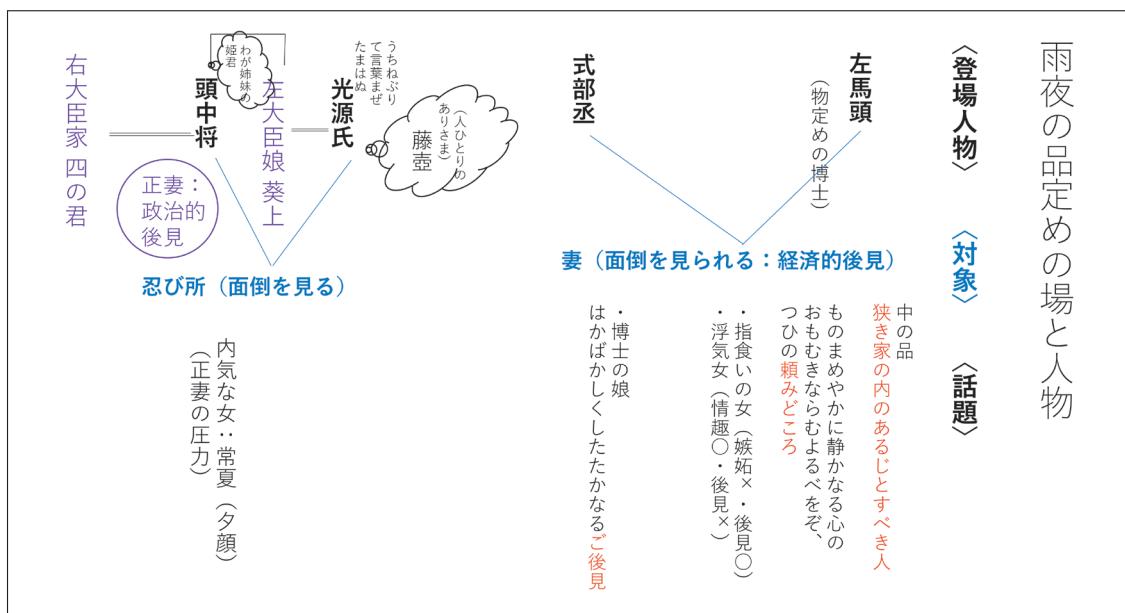
頭中将の体験談は、親もなく心細そうで、自分だけを頼りにしている様子が可憐な女の話である。おとなしいので安心して訪ねずにいると、幼い子供などもいたので女は思案にあまってなでしこの花を折って手紙を送ってきたが、遠慮がちで恨めしく思っている様子も見せないため、気を許して暫く放っておいたら、行方不明になってしまった。自分の正妻が嫌がらせをしていたことを後で知った(内気な女一タ顔)。

藤式部丞の体験談は、自分が文章生だったときに通っていた博士の娘の話である。この女は、寝覚めの折の睦言(むつこと)にも公務に役立つようなことを教えてくれ、手紙もみごとな漢文で寄越すので、自分は心を許すことができなかった。無沙汰をした後に立ち寄ると物越しの対面であったが、すねているのではなく悪臭のする薬を飲んだ後だからだと理路整然と話す賢女である(博士の娘)。

左馬頭が「狭き家の内のあるじとすべき人」「つひの頼みどころ」、式部丞が「はかばかしくしたかなるご後見」として語ったように、従五位上相当の馬寮の長官である左馬頭と、六位相当の式部省の三等官である式部丞にとって、女を探すということは則ち妻を選ぶことである。彼らは経済的な後見をしてもらう側、面倒を見られる側であり、その選択には将来の出世がかかっている。

光源氏は居眠りをしながら聞いていて、頭中将はそれを物足りない気持ちで見ているのだが、その背景には、光源氏が妻である葵の上、すなわち頭中将の妹である葵の上に気持ちが向いていないことがある。しかし、夕顔を失踪へと追い込んだ頭中将の妻もまた右大臣家の四の君であり、妻を物足りなく思っている点で同じである。光源氏と頭中将は従四位下相当の近衛中将、いわば将来を約束された花形の官職に就いている。正妻は元服と同時に定められた妻であり、その実家に政治的に後見される立場である。二人の興味は、あくまで優位な立場から自分が面倒を見る、忍び所として通う女に対するものなのである^(注6)。

左馬頭が、女は気どったり風流がったりせず、自分の知り尽くしていることも知らぬふりをし、言いたいことも全部は言わないのが良いのだと言うのにつけても、光源氏は「ただ人ひとりの御あります」、すなわち義理の母である藤壺を、過不足のない優れた方と思い続け、胸の塞がる思いである。



4. 空蟬

翌日、宮中から退出して久しぶりに葵の上の実家である左大臣家に出かけた光源氏であるが、方角が悪く、左大臣に仕える紀伊守邸へ方違えに行く。光源氏は高飛車な態度で女の接待を要求し、紀伊守の義理の母、すなわち、紀伊守の父、伊予介の若き後妻である空蟬に興味を示す。人々が寝静まるのを見計らい、光源氏は空蟬のもとに忍び、契る。泣く空蟬に、光源氏は、まるで男女の仲を知らないようななつれなさだと思いを訴える。空蟬は、結婚前の身なら身分不相応であってもいつか人並みに扱ってもらえるかもしれないと思って心を慰めることもできただろうが、このような扱いを受けるのは心外であり、口外しないではほしいと言って嘆く。かつて入内の話もあった空蟬は、不本意な現在の境遇を思い知らされるのである。

光源氏は空蟬の弟の小君を手なずけ、空蟬と会う機会を作つて出かけるが、二度と会わない決心をしている空蟬は女房のいる部屋に移動して光源氏を避ける。そこで光源氏の贈った歌と、一睡もできずにいた空蟬の返歌は次のようなものである。

「そのはら
帯木の心を知らで園原の道にあやなくまどひぬるかな

(帯木のように近寄つてみると消えてしまうあなたの気持ちも知らずに近づこうとして、わけもわからず園原の道に迷つてしまつたものです。)

「数ならぬふせ屋に生ふる名のうさにあるにもあらず消ゆる帯木

(一人前に数えられないふせ屋に生えるという評判のつらさに、いるにいられず消える帯木です、私は。)

この贈答歌には、

「園原やふせ屋に生ふる帯木のありとは見えてあはぬ君かな

(『新古今和歌集』恋一・平定文家歌合 坂上是則・997)

がふまえられていると見られる。この歌が勅撰集に採られたのは『新古今和歌集』が初であるが、『平中物語』の主人公と伝えられる平安前・中期の歌人、平定文の家で行われたとされる「左兵衛佐定文家歌合」(28)、『古今和歌六帖』(五・来れど会はず・3019)には四句「ありとてゆけど」というかたちで見える、有名な歌である。

「帯木」は、信濃国園原の森に生えていた樹木のことである。遠くからは見えるが近づくと見えなくなるという伝説が、顕昭の書いた『袖中抄』という歌論書などに見える。「園原」は美濃国との境、御坂峠の東側のふもとの地名である。東山道の交通の要所で古来から難所として知られていた。「ふせ屋」は「園原」にある地名「伏屋」とも考えられるが、もともとは「卑しく粗末な小屋」の意味であり、同音の「布施屋」は、奈良・平安時代に旅行を強制された人々を宿泊させ、食事を提供了した施設であるとされる。そのことから、「光源氏の旅寝の慰みものとしてもあそばれるしかない、受領の妻としてのはかない身の上」を詠んだものと見、「帯木」巻の構成を、男たちの世間話による女の「名」(評判・うわさ)の物語である前半の「雨夜の品定め」と、「名の憂さ」に苦悩する女の内面の物語である後半の「空蟬物語」との対照を際立たせるものと見ることもできる(注7)。

5. おわりに

「帚木」卷には、数々の仕掛けが施されている。

恋愛物語の始発としての光源氏の紹介には、伝説の色好みである、「好色賦」の宋玉、『鶯鶯伝』の張生、『伊勢物語』の在原業平という美しく魅力的な若者像を打ち出しつつ、それらの人物と対照される登徒子や交野少将と同列に扱われることの否定によって、光り輝くような恋物語の主人公像を反転させ、真剣な恋心を秘めていることが示されている。

「雨夜の品定め」は、光源氏が中の品の女への興味を抱くきっかけであることは言うまでもないが、青年たちの内輪の好き勝手な女性評に見えて、その実、彼らの置かれた状況を提示する場なのである。

「帚木」卷後半は次の「空蟬」卷と一続きの物語であるのにもかかわらず「空蟬物語」は分断され、「帚木」卷は雨夜の品定めと空蟬との交渉を描く一巻としてまとめられている。ここには現代的な感覚とは異なる物語の法則が働いているのかもしれないが、男性視点の雨夜の品定めを相対化する、女性視点の空蟬物語が一巻として構想されていることは確かであろう。そして、この後に展開する物語によって、雨夜の品定めで提起された問い合わせに対するさらなる答えが示されていくのである。

引用本文

『源氏物語』は阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男『新編日本古典文学全集 源氏物語①』(小学館、1994年)、『伊勢物語』は福井貞助『新編日本古典文学全集 伊勢物語』(小学館、1994年)、『日本三代実録』は黒板勝美・国史大系編修会『国史大系』(吉川弘文館、1971年)、和歌は『国歌大観』(日本文学 Web 図書館 2022.2-) により、一部表記を改めた。

注

- (1) 「春日野の若紫のすりごろもしのぶの乱れかぎり知られず」(春日野の若い紫草のようなあなた方に、私の心は信夫摺の模様のように限りなく乱れています) という歌がある。
- (2) 今井源衛『新編日本古典文学全集 源氏物語①』「漢籍・史書・仏典引用一覧」(小学館、1994年)
- (3) 竹田晃編・黒田真美子編著『中国古典小説選5 枕中記・李娃伝・鶯鶯伝他〈唐代II〉』(明治書院、2006年)
- (4) 小尾郊一『全积漢文大系 文選(文章編)二』(集英社、1974年)
- (5) (2) 前掲書。
- (6) 平野美樹「『雨夜の品定め』考—女を語る男の事情—」(『日本文学』52-6、2003年6月)
- (7) 水野雄太「『源氏物語』帚木卷論—巻末贈答歌と「名」をめぐる物語—」(『学芸国語国文』51、2019年9月)



地域社会が変わるとき －江戸時代尾道を訪れた旅人の役割－

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科教授
森本 幾子

本講座では、尾道久保町に残された旅人の滞留願¹から、近世後期（文化15年（1818）～天保13年（1842）の期間）に尾道を訪れた旅人を、「行商」「医療関係者」「芸能者」に分類し、それぞれの特徴と尾道の地域社会との関わりについて紹介した。

講座内容は、2018年10月の教養講座で話したものとほぼ同様であるため、ここでは、今回の講座で新たに考察したことを中心に紹介したい²。

ちなみに、ここでいう旅人とは、現在のいわゆるトラベラー（旅行者）のことではなく、行商人のことを指す。近世・近代期においては、店舗を所有する者より行商をする者の方が圧倒的に多かった³。行商人のなかには、例えば近江商人のように、都市部に店舗を構え、取引先の新規開拓のため、全国に奉公人を派遣する商人が存在する一方、都市部の裏長屋などに暮らす者や農村部では土地を手放した者たちが、それぞれ零細な行商人となって全国を行脚する場合も多かったのである。

今回は、これら尾道を訪れた旅人（行商人）たちの滞在手続きに焦点を当てて紹介する。

1 「文化十五年戊寅三月 久保町逗留願扣 久保町組頭徳平 文政甲申正月改名猪右衛門」「文政十三寅十一月ヨリ旅人滞留願扣 久保町組頭役 傳右衛門」（広島県立文書館所蔵青木茂氏旧蔵文書200004-166-1、200004-166-11）。

2 なお、2018年10月の教養講座および本講座の詳細については、「近世尾道における地域活性化と来訪者の力－行商人・芸能者・医療関係者」（『尾道市立大学地域総合センター叢書』No.10、2019年）および「近世後期尾道における消費活動と旅人－来訪者の受容と地域社会の変容－」（『尾道市立大学経済情報論集』第23巻第1号、2023年6月）をそれぞれ参照されたい。

3 明治29年（1896）の広島県では、小売商総戸数のうち、常設店舗を持つ商人は38.2%、行商が60.3%、露天商が1.6%であった。都市部などでも店舗を構える商人は一部で、多くは行商が庶民の商品需要に応えていたのである（中西聰編『経済社会の歴史 生活からの経済史入門』名古屋大学出版会、2020年）。

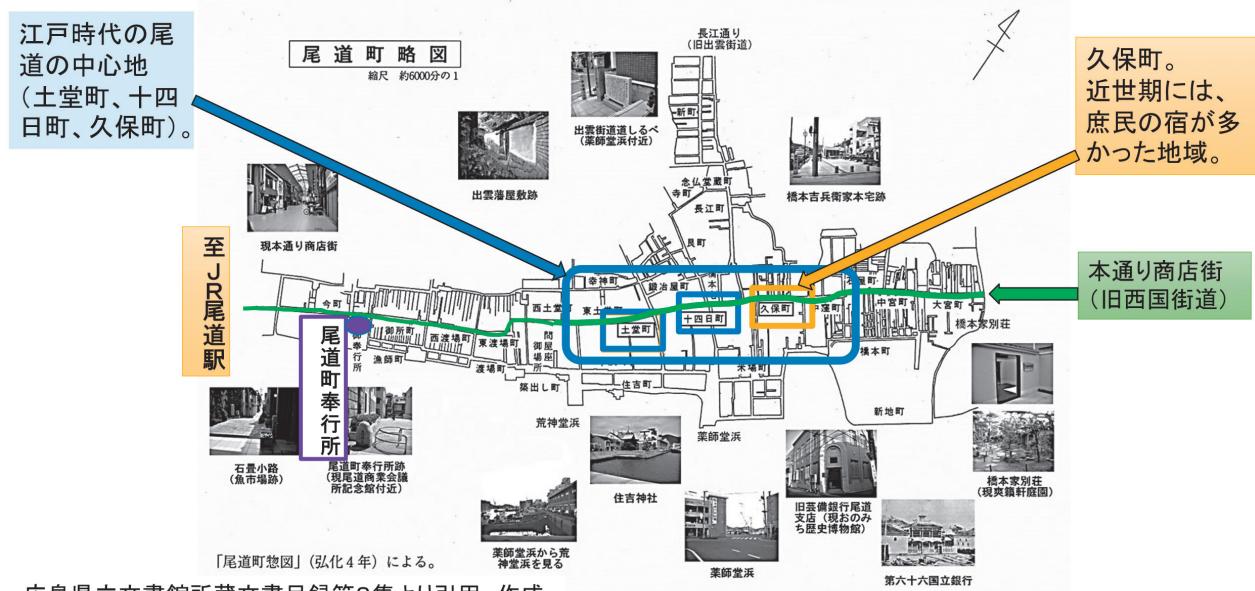
1. 尾道久保町の宿

現在、われわれが仕事や旅行で尾道を訪れ、尾道市内のホテルに宿泊したとしても、尾道市役所や広島県庁に逐一届け出る必要はない。しかし、全国の往来がフリーパスではなかった近世期においては、旅人たちは行政機関の厳重な管理体制の下にあった。したがって、全国から訪れる旅人を管理し、町の治安を守るための宿屋は、きわめて重要な役割を担うこととなったのである。

近世期尾道の中心部は、土堂町、十四日町、久保町の三町周辺で（図1参照）、これらの町は西国街道に面し、政治的にも経済的にも重要な地域として認識されていた。本学でも教鞭をとられ、また『新修 尾道市史』（全六巻）をまとめた青木茂氏は、昭和11年（1936）に執筆した論考⁴のなかで興味深い指摘を行っている。一部引用し紹介しよう。

（前略）当時の尾道は久保町のほかに十四日、土堂の二町があり、さらに現在尾道市の区域でいへば、さらにこの三町のほかに後地村があった。土堂町は町奉行所屋敷があり、かうした種類の旅宿の遠慮したい区域であつたらう。十四日町は浜商人の一画、相手は四国、九州、山陰、北国地方の商人や舟宿である。そこで第三階級の旅商人は、主に久保町、後地村に宿を求めたものではなかつたか（後略）。

青木氏によると、土堂町は尾道町奉行所（広島藩が尾道支配のために設置した役所。浅野家家中の者が広島城下から尾道町奉行として赴任する。身分は武家。）が存在していたため、行商人などの宿泊は「遠慮」すべき場所であり、十四日町は、浜商人つまり大店の商家が立ち並び、北前船や諸国の廻船を相手に盛大な商取引を行っていた場所であったため、行商人のような立場の者は、久保町か後地村に滞在したことが想定されている。尾道中心部であっても、それぞれ階層による住み分けが存在してい



広島県立文書館所蔵文書目録第8集より引用、作成。

図1 江戸時代後期（19世紀）の尾道市中心部絵図

4 青木茂「文政年代木質ホテル考現學」（『備後史談』第12巻第12号（備後郷土史会、昭和11年（1936）11月15日発行、備後郷土史会）

たようである。当該期の史料^(注1)によると、久保町には合計12軒の宿屋があり、諸国からの旅人がこれらの宿に分かれて滞在していた。

2. 旅人滞在の手続き（チェック体制）

尾道に入った旅人は、まず、宿主に対して添状を提出した。添状は紹介状の意味を有し、身元が不確かな者でないことを証明するための書類である。滞在を希望する旅人から添状を受取った宿主は、肝煎を取次として、久保町の組頭に旅人の逗留願を提出し、最終的には組頭から尾道町年寄に上申された。その後、問題が生じた際には尾道町年寄から尾道町奉行所に上申され、尾道町奉行所から何らかの沙汰が下されたと考えられる。

これらの手続きは、寛政5年（1793）になると、旅人の一宿目については、これまでの通り町役所（尾道町年寄管轄）に対する届け出を必要とし、二宿目以降については、宿主が逗留願を認め、それを年行司と肝煎格が吟味の上、各町の組頭に提出することとなった⁵。本講座で使用した史料^(注1)は、寛政5年の取り決めで、旅人の最終チェックを行うこととなった久保町の組頭に残された「控」であるため、現物はまとめて尾道町年寄に提出された可能性が高い。つまり、当時の尾道町の支配の論理にしたがって旅人の管理が行われていたといえるだろう。

旅人の逗留機関は、短い日程で三日間、長期になると約一年にも及び（最初に申請した日程を超過する場合は、新たに「追願」を申請する必要があった）、長期滞在の場合は、尾道豪商たちが所有する借家にて生計を立てる者も存在した⁶。

3. 違反者たちへの重い咎－旅人の尾道出禁、宿屋の営業停止処分－

尾道を訪れた旅人のなかには、何らかのトラブルを発生させた咎によって、それ以後の尾道出入りを禁止された者も存在した。例えば、石州（現在の島根県）大森から尾道を訪れた「読売」の虎吉なる者は、尾道で問題を起こしたため、「尾道町徘徊差留」「一夜泊りも不相成趣」が、尾道町奉行所の役人から尾道町全体を管轄する尾道町年寄（橋本吉兵衛）に申し渡されている⁷。

また、宿屋による「不法」も尾道町奉行所から厳しく罰せられた。宿屋の「不法」とは、多くは旅人を「無願」つまり無許可で宿泊させ、上記の手続きを怠ったことによるものである。例えば、久保町の宿主であった灰屋久兵衛や金沢屋平八は、それぞれ文政元年（1818）12月26日～翌文政2年（1819）4月4日の間、文政2年7月3日～翌文政3年（1820）正月16日まで、「宿屋職御取上」つまり営業停止処分となっている⁸。約4ヵ月から半年間の営業停止は、他に稼業のない宿屋にとっては厳科である⁹。

ただ、このような宿屋の営業停止は、旅人の滞在先確保や治安の問題が発生したためか、組合の者や同業者から尾道町年寄に対し（その後、尾道町年寄から尾道町奉行所へ上申）、処罰された宿屋のために営業再開の嘆願がなされている。実際は、煩雑な上申手続きを行わず、無許可で滞在させたケー

5 「尾道宿屋逗留につき会所触」（寛政五年）（『新尾道市史 資料編 近世』尾道市、2022年、203頁～204頁）。

6 注1に同。

7 「覚」（広島県立文書館所蔵橋本家文書8806-2629）。

8 注1に同。

9 「諸国商人宿差止解除の願書」（文政三年）『新尾道市史 資料編 近世』204頁～205頁。

スも多かったことが予想されるが、尾道町奉行所にとっては、直接尾道町の支配に抵触するため、このような「不法」を容認することはできなかった。

以上、講座内容のうち、近世後期尾道における旅人の管理機能を中心に紹介した。一部例外（宿屋に宿泊しない者など）も存在したであろうが¹⁰、おおむね尾道町奉行所、尾道町年寄、各町の役人（組頭、年行司、肝煎格）、宿屋の管理の下で旅人は尾道での滞在が可能であった。近世後期には、全国から訪れる旅人と尾道の住人のトラブルも増加しており、旅人の管理は、尾道町の支配と大きく関わるがゆえに、尾道町奉行所にとっても深刻な問題だったのである。

10 宿屋の外でも、他所（尾道以外）から親類・縁者が訪れた際や、問屋・仲買の所で取引終了後も滞在する者については、引請主や問屋・仲買からそれぞれ滞在者のための滞在願書を各町の組頭に提出する必要があった（注5に同）。

西村 有未 (にしむら ゆみ)

1989年東京都生まれ。2019年京都市立芸術大学大学院 美術研究科博士（後期）課程 美術専攻研究領域（油画）修了。近年の主な展覧会に「岸む音 / 際の上 Murmuring Shores / On the Brink」（尾道市立大学美術館、広島、2024）、「犬石物語 (I still live there)」（FINCH ARTS、京都、2023）、「Kyoto Art for Tomorrow 2022 - 京都府新鋭選抜展 -」（京都文化博物館、京都、2022）、「絵画の見かた reprise」（√k Contemporary、東京、2021）、「Encounters in Parallel」（ANB Tokyo、東京、2021）、「第3回 CAF賞」（3331 Arts Chiyoda、東京、2017、審査員賞「保坂健二朗賞」受賞）、「コレクション」高橋龍太郎コレクション、KANKURO UESHIMA COLLECTION、山梨学院大学など。



油彩技法とその変遷

尾道市立大学芸術文化学部美術学科油画コース准教授
西村 有未

講座概要

油彩画を中心とした絵画鑑賞では、図像や物語の背景、さらには作者の意図など、「何が描かれて いるか」に注目が集まりがちである。本講座では、「どのような素材を用い、いかに描かれているか」という技法的側面に関心を促すため、技法と素材の歴史的変遷を簡略的に紹介した。

油彩画は「顔料 + 乾性油 + 画溶液 + 支持体」という基本構成によって成立する。例えば、絵具に着目して歴史的変遷を振り返ると、機械化以前は画家の弟子や職人が修行の一環として手作りしていた。しかし、十八世紀中頃以降には画家組合に加入できなかった者や無名の画家が絵具屋を創業し、製造が専業化した。十九世紀には金属製チューブが考案され、充填作業効率化のため使い捨てチューブも試行され、二十世紀にはアルミニウム製チューブが実用化されて絵具の安定供給と携帯性が飛躍的に向上した。なお、金属チューブが誕生する以前は、豚の膀胱袋が利用されている、支持体も板絵から帆布へと移行し、木枠の普及によって大画面制作が可能となった。このような技術的革新は、絵画の表現方法にも大きな影響を与えた。なお、油彩技法は古くからヨーロッパで確認されてきたが、近年はバーミヤンの壁画（西暦六五〇年頃）にも油彩層が発見され、従来の通説は再検討を迫られている。

油彩絵具は、水性絵具のように揮発せず厚みを保持する構造を持つため、絵肌（マチエール）の多様化を促し、厚塗りや混合技法など表現領域を拡張している。一方、古来より絵画は物語画とともに発展してきた経緯があり、物語の伝達を目的とする作品には「滑らかな仕上がり」が求められて

きたため、絵具の物質性が前面に押し出されることは少なかった。しかし、様々な技法や画材の誕生とともに絵画の役割やアカデミックな価値観が揺らぐ中で、画家は絵画の物質性に着目し、その特性を生かした表現や自己言及的態度へ向かうようになった。また、二十世紀の一部画家のスタジオ写真からは、キャンバスを壁掛けでなくテーブルや床に置いて制作する姿勢が確認でき、「描く」から「作る」へと意識が誕生したことがうかがえる。第二次世界戦後、以上のような動向はより加速する。

以上のような講義内容の後、受講者には現行の画材・描画材道具を実際に見てもらった。展示で目にする油彩画がどのような物質から構成されているのかを、現実味をもって体験できたはずである。限られた時間ではあったが、油彩技法の歴史的変遷を概観し、講義後に現行の画材や道具に触れる機会を設けたことで、絵画を物質性の観点から再考する視座を提供した。この視点の導入により、今後の受講者の鑑賞体験がいっそう豊かなものになることを願う。

〈参考文献〉

- グザヴィエ・ド・ラングレ 『油彩画の技術 - 増補・アクリル画とビニル画』 黒江光彦（訳）， 美術出版社， 1974年
- クヌート・ニコラウス 『絵画学入門』 黒江光彦+大原秀之（訳）， 美術出版社， 1985年
- R.J. ゲッテンス， G.L. スタウト 『新装版 絵画材料事典』 森田恒之（訳）， 美術出版社， 1999年
- 「世界最古の油絵はバーミヤンの壁画？調査結果」 AFPBB News, 2008年, <https://www.afpbb.com/articles/-/2341645> (参照日：2025年4月1日)

南郷 肅 (なんごう つよし)

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科教授。IT関連企業の研究開発部門、防衛省・自衛隊の高等学校相当の学校、高等専門学校を経て現職。研究分野は、数学教育、情報教育です。高等学校から大学教養課程程度の数学や情報科学を対象として、数学や情報科学と他学問の関連を図る教育のあり方をテーマに研究しています。最近は、データサイエンスを踏まえた数学と情報科学の関連を図る教材、高校生の探究活動を支援する教材の開発を進めています。



安心してインターネットを楽しむために －情報セキュリティの基本－

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科教授
南郷 肅

本稿は、令和6年度尾道市立大学教養講座での講演内容をまとめたものである。この講座は、情報セキュリティ上の脅威として、ランサムウェアによる攻撃、標的型攻撃、フィッシング、サポート詐欺、ロマンス詐欺を取り上げ、利用者がこれらの脅威への対策を理解し、実践できるようになることを目的とした。本稿では、これらの攻撃手法の多くがメールやSNSのメッセージを端緒としていることを確認し、利用者が実施できる対策について述べる。

キーワード：情報セキュリティ、利用者による対策

1. はじめに

本稿で取り上げる情報セキュリティ上の脅威とその対策は、2024年10月時点のものである。情報セキュリティ上の脅威は日々変わっていく。本稿で述べる対策は、2024年10月時点では有効であるが、将来にわたって有効とは限らないことに注意する。また、本稿で述べる対策は、利用者個人が実施する対策である。所属する組織等で攻撃を受けたときの対応が定められている場合は、本稿ではなく所属する組織等が定めた通りに対応されたい。

本稿は、令和6年度尾道市立大学教養講座での講演内容をまとめたものである。内容は、筆者が尾道市立大学で担当している「情報セキュリティ講習会」の中の、インターネット利用者に関する部分である。インターネット利用者向けの情報セキュリティの啓発であり、管理者向けの技術的な内容には言及しない。

さて、令和6年版情報通信白書^[1]によると、2023年の個人のインターネット利用率は86.2%で

ある。また、年齢階層別の利用率は表1に示すとおりである。

表1 年齢階層別インターネット利用率（2023年）

年齢階層	利用率	年齢階層	利用率
6～12歳	89.1%	50～59歳	97.2%
13～19歳	98.7%	60～69歳	90.2%
20～29歳	98.4%	70～79歳	67.0%
30～39歳	98.9%	80歳以上	36.4%
40～49歳	98.1%		

出典：総務省「令和6年版情報通信白書」を基に作成

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/html/nd21b120.html>

表1からわかるように、70歳以降では利用率が低下するものの、ほとんどの世代で90%以上の人がインターネットを利用している。特に、中学校入学から60歳ごろまでの世代では、ほぼすべての人がインターネットを利用している状況がある。このように、誰もがインターネットを利用している時代である。裏を返せば、誰もがインターネットを通じた攻撃のリスクにさらされていると言える。

数年前までは、インターネットを通じた攻撃は、利用者にとってどこか遠くの世界の出来事であった。職場であれば情報システム部門が、自宅ではウイルス対策ソフトウェアが攻撃から守ってくれたため、利用者自身が情報セキュリティに多大な注意を払う必要はなかった。しかし、技術の進歩とともに新たな攻撃手法が次々と誕生し、現在では、情報システム部門やウイルス対策ソフトウェアだけでは攻撃を防ぎきれない状況になっている。

職場でよく見かける攻撃の例をあげる。職場で利用しているPCに、パスワード付きzipファイルが添付されたメールが届く場面を考える。パスワード付きのzipファイルは暗号化されているため、職場の情報システム部門のセキュリティシステムでは、zipファイルの中にマルウェアが含まれているかどうかを検査することはできない。もし、zipファイルの中にマルウェアが含まれていた場合、利用者がzipファイルを解凍して実行することでマルウェアに感染する。さらに、そこから職場全体に被害が拡大する危険性もある。しかし、利用者が、パスワード付きzipファイルを使った攻撃手法とその対策を理解し、適切な対策を実行していれば、この感染は防ぐことができる。

スマートフォンや自宅のPC利用時に目にする機会が多い攻撃の例をあげる。メールやSNSに届いたインターネット通信販売会社からのメッセージに、URLが記載されている場面を考える。もし、そのURLが通信販売会社のWebサイトに酷似した偽サイトであり、利用者が偽サイトと気づかず認証情報やクレジットカード情報等を入力してしまった場合、情報が詐取される。その後、詐取された情報が不正に利用され、金銭的な被害を受ける可能性がある。しかし、利用者がメッセージ中のURLをクリックさせる形の攻撃手法とその対策を理解し、適切な対策を実行していれば、この被害は防ぐことができる。

これらの攻撃は、情報システムやウイルス対策ソフトウェアでは防ぐことができない。これらの攻撃を防ぐためには、利用者自身が攻撃手法と対策を理解し、実際に対策を講じることが重要である。

本稿では、典型的な情報セキュリティ上の脅威として、ランサムウェアによる攻撃、標的型攻撃、フィッシング、サポート詐欺、ロマンス詐欺を取り上げ、利用者がこれらの脅威への対策を理解し、実践できるようになることを目的とする。

2. 情報セキュリティ上の脅威

本章では、2024年の情報セキュリティ上の脅威と、その攻撃の端緒について解説する。

情報処理推進機構は、毎年、情報セキュリティ上の脅威を公表している。「個人向けの情報セキュリティ 10 大脅威 2024」^[2]に基づき、それらの脅威と攻撃の端緒を表2にまとめる。

表2 情報セキュリティ 10 大脅威 2024（個人）と攻撃の端緒

番号	「個人」向け脅威（五十音順）	攻撃の端緒
1	インターネット上のサービスからの個人情報の窃取	フィッシング等
2	インターネット上のサービスへの不正ログイン	フィッシング等
3	クレジットカード情報の不正利用	フィッシング等
4	スマホ決済の不正利用	フィッシング等
5	偽警告によるインターネット詐欺	Web閲覧等
6	ネット上の誹謗・中傷・デマ	Web閲覧、SNS閲覧等
7	フィッシングによる個人情報等の詐取	メール、SNS等
8	不正アプリによるスマートフォン利用者への被害	Web閲覧、SNS閲覧等
9	メールやSMS等を使った脅迫・詐欺の手口による金銭要求	メール、SNS等
10	ワンクリック請求等の不当請求による金銭被害	Web閲覧、メール、SNS等

出典：情報処理推進機構「情報セキュリティ 10 大脅威 2024」を基に作成

<https://www.ipa.go.jp/security/10threats/10threats2024.html>

脅威の中で、メールやSNSのメッセージ等が攻撃の端緒となっているものは3つある。また、フィッシングで取得された認証情報が攻撃の端緒となる脅威は4つある。フィッシング自体も、メールやSNSのメッセージ等が攻撃の端緒となっている。結果的に、個人向け 10 大脅威のうち7つは、メールやSNSのメッセージが攻撃の端緒となっている。

続いて、「組織向けの情報セキュリティ 10 大脅威 2024」^[2]と、それぞれの攻撃の端緒を表3にまとめる。

表3 情報セキュリティ 10 大脅威 2024（組織）と攻撃の端緒

順位	「組織」向け脅威	攻撃の端緒
1	ランサムウェアによる被害	メール、不正アクセス等
2	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃	取引先の脆弱性等
3	内部不正による情報漏えい等の被害	構成員の悪意、システム管理の不備等
4	標的型攻撃による機密情報の窃取	メール等
5	修正プログラムの公開前を狙う攻撃（ゼロデイ攻撃）	システム管理の不備等
6	不注意による情報漏えい等の被害	攻撃に該当しない
7	脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加	システム管理の不備等
8	ビジネスメール詐欺による金銭被害	メール等
9	テレワーク等のニューノーマルな働き方を狙った攻撃	システム管理の不備等
10	犯罪のビジネス化（アンダーグラウンドサービス）	漏洩した情報

出典：情報処理推進機構「情報セキュリティ 10 大脅威 2024」を基に作成

<https://www.ipa.go.jp/security/10threats/10threats2024.html>

組織向けの脅威のうち、主に利用者が対応の主体になるものは1位、4位、8位、10位の4つの脅威である。他の6つの脅威は主にシステム管理者が対応の主体になる。なお、10位の犯罪のビジネス化に悪用される情報は、漏洩した認証情報等であり、その多くはフィッシング等によって漏洩している。また、1位、4位、8位の3つは、利用者に送られてきたメールが攻撃の端緒になる。フィッシングはメールやSNSのメッセージ等が端緒であるため、10大脅威のうち、利用者が対応の主体となるすべての脅威において、その攻撃の端緒はメールである。

このように、個人、組織を問わず、多くの脅威はメールやSNSのメッセージを攻撃の端緒としている。つまり、メールやSNSのメッセージを通じて多くの脅威が到来している。

3. 攻撃手法を知る

本章では、2024年における主な脅威のうち、利用者自身が対策の主体となる必要があるランサムウェアによる攻撃、標的型攻撃、フィッシング、サポート詐欺について、利用者に関連する攻撃手法を紹介する。また、近年増加しているロマンス詐欺についても言及する。

3.1 ランサムウェアによる攻撃

3.1.1 攻撃の概要

ランサムウェアとは、感染したPCやサーバのファイルを暗号化したり、画面をロックしたりして、利用者がPCやサーバを使えないようにするマルウェアである。多くの場合、感染と同時にPCやサーバ内のデータは窃取されている。

ランサムウェアによる攻撃では、感染と同時にデータが暗号化されるとともに、復旧と引き換えに金銭を要求される。また、金銭の支払いに応じない場合、窃取したデータの暴露や、ランサムウェア感染によるシステム停止を利害関係者に公表するといった脅迫が行われることが多い。2024年には、大手出版社、大手小売業、病院等が被害を受けている。警察庁の資料^[3]によると、過去3年間のランサムウェア被害の件数は、令和4年が230件、令和5年が197件、令和6年が222件である。

3.1.2 攻撃の手法

ランサムウェアによる攻撃は、主にメールやソフトウェアの脆弱性を悪用して行われる。

攻撃者は、ランサムウェアを添付したメールを利用者に送り、実行させることで感染させる。また、メールの本文に記載したURLを利用者にクリックさせ、改ざんされたWebサイトへ誘導した上で、ランサムウェアをダウンロード・実行させることで感染させることもある。その他にも、OSやソフトウェアの脆弱性を直接悪用して感染させることもある。

3.2 標的型攻撃

3.2.1 攻撃の概要

標的型攻撃は、特定の組織を対象とした攻撃である。攻撃者は、攻撃対象の組織の構成員のPCをマルウェアに感染させ、組織へ潜入する。マルウェアに感染したPCを利用し、組織内のネットワークやサーバ等を調査し、機密情報を窃取する。また、ランサムウェアに感染させる。

3.2.2 攻撃の手法

標的型攻撃は、主にメールを利用して行われる。

攻撃者は、マルウェアを添付したメールを利用者に送信し、実行させることで感染させる。また、メールの本文に記載したURLを利用者にクリックさせ、不正なWebサイトへ誘導した上で、マルウェアをダウンロード・実行させることで感染させることもある。

攻撃者が送信するメールは、受信者に関係のある内容になっている。また、添付ファイルはパスワード付きzipファイルであり、情報システム部門のセキュリティシステムではマルウェアかどうかを検査することができないようになっている。

標的型攻撃で送信されるメールの例を図1および図2に示す。これらのメールは、筆者が非常勤講師として勤務する高等専門学校が実施する訓練の一環として、筆者に送信されたメールである。

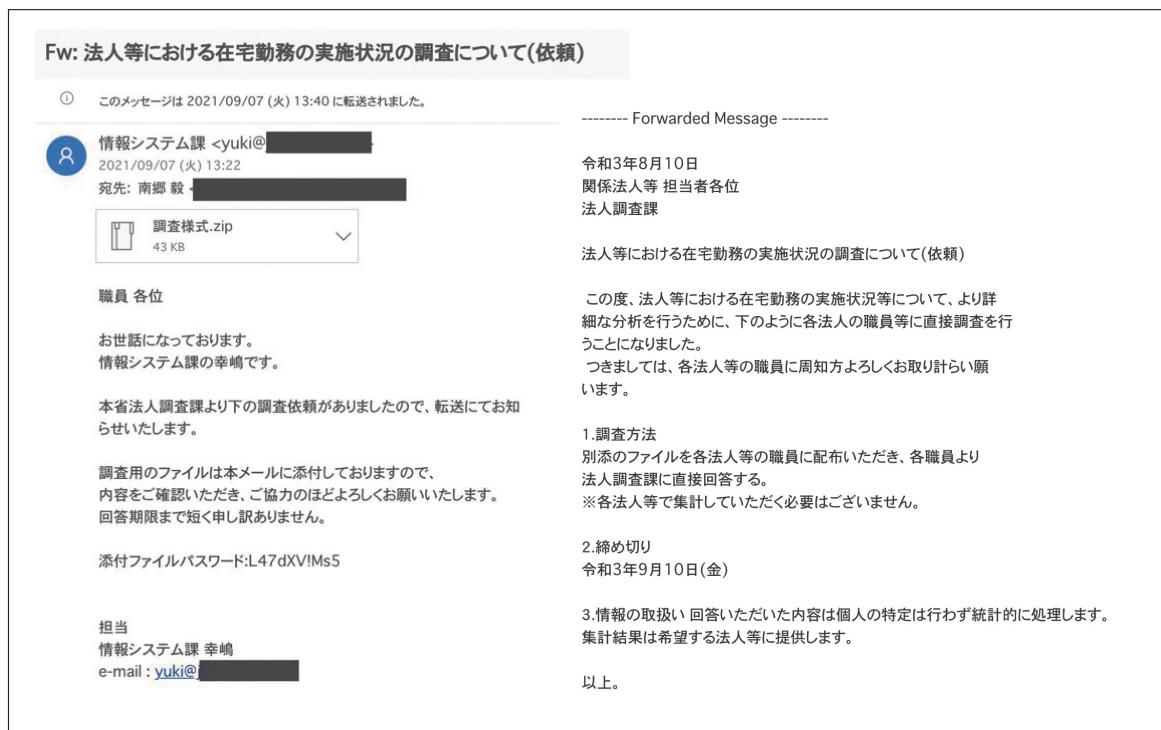


図1 標的型メールの例（添付ファイル型）

図1に示すメールについて述べる。このメールは、新型コロナウイルス感染症流行下で在宅勤務が行われていた2021年9月7日に届いた。メールの内容は、在宅勤務状況に関する文部科学省の調査を装ったものである。本文には、新型コロナウイルス感染症流行下における在宅勤務状況といった、業務に関する内容が記載されている。また、情報システム課の職員が、文部科学省からのメールを転送して調査を依頼する形式をとり、内容の信頼性を高めている。さらに、受信日から文部科学省への回答期限までが3日と短く、迅速な回答を促す意図が見られる。加えて、パスワード付きzipファイルを使って、情報システム部門のセキュリティシステムによる検査を回避している。

2021年、2022年ごろの標的型メールでは、業務に関する内容、転送メール、受信から締め切りまでの期間が短期間、パスワード付きzipファイルを添付するといった特徴がみられた。

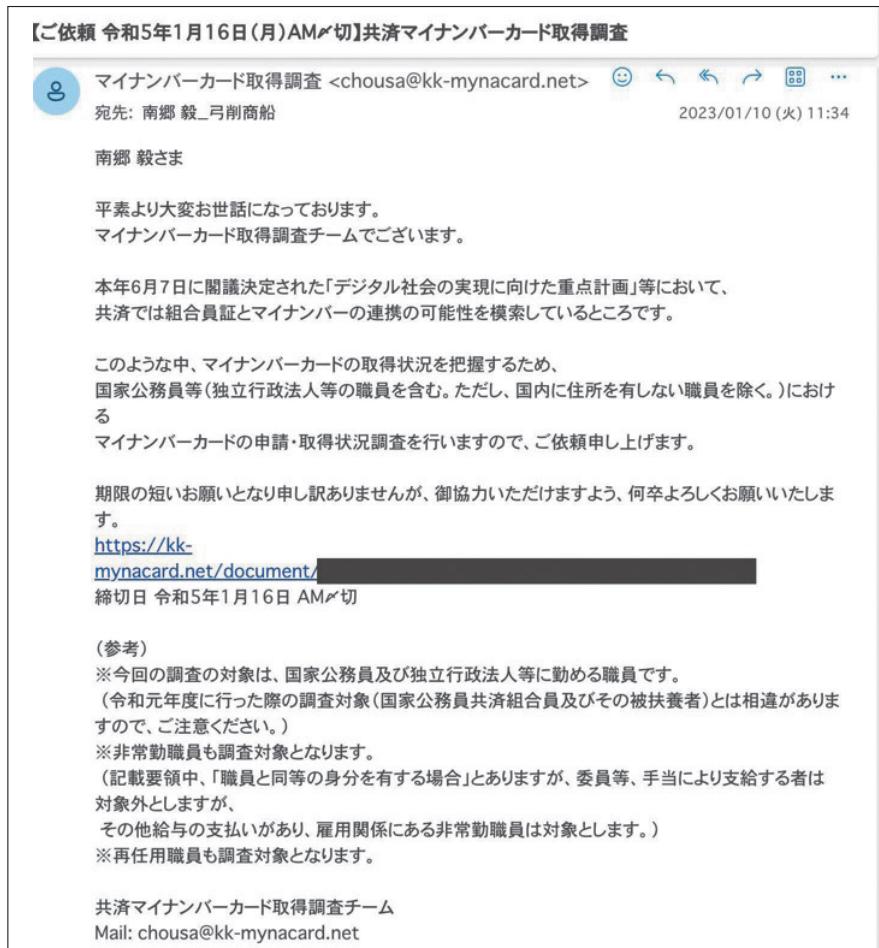


図2 標的型メールの例（URL クリック型）

図2に示すメールについて述べる。このメールは、マイナンバーカードの取得が推進されていた、2023年1月10日に届いた。メールの内容は、マイナンバーカードの取得状況調査を装ったものである。本文には、閣議決定、マイナンバーカードの申請・取得状況調査、マイナンバーカードと健康保険証の紐付けに関する記述が含まれているが、これらはすべて実際の出来事である。実際の出来事を取り入れることで、内容の信頼性を高めている。さらに、送信元のメールアドレスには「chousa」や「kk」といった文字列が含まれており、国立高等専門学校機構や国家公務員共済連合会（KKR）による調査を想起させることで、内容の信頼性を高めている。このメールは、2022年後半ごろに標的型メールを見分けるポイントとしてあげられていた、「転送メール」、「回答期限の極端な短さ」、「パスワード付き zip ファイルの添付」の3点をあえて避けており、その上で、URL をクリックするように誘導している。

2023年以降の標的型メールでは、業務に関係ある内容である点は変わらないものの、実際の出来事を取り入れたり、標的型メールを見分けるポイントを避けたりしたものが見られるようになった。2024年にはより高度な攻撃が確認されている。転職の誘いや講演会依頼としてメールが送られてきて、信頼関係を構築する目的で何度もメールのやりとりを重ねた後に、最終的に履歴書の雛形や講演会の詳細としてマルウェアを送信する手法が登場している。従来の1通のメールでマルウェアに感染を狙う攻撃とは異なり、複数回のやりとりを通じて、標的となった利用者の信頼を確実に得た上でマルウェアに感染させる手法が用いられている。

3.3 フィッシング

3.3.1 攻撃の概要

フィッシングは、認証情報やクレジットカード情報等の機密情報を詐取し、不正利用することを目的とした攻撃である。攻撃者は、金融機関、クレジットカード会社、インターネット通信販売会社等のWebサイトに酷似した偽Webサイトを構築する。利用者が偽Webサイトにアクセスし入力した情報を詐取し、それを活用して不正送金、物品の購入等が行われる。また、詐取された情報は売買されることがある。

3.3.2 攻撃の手法

フィッシングは、主にメール、スマートフォン・携帯電話のSMS、SNSのメッセージを利用して行われる。

攻撃者は、偽Webサイトを構築した後、利用者に対して偽Webサイトへのアクセスを促すメールを送信する。メールには、認証情報やクレジットカード情報の更新依頼や、不正利用の警告等の内容とともに、偽WebサイトのURLが記載されている。利用者はURLをクリックすることで偽Webサイトに誘導され、認証情報やクレジットカード情報等を入力させられる。

フィッシングメールの例を図3および図4に示す。これらは、筆者に実際に届いたメールである。図3に示すメールについて述べる。このメールは、2024年8月26日に届いた。内容は、2024年9月のJR東日本のMy JR-EASTサービス^[5]の終了および、その後の利用方法の案内である。My JR-EASTサービスは、JR東日本が2024年9月4日まで運営していたサービスである。攻撃者は、サービス終了という実際の出来事を利用しサービス終了時期に合わせてメールを送信することで、内容の信頼性を高めている。本文中のURLをクリックすると、JR東日本グループのクレジットカードの利用者向けの偽Webサイトへ誘導され、認証情報やクレジットカード情報等を入力させられる。



図3 フィッシングメール



図4 フィッシングメール

図4に示すメールについて述べる。このメールは、2024年9月22日に届いた。内容は、ETC利用照会サービスの解約予告である。ETC利用照会サービスは実在するサービスである。420日間ログインのない場合に利用確認メールが送られてくることや、450日間ログインがない場合にユーザー登録が自動的に解約されること、実在のサービス^[4]と同じである。攻撃者は、実際のサービスや規約に基づいた処理を取り入れることで、内容の信頼性を高めている。本文中のURLをクリックすると、ETC利用照会サービスの偽Webサイトへ誘導され、認証情報を入力させられる。

3.4 サポート詐欺

3.4.1 攻撃の概要

サポート詐欺は、遠隔操作でウイルス駆除等を実施したかのように装い、修復費用として金銭を詐取することを目的とした攻撃である。攻撃を受ける中で利用者のPCは遠隔操作されるため、利用者のPC内のデータが窃取されている可能性もある。

3.4.2 攻撃の手法

サポート詐欺は、攻撃者が用意したWebサイトを介して行われる。利用者がこのWebサイトを閲覧すると、突然、画面が全画面表示に切り替わり、マウス操作でWebサイトを閉じることができなくなる。さらに、画面上にウイルス感染や個人情報漏洩等の危険を煽る文言が表示され、警告音が鳴り響く。画面には、偽のサポートセンターの電話番号が表示されており、利用者は電話をかけるように誘導される。利用者がサポートセンターに電話をかけると、マイクロソフト社の社員を装った人物が応対し、遠隔操作ソフトウェアのインストールを指示する。利用者が指示に従い遠隔

ソフトウェアをインストールすると、攻撃者はPCを乗っ取って偽のサポートを実施し、サポート代金として金銭の支払いを求める。金銭の支払い方法は、コンビニエンスストアで販売されているプリペイドカードであることが多い。

攻撃者が用意したWebサイトは、アダルトサイト内の動画再生ボタンに似せた広告や、出会い系を求める掲示板内の広告に仕掛けられていることが多かった。これは、利用者が攻撃を受けたとしても、閲覧していることを相談しにくいためである。しかし、最近では、一般的なWebサイトの広告にも仕掛けられることが増えてきた。

3.5 ロマンス詐欺

3.5.1 攻撃の概要

ロマンス詐欺は、SNSやマッチングアプリで出会った相手が、恋愛感情につけ込んで金銭を騙しとる攻撃である。利用者と攻撃者が実際に会うことはなく、SNSやアプリ上のやり取りのみですべてが完結する。また、利用者が攻撃者に恋愛感情や親近感を抱いているため、騙されていることに気づかない、あるいは騙されていることを認められないことが多い。

3.5.2 攻撃の手法

ロマンス詐欺は、SNSやマッチングアプリを介して行われる。ある日、利用者のSNSやマッチングアプリに、「投稿に興味を持った」、「プロフィール欄の趣味が同じ」などの文言とともに、攻撃者から連絡が来る。攻撃者は、利用者との間で数週間から数ヶ月にわたるやり取りを続け、利用者が攻撃者に恋愛感情や親近感を抱くよう巧みに誘導する。やりとりの内容は、たわいもない雑談から始まり、悩みの相談、秘密の共有、「早く会いたい」、「結婚したい」といった話へ徐々に変化していく。そして、最終的に、「二人の将来のための投資」、「会うための渡航費」、「家族を救うためのお金」などの理由をつけて金銭の提供を求める。利用者が金銭的な負担の増加に耐えかね、投資した資金の利益の引き出しなどを求めるとき、突然連絡が取れなくなる。

広島県警察の資料^[6]によると、広島県内におけるロマンス詐欺の被害は、令和5年には46件で総額2億6,941万円、令和6年には76件で総額6億393万円に達している。

4. 私たちができる対策

本章では、利用者ができる対策を述べる。

すべての攻撃への基本的な対策は、OSやソフトウェアを最新の状態に保つことである。また、ウイルス対策ソフトウェアを利用することも重要である。サポート期間が終了したOSやソフトウェアは脆弱性の対策がなされていないため、使用してはならない。

4.1 メールを介した攻撃への対策

4.1.1 基本的な対策

ランサムウェアによる攻撃、標的型攻撃、フィッシングへの対策を述べる。3章で述べたように、これらは、メールやSNSのメッセージを介して行われる攻撃である。これらの攻撃への主な対策は

次のとおりである。

対策1 メールに添付されたパスワード付き zip ファイルは開かない。

対策2 メールや SNS のメッセージ中の URL をクリックしない。

対策3 安易にマクロを有効にしない。

パスワード付き zip ファイルに含まれているファイルを実行したり、メール本文中の URL をクリックしたりしなければ、ランサムウェア等のマルウェアに感染することはない。また、偽 Web サイトに誘導されることもない。これらの攻撃で添付されるファイルは、Office ソフトウェアで作成されたマクロ付きのファイルであることが多い。マクロを実行しなければ、マルウェアへの感染を防ぐことができる。図5は、マクロ付きのファイルを開こうとした時に表示される警告画面である。警告画面が出た場合は、ファイルを閉じるか、「マクロを無効にする」を選択する。

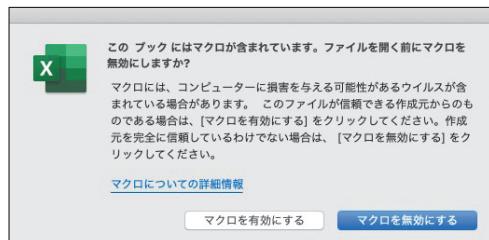
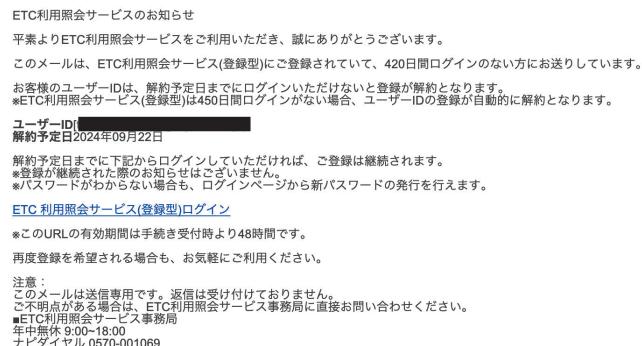


図5 マクロ付きファイルを開いたときの警告画面

4.1.2 やむを得ない場合の確認手順

どうしてもメールに添付されたパスワード付き zip ファイルに含まれるファイルやマクロ付きのファイルを開く必要があるならば、送信元にメール以外の方法で問い合わせ、安全性を確認する。メールへの返信で確認を行うと、攻撃者自身に確認をすることになる。

同様に、どうしてもメール内で示された Web サイトへアクセスする必要があるならば、メールに記載の URL をクリックするのではなく、検索結果から Web サイトへアクセスする。図6に確認方法の例をあげる。



ETC利用照会サービスのお知らせ
平素よりETC利用照会サービスをご利用いただき、誠にありがとうございます。
このメールは、ETC利用照会サービス(登録型)にご登録されていて、420日間ログインのない方にお送りしています。
お客様のユーザーIDは、解約予定期までにログインいただけないと登録が解約となります。
※ETC利用照会サービス(登録型)は450日間ログインがない場合、ユーザーIDの登録が自動的に解約となります。
ユーザーID: [REDACTED]
解約予定期: 2024年09月22日
解約予定期までに下記からログインしていただければ、ご登録は継続されます。
※登録が継続された際のお知らせはございません。
※パスワードがわからぬ場合も、ログインページから新パスワードの発行を行えます。
ETC 利用照会サービス(登録型)ログイン
※このURLの有効期間は手続き受付時より48時間です。
再度登録を希望される場合も、お気軽にご利用ください。
注意:
このメールは送信専用です。返信は受け付けておりません。
■不明点がある場合は、ETC利用照会サービス事務局に直接お問い合わせください。
■ETC利用照会サービス事務局
年中無休 9:00~18:00
ナビダイヤル 0570-001069



etc利用照会サービス

すべて ショッピング 画像 ニュース 動画 書籍 地図 : もっと見る ツール

ETC 利用照会サービス
https://www/etc-meisai.jp :
ETC利用照会サービスは、過去15か月間の全走行明細（ETCカード利用）を確認できるサービスです。利用証明書を印刷したり、pdfやcsvファイルでのダウンロードもできます。

図6 フィッシングメール記載の URL の確認方法

左側のメール本文内に記載されている ETC 利用照会サービスの URL をクリックするのではなく、右側にあるように、検索サイトの検索結果から ETC 利用照会サービスへアクセスする。この

ように、メールやスマートフォン・携帯電話のSMS、SNSのメッセージ内のURLをクリックしなければ、フィッシングの被害を防ぐことができる。

4.1.3 URLの安全性確認の注意点

URLの安全性をチェックするWebサイトが存在する。これらのサービスを利用してURLの安全性を確認することは有効であるが、フィッシングサイトが構築されてから一定の時間が経過しないと、正確な評価がなされないことに注意する必要がある。実際に、図3に示したフィッシングメールに記載されているURLを4つのURLチェックサービス^{[7] [8] [9] [10]}で検査したところ、フィッシングと判定したのは2つのみであった。この結果から分かるように、URLチェックサイトの検査結果を過信するべきではない。

4.2 サポート詐欺への対策

サポート詐欺への対策は次のとおりである。

- 対策1 表示された電話番号に電話をしない。
- 対策2 「ESC」キーを押し、Webブラウザを閉じる。
- 対策3 攻撃と閉じ方を体験しておく。

そもそも、表示された電話番号に電話をかけなければ、被害に遭うことはない。また、サポート詐欺のWebサイトは全画面表示になるが、キーボードの左上の「ESC」キーを押すことで全画面表示を解除できる。サポート詐欺のWebサイトが表示されたら、「ESC」キーを押し、Webブラウザを閉じればよい。サポート詐欺に対しては、情報処理推進機構が攻撃と対策を体験できるWebサイト^[11]を提供している。このWebサイトで、全画面表示を解除してWebブラウザを閉じる対応を実際に体験できる。事前に対応を体験しておくことで、サポート詐欺に遭遇した場合でも冷静に対処できる。

4.3 ロマンス詐欺への対策

ロマンス詐欺への対策は次のとおりである。

- 対策1 SNSにおける海外在住の異性からのアプローチは削除する。
- 対策2 プロフィール写真をgoogle画像検索する。
- 対策3 対面で会ったことがない人からの金銭の話が出たら詐欺と認識する。
- 対策4 警察が公表しているロマンス詐欺の手口動画を視聴する。

ロマンス詐欺では、男性を対象とした場合は海外在住の未亡人、女性を対象とした場合は海外在住の医師・軍人・俳優などの設定であることが多い。これらの設定は、海外であれば容易に会いに来られない状況を利用して信頼関係を構築するためである。海外在住者からの連絡を無視することで被害を防ぐことができる。連絡に返信しなければ、被害に遭うことはない。

攻撃者は、多くの場合、フリー画像や別人のSNSの写真をプロフィール写真として使用している。プロフィール写真をGoogle画像検索にかけることで、詐欺であるかどうかを判別できる可能性が高まる。

やり取りを始めてしまったと場合でも、対面で会ったことのない相手から金銭を要求された場合は詐欺と認識すべきである。ロマンス詐欺の典型的な例として海外在住の異性をあげているが、国内在住であっても、同性であっても、対面で会ったことのない相手から金銭を求められた場合は詐欺と疑う必要がある。

なお、ロマンス詐欺の手口は、各地の警察が動画で公開している。特に、群馬県警察の動画^{[12] [13]}は、ロマンス詐欺の具体的な手口をわかりやすく解説しており、被害の防止に役立つ。

4.4 認証情報の管理

ユーザーIDやパスワードといった認証情報を適切に管理することは、すべての攻撃を防ぐ基本である。これらの対策をまとめると、

- 対策1 2段階認証を利用する。
- 対策2 ログインがあった場合に通知される機能を利用する。
- 対策3 パスワードは大文字、小文字、数字、記号の組み合わせで10文字以上の意味のない文字列とする。
- 対策4 パスワードを複数のサービスで使い回さない。

近年、多くのサービスが、ログイン時にスマートフォン・携帯電話のSMSに送信されたコードの入力を求める2段階認証を提供している。2段階認証を有効にすることで、仮に認証情報が漏洩した場合でも、第三者による不正なログインを防ぐことができる。また、ログイン操作をしていないにもかかわらず2段階認証のコードが届いた場合は、認証情報が漏洩していることがわかる。

他にも、多くのサービスで、ログインがあった際に登録したメールアドレスや、スマートフォン・携帯電話のSMSに通知を送信する機能が提供されている。この通知を利用することで、第三者による不正なログインを即座に検知できる。

パスワードは、大文字・小文字・数字・記号の組み合わせで最低10文字以上の意味のないランダムな文字列とすることが望ましい。情報処理推進機構^[14]は、2023年時点でのこの形式のパスワードを推奨している。ただし、推奨される文字数や組み合わせは時代と共に変化するため、その時々の最新のガイドラインを確認する必要がある。

パスワードの使い回しは非常に危険である。パスワードを複数のサービスで使い回していた場合、どこか1つのサービスでパスワードが漏洩した場合、他のサービスのパスワードも漏洩することになる。利用者自身がフィッシング等で漏洩する場合のほか、サービスを運営している側が攻撃を受けて漏洩することがある。被害を軽減するためにも、パスワードはサービスごとに異なるものを設定する。

4.5 メールやSNSのメッセージを介した攻撃を防げなかったときの対応

ランサムウェアによる身代金要求画面が表示され場合や、安全性が未確認のファイルを実行してしまった場合には、直ちに次の手順を実施する。

- 手順1 ネットワークからPCを切り離す。
 - 有線LANの場合：LANケーブルを抜く。
 - 無線LANの場合：Wi-FiをOFFにする。
- 手順2 電源をONにしたまま、操作を中止する。
- 手順3 職場のPCの場合：情報管理部門に通報し指示を仰ぐ。
個人のPCの場合：PCの初期化する、買い換える。

Wi-FiをOFFにする方法を図7に示す。ネットワークからPCを直ちに切り離すことで、被害の拡大を防ぐことができる。また、電源をONにしたまま維持することで、その後の専門家による調査に必要な情報を残すことができる。なお、個人のPCの場合は、初期化するか買い換えるによる対応となるが、買い換えるを推奨する。



図7 Wi-FiをOFFにする方法

4.6 フィッシングサイトへ情報を入力してしまった場合の対応

4.6.1 認証情報を入力してしまった場合

フィッシングサイトに認証情報を入力してしまった場合は、直ちに次の手順を実施する。

- 手順1 正規のWebサイトにアクセスし、IDとパスワードを変更する。
- 手順2 パスワードを使い回しているWebサイトのパスワードを変更する。

パスワードを即時変更することで、不正利用を防ぐことができる。また、フィッシングサイトに入力した認証情報は売買されることがある。今後、フィッシングサイトに入力したパスワードを使わないことで、被害を防ぐことができる。

4.6.2 クレジットカード情報を入力してしまった場合

フィッシングサイトにクレジットカード情報を入力してしまった場合は、直ちに次の手順を実施する。

- 手順1 クレジットカード会社の相談窓口に連絡する。

手順2 クレジットカードの利用状況を監視する。

クレジットカード会社には、フィッシングサイトに情報を入力した場合や、クレジットカードを不正利用された場合の相談窓口が用意されている。直ちに窓口に連絡して相談することで、被害を防ぐことができる。

5. まとめ

本稿では、2024年10月時点の情報セキュリティ上の脅威として、ランサムウェアによる攻撃、標的型攻撃、フィッシング、サポート詐欺、ロマンス詐欺を取り上げ、その攻撃手法を明らかにするとともに、利用者が取るべき対策を述べた。また、万が一、対策を講じられなかった場合の対応手順も説明した。本稿が、読者の皆様の情報セキュリティ対策に役立つことを心より願っている。

最後に深く反省すべき点を述べる。報道発表^[15]のとおり、2024年12月に、本学は、サポート詐欺による攻撃を防ぐことができず、個人情報流出の可能性を完全には排除できない事案を引き起こした。サポート詐欺による攻撃は、2020年度以降の情報セキュリティ講習会で繰り返し取り上げていたにも関わらず、内容の周知徹底が不十分であった。講習会の講師を務めていた身として、スライドによる説明だけでは受講者の印象に残りづらかった点を痛感している。今後は、情報処理推進機構が提供する攻撃と対策を体験できるWebサイト^[11]による体験や、実際の攻撃の動画を活用するなどして、より臨場感のある講習会に内容を更新していく予定である。2025年3月末日時点では、この事案に関係した情報の流出や不正利用は確認されていない。関係者の皆様には、多大なご心配をおかけしたことを、改めて心よりお詫び申し上げる。

参考文献

- [1] 総務省. 令和6年版情報通信白書.
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/html/nd21b120.html>
 (2025.3.16 参照)
- [2] 情報処理推進機構. 情報セキュリティ10大脅威2024.
<https://www.ipa.go.jp/security/10threats/10threats2024.html> (2024.10.2 参照)
- [3] 警察庁. 令和6年におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について.
https://www.npa.go.jp/publications/statistics/cybersecurity/data/R6/R06_cyber_jousei.pdf
 (2025.3.27 参照)
- [4] ETC利用照会サービス. よくある質問1-17.
<https://www.etc-meisai.jp/faq/21.html> (2024.10.2 参照)
- [5] JR東日本. My JR-EASTサービスの終了について.
<https://www.jreast.co.jp/myjreast/> (2024.10.2 参照)
- [6] 広島県警察. 広島県警 SNS型詐欺対策.
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/tokusyusagi/snstoushi.html>
 (2024.10.2 参照, 2025.3.30 参照)

-
- [7] 日立システムズ. gred で check.
<https://check.gred.jp/> (2024.10.2 参照)
 - [8] Trend Micro. トレンドマイクロによる Web サイトの安全性評価.
<https://global.sitesafety.trendmicro.com/?cc=jp> (2024.10.2 参照)
 - [9] Gen Digital. Norton safe web.
<https://safeweb.norton.com/?ulang=jpn> (2024.10.2 参照)
 - [10] Google. Virus Total.
<https://www.virustotal.com/gui/home/url> (2024.10.2 参照)
 - [11] 情報処理推進機構. 偽セキュリティ警告（サポート詐欺）対策特集ページ
<https://www.ipa.go.jp/security/anshin/measures/fakealert.html>
(2024.10.2 参照)
 - [12] 群馬県警察. あなたもだまされるかも ロマンス詐欺.
<https://www.youtube.com/watch?v=6bEHoB84Gg8> (2024.10.2 参照)
 - [13] 群馬県警察. SNS 型ロマンス詐欺再現ドラマ「偽りの愛～あなたのロマンス本物ですか？」.
<https://www.youtube.com/watch?v=Nc-MVCStmE0> (2024.10.2 参照)
 - [14] 情報処理推進機構. 日常における情報セキュリティ対策.
<https://www.ipa.go.jp/security/anshin/measures/everyday.html>
(2024.10.2 参照)
 - [15] 尾道市立大学. 不正アクセスによる個人情報の流出の可能性に関する事案について.
<https://www.onomichi-u.ac.jp/docs/2024121600022/> (2025.3.30 参照)



高島 彰 (たかしま あきら)

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科講師
(言語学担当)。

北海道生まれ。金沢大学大学院で認知言語学を学び、2021年に博士課程修了、博士号(文学)取得。現在、認知言語学の観点から、言語類型論や証拠性、日本語と英語を対象とした比較対照分析を中心に研究。主な著書『Evidentiality in Japanese A Cognitive Linguistic Approach to the Evidential Marker *-rasi-i* (Hituzi Linguistics in English 40)』(ひつじ書房)。

ヒトを知るための言語学 －認知言語学の考え方－¹

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科講師

高島 彰

1. はじめに

自然科学は、地球上または宇宙の物理的法則や自然にある動植物の構造や生態系など、人間と切り離された世界の在り様を研究対象とする。対照的に、人文科学は人間の情動や集団心理、文化の形成やその継承など、人間が生み出した世界を研究対象としている。興味深いのは、同一の現象を研究対象としても、自然科学と人文科学では、異なる答えが出てくるということである。このことを示す事例として、「サイバネティク・タートル」の実験がある。簡略化して概要を説明すると、2台の亀のロボットを作るのだが、そのロボットには「光・接触センサー」が内蔵されており、光の強い方へと近づいていくが、強すぎる光は避けるよう設計されている。さらに、自分のモーターが回っていることを表示するランプもつける。さて、この2台のロボットを動かすと、どうなるか。下条(1999)ではその様子を以下のように述べている。

- (1) 二匹の亀は、これだけで驚くほど複雑な「行動」を示します。惹かれ合い、互いの周囲をダンスしたり、外部のライトを巡って競いあったり、鏡の中で自分の表示ランプに反応して自分を追いかけまわしてみたり [...]。おもしろいことに、このような単純な機械なのに、事情を知らない人は、簡単にこれらの二匹の「亀」に「生命」と「意図」を「読みとて」あるいは「読

1 本論は2024年10月16日に開催された令和6年度尾道市立大学大学公開講座「ヒトを知るための言語学：認知言語学と言語相対論」の内容を基に発展させたものである。学びの交流をさせていただいた参加者各位には心より感謝申し上げたい。

み込んで」しまいます。

(下條 1999:170)

この2台の亀は、自然科学の観点からみれば、「光・接触センサー」を備えた単純な動きしかできないロボットでしかないが、人間が捉えると、そこに「生命」や「意図」を読み込んでしまい、亀のロボット同士がお互いの気持ちや意図を読みあう生き物であるかのように捉えてしまうのである。

このように、我々人間は、外界の自然を認識し、そこに「意味」を読み込んでいる。したがって、我々が日常的に思い描く世界像とは、カメラやレコーダーが記録するような客観的・自然科学的な世界ではなく、我々の捉え方・解釈がふんだんに盛り込まれ、作り上げられた主観的・人文科学的な世界なのである。この主観的・人文科学的な世界に関連して、ノーレットランダーシュは、我々が世界を直接体験しているというのは錯覚であり、体験できるのは無意識のうちにすでに解釈され、構築されたデータやシミュレーションであるとし、これを「ユーザーイリュージョン」と呼んでいる。

- (2) 人が体験するのは、生の感覚データではなく、そのシミュレーションだ。感覚体験のシミュレーションとは、現実についての仮説だ。このシミュレーションを、人は経験している。物事自体を経験しているのではない。物事を感知するが、その感覚は経験しない。その感覚のシミュレーションを体験するのだ。

(ノーレットランダーシュ 2002: 352)

感覚が無意識のうちに取捨選択されている例として、心理学における「カクテルパーティー効果」として知られている心理効果がある。人がそれぞれに雑談している騒がしい場所であっても、(最近ではノイズキャンセリング機能があるが) ひと昔前のレコーダーではその場の音をすべて拾ってしまうが、人間は自分の名前や関心がある話題については自然と聞こえるようになっている。このように、無意識のうちに意味ある知覚情報と意識に上らない知覚情報は区別されているため、我々が直接知覚できるのは、その場の必要性に応じて解釈され、構築されたシミュレーションなのである。

私たちは、日常の生活の中の様々な体験を通して世界を知覚するが、私たちを通して認識される世界は、暗黙の裡に、我々人間が解釈し、意味づけを行った結果として構築された世界である。「言語」で語られる世界はこの人間を介して構築された世界である。ゆえに、言語研究は、我々人間がどのように世界を捉えているのかという人間の認知能力を解明する手段となり得るのである。

2. 認知言語学と言語相対論

近代言語学の父と呼ばれるフェルディナンド・ソシュールは、言語の基本単位である「記号」を「音（文字）」と「意味」のペアリングと規定した。例えば、日本人であれば、「イヌ（犬）」という音（文字）を聞けば、「犬」のイメージを喚起することができる。それに対して、単なる金属音や風の音など、そこに意味を見出せない音は当然言語の単位とはならないし、(考えにくいが) 音のない意味もまた記号としてはふさわしくない。言語学者の研究対象は、この音と意味のペアリングで成立する「記号」である。記号の音の側面に注目する音声学・音韻論、意味に注目する意味論、記号の組み合わせに注目する形態・統語論、記号の使用法に注目する語用論、言語内でのヴァリエーションに着

目する方言研究・フィールド言語学、記号の成り立ちに着目する歴史言語学など、言語学者は記号を様々な角度から分析し、言語とは何か、その本質に迫っている。

本章では、多種多様な言語学の領域の中から、認知言語学と言語相対論を紹介する。認知言語学は言語には人間の認識が反映されているという基本理念のもと、言語研究を通して、人間の認知能力がどのように言語現象を動機づけているのかを研究している。端的に言えば、言語を通して人間を知ろうとする学問分野であるといえる。言語相対論では、私たちの母語が私たちの世界についての考え方方に影響を与える、換言すれば、言語間で見られる差異はその言語集団に属する人々の考え方・認識の差異であると考える。そのため、認知言語学との親和性が高く、認知言語学の観点から言語間での比較を行う時によく援用される理論である。

2.1. 認知言語学の基本理念

認知科学の一分野に位置づけられる認知言語学 (Cognitive Linguistics) が探求するのは、記号そのものではなく、記号を産出し、理解する人間の認知能力である。² ことばの意味を例に考えてみよう。従来、言語表現の意味は「指示説」、つまり、「指し示す」という働きを重要な性質とみなし、言語表現は世界に存在する物事と直接対応付けられていると考えられてきた。例えば、以下のように、「檸檬」は、現実または仮想の世界に存在する対象（レモン）を指示する。

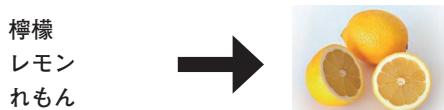


図1：意味の指示説

この指示説の問題は、同じ対象を指示するのに多種多様な表現が可能であることを説明できないことがある。野村（2013, 2020）にならって、「上り坂」と「下り坂」を例に挙げると、「上り坂」も「下り坂」も同じ「坂」を指示対象とする。指示説によれば、指示対象が同じであるから、意味は同じということになる。意味が同じ語彙のことを言語学では「同義語」と呼ぶが、もし「上り坂」と「下り坂」が同義語であるならば、どのような文脈においても交換して用いることができる。

- | | |
|--------------------|----------------|
| (3) a. 上り坂を駆け上がった。 | c. *上り坂を駆け下りた。 |
| b. *下り坂を駆け上がった | d. 下り坂を駆け下りた。 |

（野村 2013:28）

しかし、「上り坂を駆け下りた」や「下り坂を駆け上がった」は、日本人にとっては不自然な表現と感じられる。したがって「上り坂」と「下り坂」は指示対象が同じであっても、交換して用いることができない以上、2つの語彙の意味は異なっていると言わざるを得ないのである。

では、この意味の違いを記述するために必要な要素は何か。答えは「坂」に対する「捉え方」である。この場合、「坂」をどの地点から描写するのか、という「視座」が異なる。図のように、同じ

2 このような言語の産出・理解過程に言語の本質を見いだそうとする点で、認知言語学は、「言語は思想の表現であり、また理解である。思想の表現過程及び理解過程そのものが、言語である」と主張する時枝誠記（1941: 4）の「言語過程説」と親和性がある。

「坂」でも、上から見れば「下り坂」、下から見上げれば「上り坂」という表現になる。

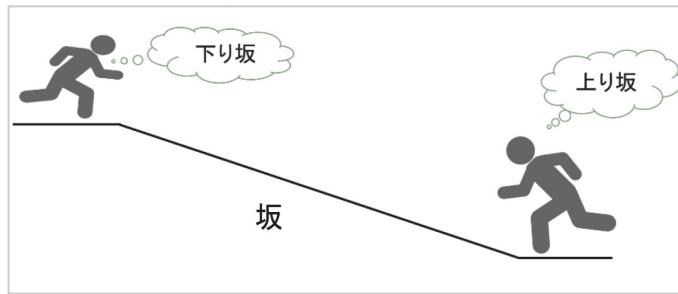


図2：指示対象「坂」 + 捉え方「視座」

このように、言葉の意味は単に世界にある対象を指示するという説明では不十分であり、その対象をどのように捉えているのかという「捉え方」を考慮することで、多種多様な表現の差異を記述することができる所以である。

先に示した「檸檬 (Lemon)」にもやはり「捉え方」が関わる。ここでのポイントは「比喩」の産出と理解である。「檸檬 (Lemon)」は日本語でも英語でも指示対象は変わらないが、日本語と英語の「檸檬 (Lemon)」を用いた比喩表現にはその意味に違いが生じる。以下に示すように、日本語の「檸檬」は失恋の経験などを表すときに使用されることがあるが、英語の Lemon は「欠陥品」を売りつけられたという経験を表すときに使用されることがある。

(4) 日本語と英語の檸檬 (Lemon) の比喩表現

〈日本語〉

あの日の苦しみさえ

そのすべてを愛してた あなたとともに

胸に残り離れない 苦いレモンの匂い

米津玄師『Lemon』

〈英語〉

The car we bought is a lemon.

「私たちが買った車は欠陥品だった」

「レモン」や「失恋」、「欠陥品」が指示する対象の共通点だけを考えていても、なぜこのような比喩が産出されるのかは理解できないが、ここに檸檬に対する「捉え方」を含めて考えてみれば、この比喩表現の根幹に「レモン」をかじった時の体験が反映されていることは明らかである。つまり、檸檬をかじったときの「酸っぱい！」「苦い！」という経験が、日本語では「失恋」の苦しさに投影され、英語では「欠陥品」をつかまされた時の体験に投影されることでこの比喩の理解が成立するのである。

このように、認知言語学が探求するのはことばに反映される「捉え方」、すなわち人間の「認知能力」であり、ことばがどのような認知能力によって動機づけられているのかを探究する学問である。

2.2. ことばの普遍性と相対性

世界には 700 以上の言語があるといわれている。対照言語学や言語類型論など、他言語と比較・対照を通して、言語の普遍性と相対性を明らかにしようとする研究が多くあるが、その中でも広く知られているのが「言語相対論 (Sapir - Whorf Hypothesis)」である。言語相対論とは、私たちの母語

が私たちの世界についての考え方へ影響を与えることを論じたものである。その一例として、カテゴリーについて考えてみよう。世界には多種多様な動物が存在するが、全て同じ動物と認識することはなく、仲間分け、つまり「カテゴリー化」をするわけだが、それぞれのカテゴリーにはことばによるラベルづけが必要不可欠となる。

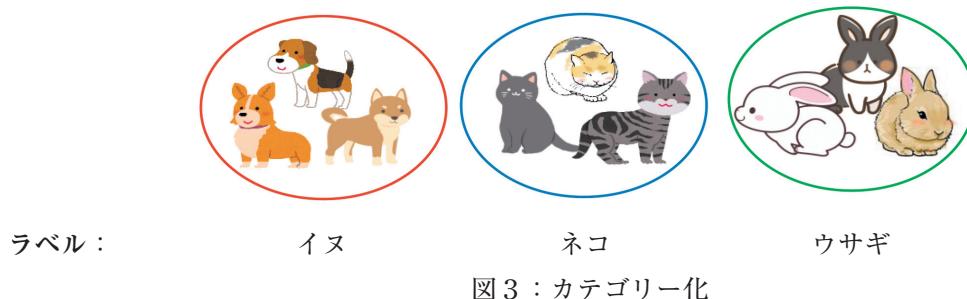


図3：カテゴリー化

言語は情報伝達の手段である反面、このように外界の世界を捉え、思考を整理するための「枠」としての機能も有する。我々はことばを用いて、日常の世界を捉え、切り分けているのであるから、我々が持つ世界についての考え方は少なからずことばによって左右される、というのが言語相対論の趣旨である。

この世界の切り分け方は言語によって異なる。日常生活で使用されていく中で、生活に必要な語彙や文法は多く使用され存続していくが、必要とされない語彙や文法は淘汰されて消えていくため、それぞれの言語に存在する語彙や文法は「日常の必要性」という文化的背景に支えられて形成されている。例えば、以下のように、日本人は米を主食としているので、米に関する語彙が豊富に存在するが、欧米など米を主食にしない文化では日本語のように細分化する必要がないため、語彙 rice のみで表される。これは食文化の違いによって必要な語彙が異なるためである。

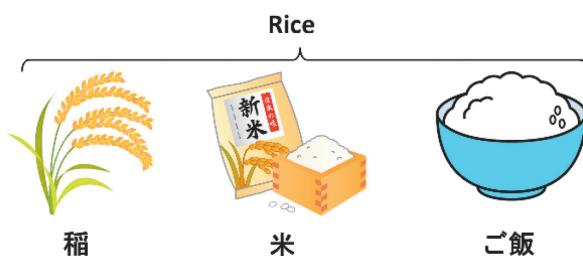


図4：日本語と英語の切り分け方の差異

言語は日常の言語使用の中で、慣習化され、その言語集団にとって必要な語彙や文法、そして、その使われ方が定まっていく。そのため、世界の言語はそれぞれ独自の語彙や文法を保有しており、そのような言いまわしの背景には、その文化ごとの世界の捉え方が反映されている。では、言語に普遍性はないのだろうか？生成文法の創始者ノーム・チョムスキは「普遍文法 (Universal Grammar)」を求めて世界の言語に共通の言語的特性を探求しているが、この研究の難しいところは現在のところ全世界の言語に共通する言語的特性は見つかっていないということにある。それに対して、認知言語学では、言語的特性に普遍性を求めず、言語を产出する際の捉え方、物事を認識する能力に普

普遍性があると考える。要するに、全世界のどの言語話者もある一つの事態をいくつかの異なった見方で把握する認知能力を持っていることは普遍的であるが、それらの認知能力の中で、どの捉え方が好まれるのかは言語によって異なると考える。(cf. 池上 2006, Ikegami 2016)

(5) 言語の普遍的側面 (The universal aspect in languages)

どの言語話者であっても、ある一つの〈事態〉をいくつかの違ったやり方で把握し、いくつかの違ったやり方で言語化する能力を有していることである。

言語間での相対的側面 (The relative aspect between languages)

同じ〈事態〉がいくつかの違ったやり方で把握されうるとしても、どの把握のやり方が好んで採られるかは、異なる言語の話者の間では異なりうるということである。

次章からはこのような認知言語学と言語相対論の立場をふまえ、日本語と英語の相対的側面と普遍的側面について具体例を用いて論じていく。まずは、相対的側面として、モノ概念に対する捉え方が関与する日本語と英語の名詞句に関わる文法要素についてみていく。その後、普遍的側面として、「身体的インタラクション」に基づく主語選択のヴァリエーションについて論じる。

3. モノ概念に対する捉え方：名詞句に関わる文法要素の相対性

名詞「本 (book)」は読み物、名詞「駅 (station)」はある特定の建築物を表すように、名詞は典型的にはモノ概念を表す。日本語と英語の名詞句に関する文法要素を観察してみると、それぞれの言語に反映されるモノ概念に対する捉え方の相対性がみえてくる。

英語の名詞句には「数 (number)」の規則があるため、名詞句を使用する際には、単数であれば不定冠詞 a、複数の場合は複数形 -s を使用しなければならない (例: a book vs. books)。この「数」の規則は、本 (book) や自転車 (bicycle) のように「数えられる」可算名詞だけに適用される規則であり、水などの「数えられない」不可算名詞には適用されない (例: water vs. *waters)。

名詞の可算と不可算名詞はどのように決まるのか考えてみよう。可算名詞と不可算名詞のそれぞれの事例を眺めてみて、それぞれに共通の特性を抽出してみる。以下、可算名詞と不可算名詞の典型的な例を挙げる。

表1：可算名詞・不可算名詞の例

可算名詞	不可算名詞
book, apple, bag, desk, chair	量: water, soup, sugar 集合名詞: furniture, fruit, 均質: chalk, paper, cheese,

この線引きを理解するために必要なことは表2に示す2つのイメージである。まず、可算名詞は輪郭を持ち明確な「形」があるのに対して、不可算名詞の「量」と「集合名詞」には明確な形がないことがわかる。液体や粉末は容器に入れれば一応の形を保つことができるが、その場合、英語では a cup of water, two cups of water のように、容器を数えることとなる。

表2：可算名詞 vs 不可算名詞の基本的イメージ

	可算名詞	不可算名詞
① 形・輪郭	○	×
② 分解可能性	○	×

しかし、一般的な感覚として、チーズ (cheese) や紙 (paper) は「形」があるように思われるが、不可算名詞に含まれている。ここには、さらに「分解可能性」のイメージが必要になる。可算名詞の自転車 (bicycle) は分解すると、サドル、ハンドル、ペダル…のように部分に分解することが可能であるが、不可算名詞であるチーズ、紙、チョークはどこを分解してもチーズ、紙、チョークでしかなく、分解した部分は全体と同じものであるため、部分に分解することができない。この二つのイメージは必要十分条件ではなく、あくまでもイメージの問題であり、この二つのイメージに合致するもの、つまり「形」があり、「分解可能」であると考えられる対象ほど、可算名詞として用いられるやすくなる。

ここで重要なことは、この性質が名詞自体の性質ではなく、「認識」の問題であるということである。ゆえに、認識の変更によって、同じ名詞であっても可算名詞と不可算名詞の使い方を持つことがある。以下、room は「部屋」という意味で使われることが多いが、その場合は形を持っているため、可算名詞と判断されるため、複数形になるが、room が「空間・スペース」という意味で用いられる場合、そこには明確な形をもたないため、不可算名詞として認識され、複数形にはならない。

- (6) a. My suitcase was so full of souvenirs. I didn't have room for my clothes!

(私のスーツケースはお土産でいっぱいです。服を入れるスペースがなかったよ)

- b. This hotel has 200 guest rooms.

(このホテルには、200の客室があります)

(大西・マクベイ 2017:366、下線部筆者)

可算名詞と不可算名詞の差異が認識の問題であることは、不定冠詞 a の使用によってそのイメージが変わってしまうことからもうなづける。cat は本来可算名詞として用いられるため、a cat のように不定冠詞を伴うのが常だが、以下のような「猫」が事故でバラバラになってしまって「形」がない状態を表す場合には、不可算名詞扱いとなり、不定冠詞 a は付かない。

- (7) After a cat got in the way of our SUV, there was cat all over the road.

(野村 2020: 20)

次に、日本語の名詞句に関わる文法要素としては「類別詞」がある。類別詞とは、「本2冊」というときの「-冊」のような形態素であるが、名詞が示す対象をどのようにイメージしているかによって使い分けられる。類別詞「-軒」がどのようなときに的確になるかを考えてみよう。

- (8) そこの角を曲がったところに、{民家／本屋／？交番／？神社／？ビル／？学校} が一軒あります。

上記の例からわかるように、建物であれば全て「軒」が使えるわけではなく、「人間が使用すること」を必要条件として、典型的には「普通の家の大きさに近く、居住または商業活動に使われる」建物を数える時に使用される。そのため、「ビル」のように家よりも大きい建物、また、家と同じくらいの大きさであっても居住用、または商業活動に使わない「学校、交番、神社」は「1軒」と数えないものである。(cf. 森・高橋 2013:19)

この類別詞の選択もまた、規則というより、「認識」の問題であることは明らかである。以下のように、名詞「ハム」をどの類別詞で数えるのかによって、イメージする「ハム」の形状は異なる。「一枚」であれば、ホテルの朝食に出てくるようなスライスされたハムを思い浮かべるが、「一本」となると、ギフトで贈られるようなハムの塊を思い浮かべるだろう。

(9) ハムを {一本／一枚} 食べた。

ここまで日本語と英語の名詞句に関わる文法要素の違いの一端を概観した。英語には可算・不可算の区別、それに関連した不定冠詞 a の使用が必要である。一方、日本語では名詞句が示す対象の役割や形状に応じて類別詞を使い分けている。日本語にも英語にも当然名詞という品詞があり、文中での役割（モノ概念を表す）もほぼ同じである。それにもかかわらず、日本語と英語は名詞句に関する異なる文法要素を持っている。認知言語学では、このような言語間の差異はモノ概念をどのように捉えるのかという「認識」の問題であると考える。(cf. 濱田・井上 2011, 濱田 2019) つまり、対象を知覚・認識し、モノ概念として名詞で表現するというのは日本語も英語も共通であるが、英語では認識する対象が「数えられるかどうか」という点に着目するのに対して、日本語では「対象の特徴（役割や大きさ、形状、など）を基にした分類」に着目するという点において捉え方の相対性が生じるのである。しかし、日本語話者が英語の「数えられるかどうか」という捉え方を理解できない、また、反対に、英語話者が日本語の「特徴を基にした分類」を認識できないわけではなく、我々人間はどちらの「認識」も把握可能である。そのうえで、どちらの捉え方に重きを置くのかは、それぞれの言語文化に慣習化された「捉え方の好み」の違いである。このように、言語には当該の言語話者間で無意識のうちに共有され、慣習化された捉え方の好みが色濃く反映されているのである。

4. 主語選択のヴァリエーションと身体性 (Embodiment)

ここまで、名詞句が表すモノ概念に対する捉え方の好みの差異をみてきた。次に、普遍的側面として「身体的インタラクション」(cf. Langacker 2008, 中村 2019) という認識の在り様を基盤とした主語選択のヴァリエーションについて論じる。

我々は身体を通して外界の世界を知覚している。多少の差はあったとしても、我々人間が持つ身体的な経験はどの言語話者であってもほぼ同じである。重い荷物をもてば、重いと感じるし、外気温が低くなれば寒いと感じる。つまり、外界の世界との身体的経験（「身体的インタラクション」）はどの言語話者にも共通の普遍的側面であるといえる。³ この身体的インタラクションを中村（2019）の

3 このような人間の身体と認識の関係について探求する研究は「身体性（embodiment）」と呼ばれ、認知科学や人工知能分野で論じられることが多い。現在の人工知能AIの深層学習（ディープラーニング）にはこの身体性が欠落しているため、身体的な経験から概念を拡張させ、抽象的な概念を思考するようになる身体性に基づいた認識や学習プロセスは、人間とAIの間の決定的な違いと考えられている。

「認知のインタラクション・モード（Iモード）」に倣って図示すると、以下のようになる。インタラクションは自己から働きかける能動的な側面と外界から受ける受動的な側面があり、その2つの側面を双方向の矢印で示している。左の円が自分、そしてインタラクションの対象となる外的 existence を右の円、それらを囲む楕円はインタラクションが発生する場や環境を示している。

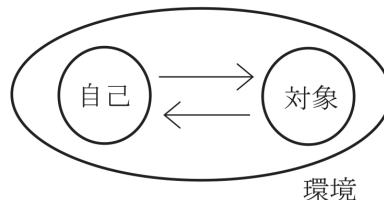


図5：身体的インタラクション

このような身体的インタラクションの経験は普遍的側面であるため、誰しもが経験できるものである。何かに触るという能動的側面に対するその材質の感覚という受動的側面や何かを口に入れるという能動的側面に対するその味覚という受動的側面など、体験を通して感じるあらゆる経験が含まれる。本章では、この身体的インタラクションの認識の在り様のイメージを共通の基盤とし、そのイメージのどこに注目するのかによって主語にヴァリエーションが発生する日本語と英語の事例について論じる。

4.1. 主語がズレていく言語変化：日本語「痛い」の主語について

日本語「痛い」は、通常主語に痛む部位をとって「Xが痛い」という（10a）のような自動詞構文となり、助詞「で」を用いることでその痛みの起因を表すことができる。その一方で、（10b）のように、痛む部位を主語としない例もある。この例では、「強がる君」を見てられない、見るに堪えないという意味で「痛い」が使われているため、自分に「痛み」を与える起因を主語としているといえる。⁴

- (10) a. (気圧の変化で) 頭が痛い。
 b. 君がすさんだ瞳で強がるのがとても痛い。(中島みゆき『空と君のあいだに』)

日本語「痛い」はなぜこの2種類の主語をとることができるのであるのかを考えてみよう。上記の例をみると、まず物理的・生理的な痛みか心理的な痛みという違いがあることがわかる。物理的・生理的痛みの場合、「頭が痛い」というように部位を主語にすることはできるが、「?? 気圧の変化が痛い」のようにその起因を主語にすることは難しい。心理的痛みの場合、「強がる君」という起因を主語にするが、具体的にどの部位が痛むのかを明示するできないため、痛む場所を主語にすることは難しい。この二つの用法の中間にあり、両者を結ぶ橋渡し役を担うのが、心理的痛みであるが、痛む部位を主語にできる以下の（11b）のパターンである。この場合、（実際に痛むこともあるかもしれないが）物理的・生理的な痛みというよりは、「悩ましい」という意味で心理的な痛みと解釈す

4 恥ずかしくて見てられない人のことを指す「痛い人」やオタク文化から生まれたとされる車にアニメやゲームなどのキャラクターのステッカーを貼り付けた「痛車」などは起因を主語とする構文の拡張（e.g. この車が痛い→痛い車>痛車）であると考えらる。

るのが自然である。このような場合、脳に負荷がかかるという比喩的な意味で、その負荷がかかる部位「頭」を主語にすることができる一方で、その起因も主語にすることもできる。

(11) 「(Yで) [X] が痛い。」

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| a. 気圧の変化で頭が痛い | 物理的痛み (Y: 起因、X: 部位) |
| b. 年末の出費で頭が痛い | 心理的痛み (Y: 起因、X: 部位) |
| b'. 年末の出費が痛い | 心理的痛み (X: 起因) |
| c. 君がすさんだ瞳で強がるのがとても痛い | 心理的痛み (X: 起因) |

このヴァリエーションを図示すると、以下のようになる。イメージの基盤となっているのは、「身体的インタラクション」のイメージであり、自己が外界との接触により、感じる痛みをバツ印 (×) で示している。物理的・生理的痛みを表す (11a) のパターンでは、痛む部位が主語になっているため、バツ印を太線で示しているが、心理的痛みを表す (11c) では、自己に痛みを与える起因を主語としているため、外的対象の方を太線で示している。(11b) のパターンは、痛む場所とその起因をどちらも主語とすることができるので、両方を太線で示している。

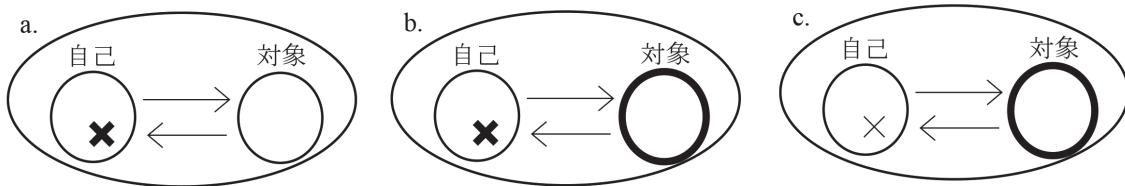


図6 :「痛む」の主語の選択

日本語の「痛む」の主語の選択をみると、痛みを感じるという身体的インタラクションの認識の在り様が背景にあり、そのイメージの中で注目する部分を少しずつズラして主語を選択していることがわかる。このように、人間の認識の在り様をふまえ、言語を観察することで、言語現象の「なぜ」に認知的・心理的動機づけを提供することができるのは認知言語学の強みの一つであるといえる。

4.2. 働きかけに対する抵抗感：意志を表す Will の主語の擬人的用法

身体的インタラクションの認識の在り様は英語の現象にも反映されている。英語の will は未来を表す表現として習うが、気を付けなければならないのは一人称を主語とした will は話し手自らの意志を表すことである。そのため、未来を表す表現であるからといって「だろう」を用いて日本語にするとおかしな和訳になってしまう。また、Will you ~ ? が「～してくれませんか？」という依頼の意味を表すのも、元々二人称を主語にして聞き手の意志を尋ねているためである。

- (12) a. I will get up at 6 tomorrow. 「私は、明日6時に {起きるよ。／ ?? 起きるだろう}」
 b. Will you open the window? 「窓を開けてくれますか？」

このような意志を表す will が、以下のように、無生物を主語 (This door 「このドア」、My car 「私の車」) にして用いられるときがある。この用法は一般的に「擬人的な使い方」と説明される。(cf. 江川 1991,

大西・マクベイ 2017)

(13) This door won't open.

「このドア、開かないんですよ」

My car won't start.

「私の車、エンジンがかかりません」

(大西・マクベイ 2017: 110)

意志を表す will が意志をもたない無生物を主語にするので、「意志を持っているかのように」という意味で擬人的な使用と説明されるのはわかるが、問題はなぜ擬人的な使用法が発生するのかということにある。

この問題に対しても背景に身体的インタラクションの認識の在り様を想定すると容易に説明することができる。つまり、この表現を言語化する自分が無生物主語で示される対象とインタラクションを行い、その体験を通して感じる感覚（例えば、抵抗感や話し手自身にはどうしようもできないという感覚、など）がこの擬人的な使用法を動機づけているのである。

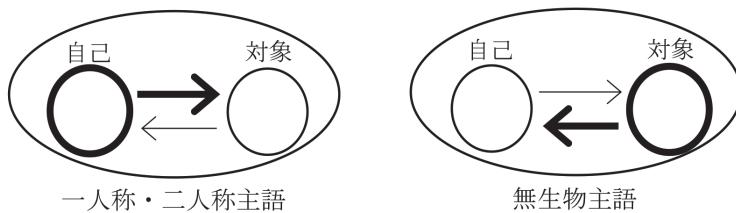


図7：意志を表す will の主語の選択

以下 (14a) では、「カバンを締める」という能動的行為に対して、カバンをなかなか締められず、自己の思い通りにいかないという反動から、カバンが抵抗しているという感覚を無生物主語の意志として描写している。(14b) でも同様に自己の「眠る」という能動的行為がうまく成立しないことから、その原因である「おなか」が眠りを妨げているという表現となっている。どちらも、発話する自己の行為に対する抵抗感が無生物主語の用法を動機づけているといえる。

(14) a. The bag won't fasten properly.

「かばんがどうしてもちゃんと締まらない」

b. My stomach won't let me sleep.

「おなかがすいて、どうしても眠れない」

(江川 1991: 216)

このような能動的行為から受ける感覚を「アフォーダンス」(cf. 本多 2005) という。抵抗感とは言いくらいが、以下のような、無生物主語の例もアフォーダンスの一例と言える。この場合、こちら側の能動的行為の側面はそこまで感じられないが、無生物主語が擬的にこちら側に座ることを許容する（アフォードする）意志を示しているかのような表現となっている。

(15) The back seat of this car will hold three people.

「この車の後席には3人座れる。」

『新英和中辞典』

英語の意志未来を表す will の主語の選択に関しても、無作為に決まっているのではなく、身体的

インタラクションのイメージを基盤に、注目する位置を変えることで主語の選択が行われていることがわかる。言語は人間が産出するものであるため、語彙や文法の意味の拡張や使用法の変化には必然的に何かしらの認知的・心理的動機づけが関与しているのである。

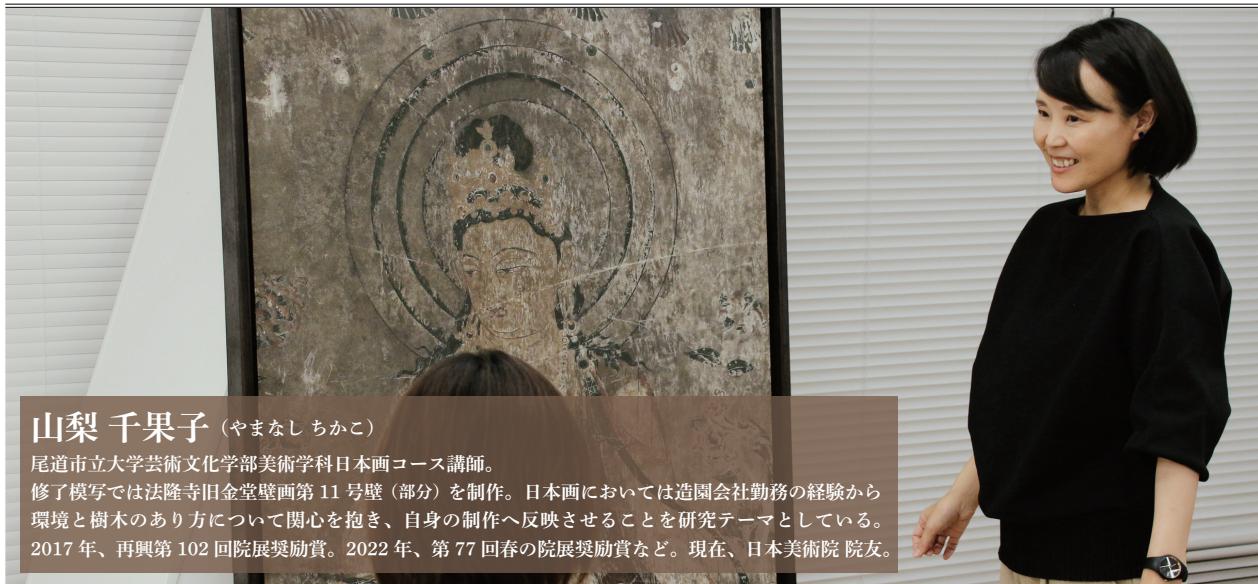
5. まとめ

認知言語学と言語相対論の考え方を紹介し、言語の相対性と普遍性に関わる言語現象の一端を紹介した。2章では、認知言語学と言語相対論を概観し、言語を通して人間を知るための思考法を紹介した。3章では、モノ概念を表す名詞句に関わる文法項目を探り上げ、日本語と英語ではモノ概念の捉え方に好みの違いがあることを論じた。具体的には、英語では、モノ概念が「数えられるかどうか」に着目するため、可算・不可算名詞や不定冠詞という文法項目がある一方で、日本語では、「対象の特徴を基にした分類」に着目するため、その捉え方が類別詞の使用を動機づけていることを論じた。4章では、言語の普遍性の側面に注目し、人間がもつ身体的インタラクションの認識が日本語と英語の主語選択のヴァリエーションの発生に関与していることを論じた。

この地球上で、言語を用いることができる人は人間だけである。人間以外の動物も世界を知覚・認識しているが、言語を操る種はいまだ生まれていない。すなわち、言語を扱う能力というのは、人間を特徴づけるものであり、他の動物と決定的に異なる違いである。言語を生み出し、理解する人の認知能力を探求する認知言語学が目指すのは人間を人間たらしめるものの解明であり、つまり、「人間とは何か?」という究極の問いに対する答えを探求することにあるといえる。

参考文献

- 江川泰一郎. 1991.『英文法解説』東京：金子書房.
- 濱田英人・井上紗葉璃. 2011.「日本語話者のモノの認識と類別詞」『文化と言語』第75巻. pp.51-77. 札幌大学外国語学部紀要.
- 濱田英人. 2019.『脳のしくみが解れば英語がみえる』東京：開拓社.
- 本多啓. 2005.『アフォーダンスの認知意味論 生態心理学から見た文法現象』東京：東京大学出版会.
- 池上嘉彦. 2006.『英語の感覚・日本語の感覚』東京：NHK出版.
- Ikegami, Yoshihiko. 2016. 'Subject-object contrast and subject-object merger in "thinking for speaking."' In Kaori Kabata & Kiyoko Toratani (eds.), *Cognitive-Functional Approaches to the Study of Japanese as a Second Language*, pp.301-318. Boston: Mouton de Gruyter.
- Langacker, Ronald. W. 2008. *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*. Oxford : Oxford University Press.
- 森 雄一・高橋 英光 (編). 2013.『認知言語学 基礎から最前線へ』東京：くろしお出版.
- 中村芳久. 2019.『認知文法研究 主観性の言語学』 東京：くろしお出版.
- ノーレットランダーシュ、トール. 2002.『ユーザーイリュージョン 意識という幻想』, 柴田裕之(訳) 東京：紀伊国屋書店.
- 野村益寛. 2013.『ファンダメンタル認知言語学』東京：ひつじ書房.
- 野村益寛. 2020.『英文法の考え方 英語学習者のための認知英文法講義』東京：開拓社.
- 大西泰斗・マクベイ、ポール. 2017.『総合英語 FACT BOOK これからの英文法』東京：桐原書店.
- 下條信輔. 1999.『〈意識〉とは何だろうか 脳の来歴、知覚の錯誤』東京：講談社現代新書.
- 時枝誠記. 1941.『国語学原論』東京：岩波書店.



山梨 千果子（やまなしちかこ）

尾道市立大学芸術文化学部美術学科日本画コース講師。

修了模写では法隆寺旧金堂壁画第11号壁（部分）を制作。日本画においては造園会社勤務の経験から環境と樹木のあり方について関心を抱き、自身の制作へ反映させることを研究テーマとしている。

2017年、再興第102回院展奨励賞。2022年、第77回春の院展奨励賞など。現在、日本美術院院友。

古典模写による実習授業の体験

尾道市立大学芸術文化学部美術学科日本画コース講師

山梨 千果子

2024年10月、教養講座では美術系大学日本画分野で行われている実習課題「古典模写」について、演習を通して古典作品に触れるワークショップを行った。この講座に沿って大学の授業における古典模写の取り組みと実習授業について述べてみたいと思う。

1. 大学で学ぶ古典模写

美術系大学の日本画コースでは「古典模写」という授業がある。これは画家が古典作品から技術や制作者の意図を学びとり画業の礎とする伝統的な学習方法を授業にしたものである。模写の対象となる古典作品には、鳥獣人物戯画や隨身庭騎絵巻などの平安・鎌倉期の白描画や、源氏物語絵巻や宋元画といった彩色が施された作品など、制作年代も幅広く国内外の作品を取り扱う。紙本、絹本、板材、壁画など支持体も多様でこれらは模写の目的によって選択される。

古来より現代に至るまで時代の影響を受けながら様々な目的で模写は行われてきた。古典作品から技術や意図などを学ぶ学習目的、文化財の保存や修復の為、そのほかにも信仰を理由とする目的などがある。この中でも大学の授業で行われている古典模写は、「学習」目的にあたる。

では画家は古画を模写することで何を学習しているのか。これも学びの目的や研究目的によって、素材、材料、技術、技法、筆法、精神論、宗教、歴史等、着眼点は多々ある。

作家自身が模写によって何を学び取ろうとしているのか目標を立て、伝統に基づいた修練方法等の中から適切なものを選択し取り組むことができるよう、古典模写学習法には順序立てが大切となる。

2. 模写の取り組み方

実際にどのような方法で模写を行っているのか。模写の仕上がり方、また写しとる際の具体的な方法について主な用語を紹介する。

現状模写と復元模写

現状模写とは、作品の経年変化・剥落・シミ・虫食いなど、現在の状況そのままの状態を写しとる模写をいう。美術系大学の古典模写の授業のほとんどが現状模写を行っている。それに対し、作品の破損箇所を補って当時の状態を想定する模写を復元模写という。保存・修復・歴史的な研究を目的とした中で行われることがある。この二つ以外にも現状模写を基としながらもある程度当時の状態の補いながら模写を行う方法もあり、何れも研究目的に沿って仕上げ方は選択される。

臨写と上げ写し

臨写は、原本や手本を隣に置いてゆっくりと深く眺め作品の世界観をじっくりと読み解く力を身につける。本画の持つ筆の勢いや墨や絵の具の濃淡など、作者の意図するところを損なわないよう写し上げていく。

上げ写しは、原本や手本の上に紙を重ねて残像効果によって写し上げていくことで、コピー機のような正確な配置の線と機械で再現できないリアルで自然な配色を写しとる。上げ写しは描き手の個性をできる限り抑えることで共同作画による均一感を保つことが可能とされる。

大学の授業では「上げ写し」による「現状模写」が行われている。これは国内のほとんどの大学で同様であり、本講演でも同じ方法でワークショップを行っている。しかし学習の本質を考えてみた時、臨写にこそ画家の習得すべき精神が詰まっているといえるのではないだろうか、と課題を残しておきたい。

3. 実習による勉強法

私がワークショップという短い時間の中で実習の時間を組み込んでいるのは、それは古典模写が伝統的学習方法として知識を伝えるだけでは学びの実感を得られないと考えているからである。作品鑑賞と異なり古典模写は手を動かし、修練を重ね、技法を学び取る実践である。本や美術館で観たことのある作品もその作品をそっくりに描くとなった時、私たちは注意力や集中力を増して隅々まで観察をする。時に紙の毛羽や絵の具の粒子が見えてくるまで視野を絞り、また時には距離を置いて作品全体から漂う時間の経過や空気感を感じ取り、これを繰り返し繰り返し作品と向き合うのである。そして表現するための筆運びや絵の具の置き方の反復練習を行い、体に馴染ませていく。

古典模写がどのような勉強法であるか、実体験によって少しでも感じ取ってもらうことが実習にこだわる理由である。

最後に実習の様子を写真資料にて紹介する。講演では鳥獣人物戯画を取り扱った。白描画の模写は古典模写の入り口として行われることが多い。模本資料は実際の大きさや本物に近い雰囲気を味わうことができる。(写真①②) 90分のワークショップでは小さな画面で模写を行う。(写真③) 大学院の授業では約半年の期間を掛けて模写を制作している。(写真④⑤⑥) 掛ける時間は異なっても手順は同じである。

古典模写を通じて古典作品に向き合うきっかけとなれたら幸いである。



写真①② 講座で使用した模本



写真③ 講座での模写の様子



写真④⑤⑥ 大学での授業の様子

教養講座

2024年10月30日（水）18:30～20:00 「古典模写～うつして学ぶ～」

講座で使用した模本資料：

国宝鳥獸戯画巻 講談社 複製制作大塚巧藝社 発行昭和43年1月30日

講座で使用した参考資料：

続日本の絵巻12（隨身庭騎絵巻／中殿御会図／公家列影図／天子摶闌御影）中央公論社 編集解説小松茂美

発行1991年2月

芥子園画伝 美術書出版株式会社・芸艸堂 刷師相本喜一 発行昭和59年6月



吉田 宰 (よしだつかさ)

九州大学大学院人文科学府博士後期課程修了。博士(文学)。

日本近世文学を担当。近世中期(1700年代頃)の文学を中心に研究している。とくに当時の文学が同時代の思想や自然科学などどのように関わり合っているのかに興味がある。また、近世中期における本屋の出版活動についても調査を行なっている。論文に「平賀源内『根南志具佐』のカッパ図」(『近世文藝』第112号、2020年7月)、「杉田玄白の諧謔精神—『耄耋独語』を中心にして」(『語文研究』第135号、2023年6月)などがある。

研究って面白い！ －私の研究履歴をとおして－

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科准教授

吉田 宰

尾道市立大学の学生は普段接している大学教員がどのような研究を行なっているのか、またどのような人柄なのか、程度に差はあれども少なからず把握しているだろう。しかし、その教員がどのような経緯で大学教員を目指すようになったのか、またこれまでに教員が経験してきた研究上の楽しみや苦しみ、そして論文執筆にあたっての研究の裏側までを具体的な資料をもとに教員からじかに聞いたことのある学生は意外と少ないのでなかろうか。このことは本学の学生以外の人にとってはなおさらで、研究という営みや大学教員の存在をどこか縁遠いものに感じている人も多くいるかもしれない。

そこで大学教員と普段接することがない高校生や一般の方々なども含めた幅広い層を対象に、研究の面白さを伝えること、さらには大学教員の存在をより身近に感じてもらうことを目的として標記の講座を行なった。

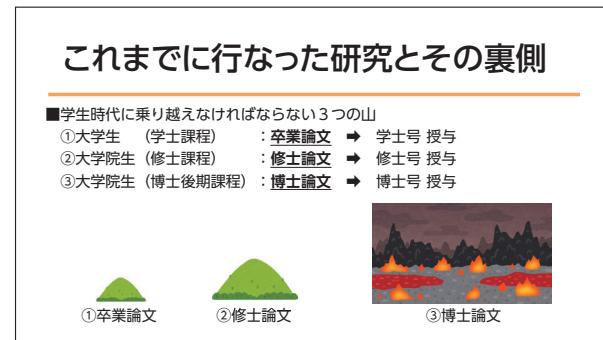
講座内容の大まかな構成は次のとおり。

1. はじめに
2. 経歴
3. 大学教員を目指すようになった経緯
4. これまでに行なった研究とその裏側
5. 吉田研究室の風景
6. おわりに

1. では、自己紹介や本講座の目的などを簡潔に説明した。
2. では、筆者の出身地、ならびに大学生（学士課程）→大学院生（修士課程、博士後期課程）→専門研究員→尾道市立大学教員、という筆者の主な経歴を説明した。
3. では、筆者が大学生および大学院生であった頃の指導教員との出会いが大学教員を目指すきっかけとなったこと、全国各地での古典籍の実地調査や論文掲載などをとおして研究の面白さを実感し、大学教員になる意思を固めていったことなどを説明した。
4. では、卒業論文・修士論文・博士論文の3つを中心に行なってきた研究の概要を紹介し、また文学研究を進める際の手順や博士論文提出後の近年の研究成果などを説明した。
5. では、筆者の研究室にある本棚の写真を提示し、日本古典文学に関する書籍のほか、思想史や科学史に関する書籍なども多く所有していることに触れ、様々な領域を横断的視点から捉えつつ、書籍に囲まれた空間で日々の研究を行なっていることを説明した。
6. では、筆者が考える「研究の面白さ」として、知的欲求にしたがって自分が気になることを比較的自由に調べられること、感情の揺さぶられる体験（古典籍調査のワクワク感、予期せぬ発見のドキドキ感など）があることを説明した。

なお、当日配布したレジュメやプロジェクターで映写したスライドでは【図1】や【図2】のようなイラスト・写真を多く用い、また卒業論文・修士論文・博士論文の現物や論文執筆にあたって筆者が集めた資料などを会場で展示した。そのほか、近年執筆した論文の抜き刷りも希望者に無料で配布した。

本講座をとおして、より多くの人が研究の面白さや大学教員の人となりそれ自体に興味を持ち、尾道市立大学の教員に対する親近感を抱いてもらえたなら幸いである。



【図1】



【図2】



小野 環 (おの たまき)

1973年北海道生まれ。美術家。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程絵画（油画）専攻修了。主な展覧会に「百蝠蝠」(iti-SETOUCHI、2025年)「いにしによる一断片たちの囁きに、耳を一」(瀬戸内海歴史民俗資料館、2022年)、「Re-edit 再編」(光明寺会館、2022年)、「VOCA展 2004 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」(上野の森美術館、2004年)など。2021年第24回岡本太郎現代美術賞特別賞、2016年小林和作賞受賞。AIR Onomichi 実行委員会代表、NPO法人尾道空き家再生プロジェクト副代表理事。

「絵」から「場所」へ —これまでの実践を辿る—

尾道市立大学芸術文化学部美術学科油画コース教授

小野 環

絵から場所へ——創作活動の変遷と展開

私の創作活動は、絵を描くことから始まり、ものを作ること、そこから派生して空間を作ること、さらに特定の場所に関わる創作活動、最近では場所に対するリサーチへと広がってきた。その一連の流れの中で、これまでアーティスト・イン・レジデンスや空き家再生プロジェクトなど、ローカルな場所やコミュニティに関わる活動にも取り組んできたが、それぞれの試みは現在に至るまで続いている。普段は現在の活動とその将来展望について話すことが多いが、今回は教養講座のスペシャル回で、人物紹介や専門に至るまでの来歴について触れるというお題を与えられたので、自分が美術を始めるまでの経緯について、幼少期からの話をした。

幼少期の体験と絵画への関心

北海道・函館で生まれ、幼少期、粘土遊びやレゴブロック、そして絵を描くことに親しんでいた。転機となったのは、従兄弟が描いた「宇宙戦艦ヤマト」の絵に衝撃を受け、「自分も上手に絵を描きたい」と強く思ったことだった。その後、小学校低学年の時に絵画教室の先生・梅田英俊と出会う。彼は武蔵野美術大学ではアーティスト・荒川修作の同期で、漫画家・水木しげるの最初のアシスタントを務めたことがあり、社会風刺を込めた独特な作風を持つ漫画家・画家だった。梅田は当時、学校でのいじめに悩んでいた私にとって異色の大人で、対等に接してくれる存在であり、週一回通っていた絵画教室は大切な居場所となった。油絵もそこで小学校5年生の時に始めた。

天文への興味とものづくりへの転換

小学校高学年の頃、ハレー彗星ブームの際に天文に熱中し、特に火星観測にのめり込んだ。天体望遠鏡も購入し、1986年と1988年の火星大接近を機に、自ら望遠鏡を作ることにも関心を持つようになった。のちに明確に自覚するようになるが、当時興味があったのは、天体の眼視観測によるスケッチであり、天文学が数学や物理学といった理論中心の抽象的な領域であることがわかってくににつれて、興味が薄れていくように感じた。そこで興味を持ち始めたのが、観測装置自体の自作であった。より具体的なものづくりともつながっている感じがしたからだ。そのため、反射望遠鏡の主鏡の研磨などを始めたのだった。自分の関心の中心は天文にあったが、並行してずっと絵も描き続けており、高校では美術部に入り油絵を日常的に描くようになっていった。

美術への進路と東京芸術大学での経験

進路について美術系に進むかどうか迷う中、高校2年生のときに試しに参加した美術予備校の夏期講習会でデッサンを体験。石膏像を木炭で描くという、今考えると大変シンプルなものであったが、当時はこれが非常に面白く、講師をしていた塩川高敏（本学名誉教授）に背中を押された感じもあり、美術の道に進む決意を固めた。その後、1浪を経て東京芸術大学絵画科油画専攻に進学。大学では山岳部に所属し、冬山で滑落による遭難事故を経験するなど、さまざまな出来事があった学部時代だった。予備校時代から大学生時代にかけての1990年代初頭は、バブル経済自体は崩壊していたものの、その余波を受け、東京近郊では数多くの質の高い展覧会や映画に触れる機会に恵まれていた。多くの現物の作品に触ることができ、リチャード・タトル、サイ・トゥオンブリなどの作品にも影響を受けた。学部4年生の時、学年担当であった榎倉康二が急逝したことは、衝撃的で悲しい出来事だったが、大学院生のタイミングで開催された遺作展の準備に関わり、通常の展示では見ることのできない榎倉氏の多彩な制作の側面に触れられたことは、大きな学びとなった。

アーティスト・イン・レジデンスと海外経験

大学院修了後、大学で非常勤の助手として勤務することになったが、その時アーティスト・イン・レジデンス「アーカス」のアシスタントを務めたり、大学によるアートプロジェクトの先駆けである「取手アートプロジェクト」の運営に関わったりする機会を得た。当時は能動的に引き受けた仕事ではなく、断ろうとさえ考えていたが、これらの仕事に関わった経験は現在につながる大事な布石ともいいくものであった。1999年にはベネチア・ビエンナーレに日本代表のアーティスト・宮島達男の手伝いとして参加し、国際的な美術の場に触れることになる。ベネチアでは世界中のアーティストのエネルギーと、祝祭的な雰囲気を目の当たりにし、強い刺激を受けた。その後、イスラエルやベルリンを訪れ、ベルリンの東西ドイツ統一後の街の変化や若手アーティストによるスクワット（不法占拠）、若者が新たに作り始めたギャラリーなど、廃墟や空きビルを活用した活気のある活動に触れることができた。街の雰囲気が最も印象に残る旅ではあったが、駅舎を改造した現代美術館「ハンブルガー・バーンホフ」で観たヨーゼフ・ボイスやアンゼルム・キーファーの作品は、強い存在感を放ち、作品と歴史と場所の関係性を考える上で強い印象を残した。

尾道での活動

2001年より尾道市立大学に勤務することになるのだが、その前年の2000年夏に友人でアーティストの三上清仁が参加していた「尾道帆布展」を見るため初めて尾道を訪れ、その歴史的で有機的な街並みや空き家の多さに興味を持った。偶然出会った地元の人が、なぜか半日同行して路地や空き家を案内してくれたことで、この街のポテンシャルを強く感じることができたのも印象的な経験であった。その後、2002年には、自分も運営側として「尾道帆布展」の企画に関わり、商店街の空き店舗を活用した展覧会を開催した。さまざまな場所の下見をしていく経験は今でもとても印象に残っている。こうした機会を経て、自身の関心は「空間」からさらに「具体的な場所」へと広がり、アトリエにおける制作と並行してプロジェクトやコラボレーションを行っていくようになる。

その後、2007年にアーティスト・イン・レジデンス「AIR Onomichi」をスタート。同時期に設立された団体NPO法人尾道空き家再生プロジェクトでの活動も開始した。初期のAIRは2年に一回のペースで開催していたが、2013年以降中長期プロジェクトを実行していくことになる。その代表的なものが、シュシ・スライマンを招いた廃墟を起点にスタートしたプロジェクトや、地域の歴史を掘り起こす横谷奈歩による「星劇団再演プロジェクト」である。また、尾道空き家再生プロジェクトでは、小林和作旧居の保存・活用に携わるなど、近年は建築と地域文化の再生に取り組んでいる。

今後の活動 文化的三角測量

最近は、尾道を起点に、イギリスや韓国、アジア各国との関係性を見つめ直す活動を展開している。例えば、シュシ・スライマンとの協働を通じて、マレーシアの先住民の村でワークショップを行い、インドネシアのスラウェシ島ではプロジェクトを実施するなど、活動の場を広げている。また、戦前まで活発であった尾道と韓国の関係に注目し、キョンファ・ソンとともに、尾道の歴史に刻まれた韓国との交流の痕跡を辿っている。

こうした国際的な交流やコラボレーションを通じた「文化の三角測量」(川田 2008)によって、地域や場所に潜む見えないものを明らかにし、場所の経験を更新し続けることが、自分の創作活動において重要なポイントとなっている。今後も、尾道・韓国・東南アジア・イギリスなどを行き来しながら、文化的な違いや共通点を探り、創作活動をさらに展開していきたい。尾道という場所のユニークさとその可能性、自分の中に染み込んでいる近代の仕組みや文化的枠組みとはどういうものなのか——こうした問いを掘り下げ、新たな創作の可能性を探求し続けるつもりだ。これまでさまざまな領域に着手してきたが、まだ掘り下げられていない課題も多く、引き続き自分自身を試し続けたいと考えている。

令和5年度（2023年度）教養講座カリキュラム

回	日 時	演 題	講 師
第1回	10月2日（月） 18:30～20:00	『源氏物語』を読んでみる —「帚木」巻—	尾道市立大学 芸術文化学部 日本文学科 教授 宮谷 聰美
第2回	10月17日（火） 18:30～20:00	地域社会が変わるとき －江戸時代尾道を訪れた旅人の役割－	尾道市立大学 経済情報学部 経済情報学科 教授 森本 幾子
第3回	10月31日（火） 18:30～20:00	油彩技法とその変遷	尾道市立大学 芸術文化学部 美術学科 准教授 西村 有未

令和5年度（2023年度）教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座（第1回）	
日 時	令和5年（2023年）10月2日（月）18:30～20:00
会 場	尾道市役所 2階 多目的スペース 1.2

演 題	『源氏物語』を読んでみる—「帚木」巻—
講 師	宮谷 聰美（尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授）
講座の概要	聞いたことはあるけれど、実際に読むのは大変そう……。そんな古典の代表格、『源氏物語』を身近に感じていただけたらと思います。「帚木（ははきぎ）」巻の仕掛けを味わいながら、投げかけられた問い合わせを探しに行きましょう！

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	32名
アンケート回答者（回収率）	30名（91%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
7	18	0	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点（抜粋）

- ・もっとゆっくり何日かに分けて聞いてみたくなりました。
- ・現代の人の感覚（学生さんの感想など）にも寄り添いながら、当時の常識や文学史について触れていただいて、たいへん面白かったです。
- ・久しぶりに源氏物語を読みたくなりました。
- ・「紫式部が女性という立場でどういった気持ちで、この帚木を書いたか」という、面白い視点から考えることができ良かった。
- ・とても分かりやすくお話いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。次回（も）は、ゆっくり深く教養講座の開催を宜しくお願ひいたします。
- ・新しい視点を考えさせていただきました。
- ・初めて聞くこともあり、興味深く聞かせていただきました。時間がなかったことが残念でした。
- ・「帚木」の巻、「空蝉」の巻、「雨夜の品定め」等、流れがあることがおもしろかったです。スケールが大きい物語なので理解できない。もっと読んでみたい。
- ・現代語訳をメインにテンポ良くわかりやすく解説されていて良かったと思います。
- ・解説がわかりやすかったです。
- ・限られた時間の中で素晴らしい講座をありがとうございました。ズブのド素人で参加させていただき、参加者には大きな温度差があろうかと思います。現文訳にもポイントをアンダーライン、パワーポイント作成等の説明があればより引き込まれます。おしゃべりはとても上手です。声も良い。
- ・やさしく、わかりやすかったです。ありがとうございました。
- ・また源氏物語をしてほしいです。宮谷先生のお話が聞きたい。わかり易く楽しかったです。
- ・資料がよかったです。

- ・はじめて源氏物語に触れました。ありがとう。
- ・時間が短いのはわかりますが、なんだかあわただしいという感じでした。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・思った以上に奥が深くて、いろんな読み方ができるのに感心しました。でも男と女の話は今も昔も変わらず。今でも面白い。
- ・可能であれば回数を増やしてほしいです（全学科2回ずつなど）。
- ・とても短い時間で理解することが出来ました。光源氏の人物像等々少しづつ分かりはじめました。又、講座の開催よろしくお願ひいたします。
- ・ある程度の参加人数で良かった。
- ・以前から大学の何かの講座に参加してみたいと思っていたため、本日参加できてよかったです。（できればもう少し講座の存在をPRしていただけると情報を得やすくて助かります・・・！）
- ・まずは「あさきゆめみし」を読んでみようと思います。
- ・次回も参加させていただきます。すべての参加者のレベルに応じた講座は困難だと思いますがまとめはとてもよかったです。非常に興味をもちました。日本文学を更に勉強しています。
- ・大河ドラマになるとは知らなかったのですが、今日のお話で興味が湧いたので見てみようと思いました。帚木、空蝉の部分を見るのが楽しみです。高校生の頃から伊勢物語が好きなので、今度は伊勢物語の講座を聞いてみたいです。出来れば月曜日にやっていただけると嬉しいです。

令和5年度（2023年度）教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座（第2回）	
日 時	令和5年（2023年）10月17日（火）18:30～20:00
会 場	尾道市役所 2階 多目的スペース 1.2

演 題	地域社会が変わるとき－江戸時代尾道を訪れた旅人の役割－
講 師	森本 幾子（尾道市立大学経済情報学部経済情報学科教授）
講座の概要	地域社会が変わるとき、一体何がきっかけとなるのでしょうか？本講座では、尾道町で生じたさまざまな問題の解決に、旅人が果たした役割を紹介し、地域の「新陳代謝」のあり方を歴史的に読み解きます。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	27名
アンケート回答者（回収率）	25名（93%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
15	6	0	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点（抜粋）

- ・尾道の文化が昔から盛んであったことがよくわかりました。
- ・資料の準備がよく、分かりやすくなっていた。
- ・知らないことだらけでした。とてもおもしろかったです。貴重な資料を見せていただき、ありがとうございました。
- ・わかりやすい説明でとてもよかったです。素晴らしい話しぶりで聞きやすく話に入っていける。さすがです。又、いろいろと先生の講座を受講したいです。尾道に来訪した行商人は、なぜ尾道に来たのか？ 全国的に需要があったから？
- ・尾道へ来訪される行商人の事は知らなかったので、面白かったです。
- ・尾道の商人といえば北前船ばかりが注目されるが、陸路で尾道を訪れた旅人の動向について知ることができとても面白かったです。
- ・スライドで沢山の絵入り資料を見せていただきとても興味深かったです。話し方や構成（一つずつの内容にまとめがある）が、分かりやすかったです。尾道に引越してきた身なのでこの町の歴史を知ることができて良かったです。ありがとうございました。
- ・古い絵などの資料を見ながらで興味深くおもしろかったです。
- ・普段手に取るような本では得られないお話を聞けてとても楽しかったです。
- ・参加者は老若男女、多くの方が集まっていた。共に暮らす街の歴史を学べてよかったです。
- ・もっと聞きたかった。私も研究したい。
- ・大変楽しくお聞きしました。
- ・古い尾道の新たな発見ができました。
- ・丁寧でわかりやすい講義でした。また次回を楽しみにしています。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・森本先生の講義を又聞きたい。国文と経済と歴史、good！
- ・あまり触れることのない経済について、初めてでしたがよく知れる内容でした。
- ・貴重な講座をありがとうございました。とてもよかったです。
- ・尾道の商人との取引とか見れればよかったですかなと思いますが、盛り沢山でよかったです。
- ・江戸の尾道、にぎやかそう。SNSもない時代、自己PRが個性的で。外の人を受け入れ、町が変化する、今も変わらないなと思いました。
- ・とてもおもしろかったです。次の機会、待ってます！ありがとうございました。
- ・芸能者たちと尾道についてもっと話をききたいと思いました。

令和5年度（2023年度）教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座（第3回）	
日 時	令和5年（2023年）10月31日（火）18:30～20:00
会 場	尾道市役所 2階 多目的スペース1.2

演 題	油彩技法とその変遷
講 師	西村 有未（尾道市立大学芸術文化学部美術学科准教授）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	21名
アンケート回答者（回収率）	15名（71%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
5	7	0	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点（抜粋）

- ・マチエールという切り口は初めて聞いたことで勉強になりました。油絵の歴史、厚く塗り置くことなどおもしろかった。「物質画」「物語画」「絵具は嘘をつく」キーワードですね。油絵の奥の深さ絵画の楽しさを知りました。ありがとうございました。実演も大変良かったです。情熱が伝わりました。
- ・絵の具の質感の評価が時代で変わるとは思わなかった。絵を見る時に思い出したい。
- ・これからは絵画の見方も私なりに変わるかもしれません。とてもおもしろかったです。
- ・芸術をちがった視点で見ることができました。
- ・本日のお話のようなことに今まで触れたことがほとんどなかった。絵に顔を近づけてみることはあったが。
- ・レンブラントから画材が強調される絵画が認められたことがよく分かった。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・3回受講させていただき大変参考になりました。講師のみなさま準備等いろいろありがとうございました。
- ・中高生が参加しやすい日時にするとよいきっかけづくりになるのではないかと感じました。

令和五年度尾道市立大学公開講座

教養講座

講師・宮谷
聰美

(日本文学科教授)

第一回・十月二日(月)

『源氏物語』を読んでみるー「第木」巻一

講師・森本
幾子

(経済情報学科准教授)

第二回・十月十七日(火)

地域社会が変わるときー江戸時代尾道を訪れた旅人の役割

第三回・十月三十一日(火)
油彩技法とその変遷

講師・西村
有未

(美術学科講師)

入場無料

事前予約不要

【時間】 18:30~20:00(18:00開場)

【場所】 尾道市役所2F多目的スペース1

令和6年度（2024年度）教養講座カリキュラム

回	日 時	演 題	講 師
第1回	10月2日（水） 18:30～20:00	安心してインターネットを楽しむために ～情報セキュリティの基本～	尾道市立大学 経済情報学部 経済情報学科 教授 南郷 肇
第2回	10月16日（水） 18:30～20:00	ヒトを知るための言語学： 認知言語学と言語相対論	尾道市立大学 芸術文化学部 日本文学科 講師 高島 彰
第3回	10月30日（水） 18:30～20:00	古典模写 ～うつしてまなぶ～	尾道市立大学 芸術文化学部 美術学科 講師 山梨 千果子
スペシャル	10月12日（土） 13:00～16:15	研究って面白い！ —私の研究履歴をとおして—	尾道市立大学 芸術文化学部 日本文学科 准教授 吉田 宰
		「絵」から「場所」へ ～これまでの実践を辿る～	尾道市立大学 芸術文化学部 美術学科 教授 小野 環

令和6年度（2024年度）教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座（第1回）	
日 時	令和6年（2024年）10月2日（水）18:30～20:00
会 場	尾道市役所 2階 多目的スペース 1.2

演 題	安心してインターネットを楽しむために～情報セキュリティの基本～
講 師	南郷 毅（尾道市立大学経済情報学部経済情報学科教授）
講座の概要	スマートフォンの普及により、年代を問わず誰もがインターネットを利用できる時代になりました。しかし、家庭や職場でインターネットを安全に利用できていますか？ 本講座では、情報システムの利用者として知っておくべき基本的な情報セキュリティ対策を紹介します。安全なインターネットライフを送るための第一歩と一緒に学びましょう。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	45名
アンケート回答者（回収率）	40名（89%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
22	15	0	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点（抜粋）

- ・一方的に話を聞くだけでなく、参加型であったのがよかったです。
- ・身近な例が含まれ、わかりやすかったです。
- ・実際に自分で考えるところがあったのが良かったです。
- ・自分たちで考えられるクイズの時間があり実際どのようなものか体験できて良かったです。
- ・具体的な対策案を教えてくれたのがためになりました。
- ・サポート詐欺はアダルトサイトなどに仕掛けられているというはどういうことかと思ったが、人に言いにくいところを狙うということが分かって良かったです。最初の自己紹介が少し長かったです。
- ・細かい知識がなくても話を理解することができました。
- ・お話を分かりやすかったですし、初めて知る事を詳しく教えていただいたので、対処法も知ることができ、良かったです。
- ・クイズがあったので、分かりやすかったです。
- ・すごく丁寧に教えてくださったので、内容が良く入ってきました。クイズのところも、とても楽しかったです。
- ・クイズがあって自分で考えられることがあってわかりやすく知れた。
- ・詐欺はどんなものがあって、どんな状況の時に来るのか、また被害を受けた時の対処法について詳しく教えてくれていて、とてもわかりやすかったです。
- ・動画やクイズを通して実際にやってみることでわかりやすかったし、自分が生活の中で使えるURLなどもあり、役に立つ情報がたくさんあって良かったなと思いました。
- ・セキュリティ関連について分かりやすく教えてくださってためになった。

- ・1つ1つ丁寧に説明していく分かりやすかった。
- ・メールの例の中身が小さく見えにくかった（A3の紙も前の画面も）。日常生活に関連した内容が多く参考になった。
- ・はきはきとしてよく教えてくださってとても良かったです。家に帰って家族にも伝えます。パスワードのつかい回し、ありがとうございます。たくさんのパスワードを考えるのはけっこう大変だなあ。
- ・とてもわかりやすかった。もう少しスマホについて知りたかった。
- ・「フィッシングメールクイズ」など具体例がありわかり易かった。
- ・大変わかりやすい講座でした。安心してパソコンやスマホが使用できます。
- ・身近に起き得るトラブルについて、対応が勉強になりました。
- ・実用的、具体的でよかったです。
- ・学生から大人まで幅広い年齢層の方に興味を持てる題材でとてもよかったです。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・自分の知らない方法が多々知ることができて良かった。
- ・誰にとっても実用的な内容で良かった。インターネット利用時は常に危機をはらんでいることを改めて意識したい。
- ・私のような若い年代はSNSなどを使いなれてしまって、警戒心がうすくなってしまっていたが、これを受けて再度意識することができた。
- ・いつでも、誰でも引っかかる事なので、気を付けたいと改めて感じました。今日教えていただいた回避方法やポイントを覚えて被害を減らせるようにしたいです。
- ・メールによるウイルス等はあまり気にしていませんでしたが、今回の講座を受けて今日からはちゃんと気を付けようと思いました。私は、尾道市立大学を志望しているので、とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・情報が盗られないために大切なことを知ることが出来た。被害に合わないよう今回の講座を忘れずにいたい。
- ・これから来る迷惑メールの対処法が分かってよかったです。
- ・自分が生活の中で活用したい情報を学ぶことができたので、色々な詐欺にからないように意識していきたいです。
- ・あまり知らなかった詐欺の方法を知ってそんな方法で仕掛けてくるんだ？！ってびっくりしました。今回で新しく知れたのでこれから気をつけたいと思いました。
- ・他大学講座に参加経験がありますが私が若い層で参加年齢層が高かったです。こちらの講座では高校生の参加も多く興味や地域性の違いなのかなと思いました。
- ・初めて参加しましたが、思ったよりも受講生が多いと驚きました。少し学生気分が味わえました。
- ・続編をおねがいします。
- ・クイズを行うなど、受講者に飽きさせない工夫も見られ、通してよい講座だった。

令和6年度（2024年度）教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座（第2回）	
日 時	令和6年（2024年）10月16日（水）18:30～20:00
会 場	尾道市役所 2階 多目的スペース 1.2

演 題	ヒトを知るための言語学：認知言語学と言語相対論
講 師	高島 椋（尾道市立大学芸術文化学部日本文学科講師）
講座の概要	地球上には現在7,000以上の「ことば」があると言われています。なぜ「ことば」は多種多様なのか？そこには人間の世界の捉え方が関わっています。本講座では、ヒトを知るための「ことば」の研究の一端を紹介します。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	28名
アンケート回答者（回収率）	24名（86%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
15	6	1	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・高島先生の声も聴きやすく、途中でクイズを出したり、隣の人と話し合う時間を設けたりと、とても良い雰囲気の講座でした。内容はとても難しかったと思いますが、易しい言葉で説明してくださいり、理解出来ました。ありがとうございました。
- ・大変面白い講座でした。ありがとうございました。具体例や笑える話等がたくさんあって文字通り面白く、また興味深い内容でした。
- ・図と例文を使って丁寧に解説してくださったので理解しやすくあつという間の1時間半でした。
- ・ワークがあってよかったです。
- ・言語の認知の差を異なる言語である英語を用いてのお話なのが例としても分かりやすかったです。
- ・問題があり、話合うこともできて、楽しんで聴くことができました。
- ・とても楽しい90分間でした。ありがとうございました。
- ・具体例が多く、自分の理解を助けてくれた。
- ・言葉のもつイメージ、国によって違う、興味深かったです。可算名詞、不可算名詞勉強になりました。もうちょっと気軽なものかと思っていましたが、使われてる言葉が難しそうで構えてしましました。内容は分かり易く工夫されていて良かったです。ほかの言葉で置き換えるは、言語の違うものだけではなく年代が違う人同士の会話でも使いますね。
- ・言語によるイメージの違いについて良くわかった。
- ・一緒に考えられる問題がたくさん用意されていて楽しかったです。
- ・ことばの学問を聞かせてもらった。
- ・とても勉強になりました
- ・最高に楽しい時間でしたし、勉強になりました。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・元々、言語学に興味があったため今回の講座を受講させていただきました。日本語と英語や他の言語の捉え方の違いなどについてより関心を持ち、研究をしていきたいと思いました。特に面白いと感じたところは、比喩表現のところです（日本語と英語“レモン”の捉え方が違う点が面白かったです）本日は、本当にありがとうございました！
- ・子どもや外国の方とのコミュニケーションの機会があるので参考になりました。色の捉え方も興味深かったです。
- ・聞いていてとても面白かったです。言語に対して抱いていた漠然としていたイメージが日本語と英語の比較から思考の違いや見方であるのが分かり、更に興味を持つことができました。
- ・子どもについて来ました。全く興味ないはずが、話にひきこまれました。あっという間におわり、少し残念。また来たいです！　ありがとうございました。
- ・問題が楽しくて、例文を使って分かりやすく説明されて面白かったです。
- ・隣の人と話す時間に、知らない人が横だと話せなかった感じも含めて懐かしかったです。
- ・メタファー拡張についてすごくひかれました。映画はフィルムを一本として捉えるのかと思いました。最近興味を持った学問でしたが、この講義を通してもっと深く学んでみたいと思いました。
- ・英語に苦手意識があったが、苦手な理由が少しわかった気がする。日本の歴史において「檸檬」のような認識の変化について知りたい。育つ場所によっての認識が異なり、文化に根付いたものになっている部分がとても面白かった。
- ・ZOOMでもできればありがたい。移動に時間がかかるので。
- ・参加者の質問を聞いていて、改めて人はおもしろいと感じました。
- ・言語の違いは、世界観の違いである。「ことばは世界を捉える道具」感銘を受けた言葉です。ありがとうございました。
- ・言語学をまた勉強したいです。

令和6年度（2024年度）教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座（第3回）	
日 時	令和6年（2024年）10月30日（水）18:30～20:00
会 場	尾道市役所 2階 多目的スペース 1.2

演 題	古典模写 ～うつしてまなぶ～
講 師	山梨 千果子（尾道市立大学芸術文化学部美術学科講師）
講座の概要	多くの美術系大学の日本画コースでは「古典模写」がカリキュラムに組み込まれています。なぜ画家は古典模写を行うのか、どのような勉強法があるかを体験を通じて感じてもらうワークショップです。墨を使いますので汚れても良い服装やエプロン等をご準備ください。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	23名
アンケート回答者（回収率）	17名（74%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
13	2	0	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・古典模写の世界がある事も知りませんでした。
- ・実習・体験が楽しかった。
- ・古典の模写について知ることができてよかったです。楽しかったです。
- ・実技時間があつという間でしたので少し時間があればと思いました。
- ・とても良い経験をさせていただきました。本当に素敵なお時間でした。日本画 彩色もやってみたいです！

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・難しさも分かりました。
- ・古典文学については明るくないのですが、すごく興味をひかれました。とても楽しかったです！
- ・年に何回か出来る事を楽しみにします。尾道市立大学のすばらしさを感じ50年前を思い出し感動しました。
- ・知らない世界でしたので勉強になりました。ありがとうございました。
- ・筆のかすれが難しかったです。大変良い体験ができました。ありがとうございました。
- ・絵を見るのと描くのは大違ひなことがよくわかりました。貴重な時間を本当にありがとうございました。
- ・実習の教材 etc、大変なのにご準備いただきありがとうございました。始終笑顔でのご講義楽しかったです。

令和6年度（2024年度）教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座 スペシャル（第1回）	
日 時	令和6年（2024年）10月12日（土）13:00～14:30
会 場	尾道市役所 2階 多目的スペース1.2

演 題	研究って面白い！—私の研究履歴をとおして—
講 師	吉田 宰（尾道市立大学芸術文化学部日本文学科准教授）
講座の概要	私は江戸時代の文学を研究しています。今回は私の過去を振り返りながら、大学教員を目指すようになった経緯や研究の裏側などをご紹介します。本講座をとおして、研究の面白さや大学教員の存在をより身近に感じていただけたらと思います。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	30名
アンケート回答者（回収率）	26名（87%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
12	9	0	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・対面の形で参加できた点。
- ・研究者について初めてのお話でした。とても興味深かったです。分野は別にしてとても素晴らしいお仕事だと思います。
- ・論文作成の過程を教えてくださったのはとても嬉しかった。
- ・改めてフィールドワークの大切さを知った。
- ・内容も面白かったけど、話し方がとても聞きやすかったです。初めて研究者の方のお話を聞いて、自分でも研究とはなにかが分かっていなかったので、それを知る良い機会となりました。
- ・大学の先生が辿ってきた道を知ることができ、改めて尊敬の念をいただきました。
- ・研究対象以外についても詳しく見ていく中で、新たな発見があるというお話がとても興味深かったです。様々なことを横断的に、多面的に見ていく力は、日々の生活の中でも大切なことだなと改めて感じました。ありがとうございました。
- ・論文を書くにあたって、どのように内容を準備しているのかが知れた。一人を調べるなら周りの人を調べることで視野が広くなることを知れた。文学を学ぶ中でも、現地に行ったりすることによってより深く知識を得ることができることを初めて知れた。
- ・吉田講座、大変良かったです。研究のおもしろみ、大変さがよく解りました。
- ・研究の内容について、またご経歴を伺い、国文学の楽しさを再発見できました。専門にされている方からのお話を伺う機会はとても貴重な経験で熱意も感じられて面白かったです。ありがとうございました。
- ・これから卒論を書き、修士に進む立場からきくと、とても参考になりました。地獄と言いながらも、楽しんでいらっしゃることが分かってよかったです。
- ・先生が先生になるまでの歴史を知る（かいま見る）ことができておもしろかったです。

- ・研究者の研究過程がとても判りやすく説明されていて、楽しく拝聴出来ました。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・先生ご自身がお話をされるとき、嬉しそうな顔で話されているのが印象的でした。社会人ですが、これからのお働き方について、考えている時期だったので元気をいただきました。ありがとうございました。
- ・いつも良い講座をしてもらえて有難く思っております。
- ・他の先生の話も聞きたい。シリーズにしてほしい！
- ・自分が文学部に行きたいと思っていても、実際にどのようなことを研究しているのか、「こんな感じかなー」という感じのイメージしかなかったため、何をするのか、どのように学ぶのかが知れて良かったです。
- ・教養講座を開催いただき有難うございます。学問の大切さが良く解ります。
- ・出会いたい、読みたい作品が増えました。文系理系を分ける時代ではないと思います。文化が知恵をつなぐ人が人であるゆえんと考えます。
- ・私も頑張ろうと思います。
- ・近世文学の吉田講師の講座をお聞きしたいので、談話会で行っていたければ嬉しく思います。
- ・先生の研究＆近世愛が伝わってきました！一歩ずつとても丁寧に実績と経験を重ねてこられ正在に大変感銘を受けました。

令和6年度（2024年度）教養講座アンケート集計

尾道市立大学 教養講座 スペシャル（第2回）	
日 時	令和6年（2024年）10月12日（土）14:45～16:15
会 場	尾道市役所 2階 多目的スペース1.2

演 題	「絵」から「場所」へ～これまでの実践を辿る～
講 師	小野 環（尾道市立大学芸術文化学部美術学科教授）
講座の概要	元々天文に興味があったが、画家を志し、浪人を経て美大進学。現代美術の豊かさに触れ、興味が拡張。尾道移住後、滞在制作のプラットフォームの立ち上げや空き家再生活動へ参画。これまでの実践と、関心の変遷を現在地から振り返りつつ、今後の展望について語ります。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	33名
アンケート回答者（回収率）	27名（82%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
15	7	0	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・小野先生のバックグラウンドの話はその振り返り、過去の重要性を感じさせられました。それが美術の魅力をみせることに有効であるのも感じた。
- ・専門の方のお話を伺い、またこの尾道に来られたご縁、楽しく拝聴しました。多くの作品を知り、美術館を訪ねてみようと思いました。ありがとうございました。
- ・伺ったことのあるお話、初めてのお話などが混じり、非常に興味深く拝聴しました。
- ・スクリーンも大きく見やすかった。ホワイトボードもよくわかった。時間が短かった。
- ・写真が多くてよかったです。
- ・ちょうど同じ時代感があるので、自身の過去とも合わせて聞くことができておもしろかったです。
- ・美術・建築・様々なネットワークでの人々のつながりや世界が広がり面白いなあと思いました。ありがとうございました。
- ・尾道市立大学の学生にも毎年話すとよいと思いました。
- ・今まで知らなかった先生のこれまでの人生が深く知れてよかったです。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・あまりこういう話されることがないので新鮮でした。
- ・講師の先生方はじめ関わったみなさま、おつかれさまでした。
- ・作品をつくられるところから、場所、時間、蓄積してきたものを地域の人々とのつながりと展開されてゆくプロセスがおもしろかったです。もっとお話をきたかったです。有難うございました。
- ・尾道市立大学美術館で小野さんの作品を見たことがあって、今日は小野さんの色々な話をきかせてもらって面白かったです。

- ・楽しい時間でした。吉田先生の視点とは当たり前ですが全く違って、興味のあることに関わり続けているところが（ほかの先生も共通）素敵だと思いました。飽きないスライドでした。大学の時に見たことのある先生や事務員さんがいて懐かしかったです。ありがとうございました。
- ・これから美術を目指したり進路に悩む学生達にも広く聞いてもらいたいお話でした。
- ・改めて先生に尊敬の念を抱きました。とても面白いお話だったので、今回限りと言わず今後もお話ししてほしいと思いました。

教養講座

令和6年度尾道市立大学公開講座

5回にわたり公開講座を開講します。各専門分野に基づくテーマで

教養講座

時間 | 18:30~20:00(18:00開場)
会場 | 尾道市役所2階 多目的スペース1.2

【第1回】

10月2日(水)

**安心してインターネットを
楽しむために**

~情報セキュリティの基本~

経済情報学科 南郷 賢 教授

【第2回】

10月16日(水)

**ヒトを知るための言語学
: 認知言語学と言語相対論**

日本文学科 高島 彰 講師

【第3回】

10月30日(水)

古典模写 ~うつしてまなぶ~

美術学科 山梨 千果子 講師

教養講座スペシャル

時間 | 13:00~16:15(12:30開場)
会場 | 尾道市役所2階 多目的スペース1.2

10月12日(土)

**① 研究って面白い！
—私の研究履歴をとおして—**

日本文学科 吉田 宰 講師

**② 「絵」から「場所」へ
～これまでの実践を辿る～**

美術学科 小野 環 教授

予約不要・入場無料

令和5年度（2023年度）尾道学入門公開授業カリキュラム

尾道市立大学では、地域に開かれた大学づくりの一環として、教養教育科目の講義「尾道学入門」を公開いたします。

回	日 時	演 題	講 師
第1回	5月18日（木） 9:00～10:30	映画制作と街の活性化	有限会社こもん代表取締役社長 大谷 治
第2回	5月25日（木） 9:00～10:30	和作先生の思い出	洋画家 村上 選
第3回	6月1日（木） 9:00～10:30	求道の画家 平山郁夫	平山郁夫美術館学芸員 幸野 昌賢
第4回	6月8日（木） 9:00～10:30	尾道空き家再生プロジェクト	NPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事 豊田 雅子
第5回	6月22日（木） 9:00～10:30	都市尾道の歴史的環境とまちづくり	東京科学大学環境・社会理工学院建築学系教授 真野 洋介
第6回	6月29日（木） 9:00～10:30	暮らしを考え、人とつながり、まちをつくる —尾道とライプツィヒに学ぶ〈空き家・空き地〉を起点としたまちづくり	福山市立大学都市経営学部准教授／尾道「迷宮堂」共同創設者 ／ライプツィヒ「日本の家」共同創設者／博士（環境学） 大谷 悠
第7回	7月6日（木） 9:00～10:30	志賀直哉の尾道時代	尾道市立大学名誉教授 寺杣 雅人

令和5年度（2023年度）尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第1回）	
日 時	令和5年（2023年）5月18日（木）9:00～10:30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	映画制作と街の活性化
講 師	大谷 治（有限会社こもん代表取締役社長）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	4名
アンケート回答者（回収率）	4名（100%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
0	3	1	0	0

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・尾道について尾道学なるものを勉強できてよかったです。4月から妻の里である尾道に移住してきましたので、大好きな尾道についていろいろ勉強していきたいと思います。
- ・改めて尾道のよさを知るきっかけになりました。ご紹介いただいた映像をみてみたいと思います。

令和5年度（2023年度）尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第2回）	
日 時	令和5年（2023年）5月25日（木）9:00～10:30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	和作先生の思い出
講 師	村上 選（洋画家）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	14名
アンケート回答者（回収率）	14名（100%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
6	2	3	1	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・小林和作先生の魅力が伝わりました。
- ・大変興味深いお話をありがとうございました。和作先生の人となりをお聞きできて、まだまだ学ぶべきこと、深いことが多いなあと感じました。
- ・映像を利用して先生の絵を見せていただきたかった（せっかくスクリーンがあったので）。
- ・和作さんのこと、美術のことをもっと話してほしかったです。和作さんとの対話は興味深かったです。和作さんのお人柄は勉強になりました。
- ・小林先生の思い出というより、村上先生の考え方（人生訓）の様だった。
- ・和作先生を身近に感じ、素晴らしい先生と身にしました。
- ・わかりやすいお話でした。
- ・聞けてよかったです。村上先生のお人柄好きです。
- ・人を応援して、自分も喜ぶことの大切さ。
- ・尾道市の紹介をしながら和作先生の話が聞けてよかったです。絵の話だけでなく人生哲学的なものを学べてよかったです。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・木曜日以外にして欲しい。

令和5年度（2023年度）尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第3回）	
日 時	令和5年（2023年）6月1日（木）9:00～10:30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	求道の画家 平山郁夫
講 師	幸野 昌賢（平山郁夫美術館学芸員）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	12名
アンケート回答者（回収率）	12名（100%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
6	2	0	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・平山郁夫美術館に何度か行ったことはあるが、生い立ちやその後をくわしく話していただけてより考えに触れることができたと思う。
- ・平山先生の平和への想いの深さにおどろきました。わかりやすかったです。
- ・平山先生の生い立ちからのお話も含めての作品が垣間見れて良かったです。
- ・資料の絵が美しかった。たくさんどうもありがとうございました。
- ・絵一枚ずつ詳しい話が聞けて平山先生の生き方がよくわかりました。偉大な画家ということが一層わかりました。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・公開講座の機会を増やしてください。
- ・参加型の講座もあると面白いと思います。
- ・大変おもしろく楽しみながら聞くことができました。ありがとうございました。
- ・とてもわかりやすかったです。ありがとうございました。資料、映像もよかったです。

令和5年度（2023年度）尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第4回）	
日 時	令和5年（2023年）6月8日（木）9:00～10:30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	尾道空き家再生プロジェクト
講 師	豊田 雅子（NPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	12名
アンケート回答者（回収率）	12名（100%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
3	5	1	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・尾道のかかえる問題を多くの方を巻き込んで楽しく進めているという現状が知れて良かった。
- ・尾道空き家再生プロジェクトの名は知っていましたが、今日初めて具体的な内容、活動を知り得ました。
- ・活動に至るまでの背景、実際の活動に感銘を受けました。ご苦労話がもっとあってもいいと思います。
- ・具体例が多く、イメージしやすくとても理解できた。
- ・海外の内容を減らしてもう少し尾道の方に時間をかけるべき。内容は興味深いものであった。出来れば情報を教えて欲しい（SNS等）。
- ・具体的でわかりやすかったです。
- ・温故知新 良いところを大切に残しつつ再生していく 生き方にも通じ とても勉強になりました。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・海外から日本を見た視点にとても感銘を受け、それを子育てをしながらしていることがすごいと思いました。
- ・ありがとうございました。
- ・年間通しての開催を。

令和5年度（2023年度）尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第5回）	
日 時	令和5年（2023年）6月22日（木）9:00～10:30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	都市尾道の歴史的環境とまちづくり
講 師	真野 洋介（東京科学大学 環境・社会理工学院建築学系教授）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	12名
アンケート回答者（回収率）	8名（67%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
4	2	0	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・尾道をこれまでの視点と違った視点で理解できました。とても有意義な時間をありがとうございました。
- ・具体的でわかりやすかった。
- ・写真を多数使っていただいた講座は、実際に町を歩いたような感覚となり、面白かったです。
- ・小路に支店を置いた街づくりに関するお話が印象的でした。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・年間通しての講座を希望。
- ・本日は貴重なご講義ありがとうございました。

令和5年度（2023年度）尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第6回）	
日 時	令和5年（2023年）6月29日（木）9:00～10:30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	暮らしを考え、人とつながり、まちをつくる—尾道とライプツィヒに学ぶ—〈空き家・空き地〉を起点としたまちづくり
講 師	大谷 悠（福山市立大学都市経営学部准教授／尾道「迷宮堂」共同創設者／ライプツィヒ「日本の家」共同創設者／博士（環境学））

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	15名
アンケート回答者（回収率）	13名（87%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
5	4	1	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・まちづくりの楽しさを感じました。ネットワークの大切さを感じました。
- ・素人の限界と可能性を学び、何が出来るのか（活動）とまで考えられたらすてきです。簡単ではありませんが。
- ・知らない環境の生活を知ることができ楽しく講座を聞くことができた。
- ・現代の家は寿命が短い。ドイツの建物と違うのでは。
- ・大変おもしろく聞くことができた。現場にいるからこそその言葉で、わかり易い講演であった。
- ・60歳に近づいていますが、仕事や仲間との付き合いで「人」に疲れて極力人とのつながりを絶ち尾道に移住してきました。が、やはり「人とのつながり」はなくてはならないものと思い、今回参加させていただきました。暮らしの中で人とのつながりは必要だと思います。もう少し、肩との力を抜いて、つながってみようかと思いました。
- ・実際の様子動画で見られて雰囲気よくわかりました。尾道の迷宮堂についての具体な経過や今の様子ももっと知りたかったです。最後のいくつかの質問もとても大切で、この議論をしたいと思いました。今日の内容、大切で素敵なことだからこそ対話して動きにつなげたい。
- ・現場に入り経験されて素晴らしいと思います。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・年間通しての講座を。
- ・まちづくりをテーマとした講座において、実際に取り組んでいる尾道市の話を聞いてみたい。

令和5年度（2023年度）尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第7回）	
日 時	令和5年（2023年）7月6日（木）9:00～10:30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	志賀直哉の尾道時代
講 師	寺杣 雅人（尾道市立大学名誉教授）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	8名
アンケート回答者（回収率）	7名（88%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
3	1	1	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・大変勉強になりました。
- ・立場として、作家・研究者・読者があるが作品を訂正したその基準はどこにあるのか。小説の神様といわれているが、小説的価値は向上しているのか。
- ・尾道の文学的すばらしさの再発見。
- ・最後の回で初めてだったのですが、もっと早く知ってもっと早くいろんな回を聞きに来てみたかったな、と思った。
- ・志賀直哉の人生観が伝わった。
- ・今回で二回目ですが、よかったです。志賀直哉旧家、保存、公開してほしい。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・尾道市立大学の自然があふれた環境のすばらしさを伝えてください。
- ・尾道市民・商店街の方たち（志賀直哉ゆかりの方たち）もいらしていたので、尾道「皆いい人間に思へた」を深くお話をいただけたらなと思いました。

5月18日

有限会社こもん代表取締役社長

大谷 治

「映画製作と街の活性化」

5月25日

洋画家

村上 選

「和作先生の思い出」

6月1日

平山郁夫美術館学芸員

幸野 昌賢

「求道の画家 平山郁夫」

6月8日

NPO法人尾道空き家

再生プロジェクト代表理事

豊田 雅子

「尾道空き家再生プロジェクト」

6月22日

東京工業大学環境・

社会理工学院建築学系准教授

真野 洋介

「都市尾道の歴史的環境とまちづくり」

参加
無料予約
不要

公開授業 尾道学入門

地域に開かれた大学づくりの一環として
教養教育科目の講義「尾道学入門」を一般公開いたします。

6月29日

NPOライブツィビ「日本の家」共同設立者 / 尾道「迷宮堂」共同代表
福山市立大学都市経営部専任講師 / 博士（環境学）**大谷 悠**

「暮らしを考え、人とつながり、まちをつくる
—尾道とライブツィビに学ぶ—
(空き家・空き地)を起点としたまちづくり」

7月6日

尾道市立大学名誉教授

寺杣 雅人

「志賀直哉の尾道時代」

[時間] 9:00-10:30 (8:45 開場)

[場所] 尾道市立大学 E棟4F 401 講義室

※ 正門から一番近い建物がE棟です。 〒722-8506 広島県尾道市久山田町1600番地2
※ 駐車場は、裏門から入ってすぐの駐車場をご利用ください。
(数に限りがございますので、できるだけ公共交通機関でお越しください)

[主催] 尾道市立大学地域総合センター [問い合わせ先] 尾道市立大学地域総合センター TEL: 0848-22-8311(代)

令和6年度（2024年度）尾道学入門公開授業カリキュラム

尾道市立大学では、地域に開かれた大学づくりの一環として、教養教育科目の講義「尾道学入門」を公開いたします。

回	日 時	演 題	講 師
第1回	5月9日（木） 9:00～10:30	美しい尾道の私	尾道市立大学名誉教授／ 福山平成大学経営学部教授 小川 長
第2回	5月23日（木） 9:00～10:30	求道の画家 平山郁夫	平山郁夫美術館学芸員 幸野 昌賢
第3回	6月6日（木） 9:00～10:30	尾道空き家再生プロジェクト	NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事 豊田 雅子
第4回	6月20日（木） 9:00～10:30	都市尾道の歴史的環境とまちづくり	東京科学大学環境・社会理工学院建築学系教授 真野 洋介
第5回	6月27日（木） 9:00～10:30	暮らしを考え、人とつながり、まちをつくる —尾道とライプツィヒに学ぶ—〈空き家・空き地〉を起点としたまちづくり	福山市立大学都市経営学部准教授／尾道「迷宮堂」共同創設者 ／ライプツィヒ「日本の家」共同創設者／博士（環境学） 大谷 悠
第6回	7月4日（木） 9:00～10:30	尾道の人物を主人公とした文学 —拳骨和尚—	元尾道市立大学学長 藤沢 納
第7回	7月25日（木） 9:00～10:30	地域学の発掘 —「尾道学」構築と実践のあらまし—	尾道市史編さん委員会事務局／ 尾道新聞社嘱託 林 良司

令和6年度（2024年度）尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第1回）	
日 時	令和6年（2024年）5月9日（木）9:00～10:30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	美しい尾道の私
講 師	小川 長（尾道市立大学名誉教授／福山平成大学経営学部教授）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	32名
アンケート回答者（回収率）	26名（81%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
11	4	3	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・予想をはるかにこえる素晴らしいお話であった。人間が忘れかけている心を、文学的な視点から尾道につなげていく話の展開は、とても上手であり、いつしか話の中に魂が入っていく。まるで小説を読んでいるような感覚の時間であった。ありがとうございます。
- ・現代人が忘れかけていたものを立ち止まって考えさせられた。何がもっとも大切なことをふみしめていきたい。
- ・日本の原風景から歌をよむ文学者の心境と、尾道の風景が重なっているようなそんな魅力が尾道という地につまっているのだと感じさせてくれる講義でした。
- ・貴重なお話ありがとうございました。
- ・私はあと三年もすれば八十歳です。文学に縁がなかったですが小説家が書き下ろした文章の意味が少し勉強になりました。有難うございました。また参加します。
- ・美しい尾道、文学との関係がよくわかりました。文学作品に触れながら尾道のまちと歴史的建造物、自然を感じたいと思いました。ありがとうございました。友人と自然を見て共感する経験も大切だと改めて思いました。
- ・とても分かりやすくて感服！ ご丁寧に質問にも答えていただき深謝！！
- ・小川先生も66歳でいらっしゃって、私も60歳ですが、20歳くらいの学生さんはどう感じたのかなと感じました。（たまゆら きぬずれの際）
- ・「美、自然の美に対する見方、感じ方をあらためて感じさせて頂いたこと」が良かった。
- ・教授と年が近く（私が4歳上）共感するところが多く面白かった。
- ・尾道学としては、内容が物足りない。
- ・大変良かったです、改めて尾道をふりかえってみたいと思います。尾道に住していますが、深く考えることもなく、今思いますとこんなすばらしいところに住んでいるのだと思います。ありがとうございました。
- ・尾道の良さを感じ、温故知新の大切さを感じました。

- ・日本人の心を思い起こさせてくれるよい講演でした。尾道の風景や一日の尾道を見て尾道の美しさを一層感じさせてくれるものでした。
- ・申し訳ありませんが、「美しい尾道」の話がスライドのみで少なかったのでは？
- ・質問時間を多くとってもらい大変理解しやすかったです。
- ・哲学的主張と尾道とのつながりを理解するのが少し難しかったと思います。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・一般市民が出席出来てよかったです。
- ・尾道に住んでいながら、尾道にちなんだ文学や小説に触れる機会が少ないことを痛覚しましたので今後は読んでいきたいと思います。
- ・本通り商店街や市内の様子が分かる内容にも興味を持ちます。
- ・久々の講義ありがとうございました。
- ・デジタル思考の強い学生にとって、美、自然の美に対する見方、受けとめ方を改めて感じさせていただいたように思います。ありがとうございました。
- ・約50年ぶりに大学の講義室に入り、いまどきの学生を見て新鮮でした。
- ・一般市民と学生が同席しての公開講座のあり方、とても有意義なものだと思います。
- ・大変楽しかったです。
- ・尾道に関する事をもっと知りたいです。

令和6年度（2024年度）尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第2回）	
日 時	令和6年（2024年）5月23日（木）9:00～10:30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	求道の画家 平山郁夫
講 師	幸野 昌賢（平山郁夫美術館学芸員）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	20名
アンケート回答者（回収率）	17名（85%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
12	0	0	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・広島県人としての視点の広さ、人生観が勉強になりました。
- ・まずは、幸野先生のわかり易い説明が素晴らしかった。平山画伯の才能に触れる事が出来、又、諸作品が平和を求めて居られた事に感動しました。
- ・幸野先生の講話がとても解り易かった。
- ・幸野さんのお話と笑顔がとても印象に残りました。日本画家として、文化財保護活動を推進されていた業績だけでなく、一人の人間としての平山郁夫さんを知ることができました。ありがとうございます。3,000冊のご著書も読んでいきたいと存じます。
- ・平山さんのことがよくわかりました。
- ・各時代社会状況と並行しての説明良かったです。
- ・退屈することなくあっという間に60分たっていた。とても面白かった。
- ・平山先生の画家としての取り組み方がよくわかりました。
- ・身近な偉大な芸術家をもっと深く知りたいと思いました。
- ・平山郁夫の生き方、絵のすばらしさの中に郁夫の生き方、深い思いを感じることができた。絵の中に込められた深い思いを知り、より深い見方ができるようになった。感謝！！！

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・尾道市立大学講座は、久し振りでしたが、さすが大学講座の内容だと実感いたしました。
- ・素晴らしい聴講となりました。有難うございました。
- ・とても充実した内容ありがとうございました。
- ・一般参加席を1.2列目ではなく、せめて5-6列目ぐらいにお願いしたい。パワーポイントを見るのが苦しい。
- ・すべての平和のもとは人間の思いやりの心だと思います。芸術を通して平和を築きたいです。

令和6年度（2024年度）尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第3回）	
日 時	令和6年（2024年）6月6日（木）9:00～10:30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	尾道空き家再生プロジェクト
講 師	豊田 雅子（NPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	29名
アンケート回答者（回収率）	24名（83%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
17	2	1	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点（抜粋）

- ・休憩入れたほうが良いと思います。
- ・話に魅せられたあっという間の1時間でした。体験に基づく説明、話し上手…多くの方が豊田さんの活動に参加される…今回の講演で強く感じました。
- ・古い町並みや尾道の良さについてあらためて感じることができました。
- ・豊田先生がどのような経緯で今の活動をされているかの動機から丁寧に伺えたのがとても刺激になりました。
- ・街が実際に活性化しているその裏側の努力を知ることができたことが良かったです。
- ・進学のため尾道を出た後も、豊田さんの心の中に常に尾道の坂道、路地が気に入っていたので、今の活動に結びついたのがわかりました。
- ・豊田さんの思いが素直に伝えられていて、尾道への感動が高まるような講座だった。
- ・資金面での補充はどうなっているのかなあ？
- ・画像を提示しながら問題点や活動の内容などが説明してくれてわかりやすくて良かった。
- ・尾道が発展し現在に至るまでの歴史、これを後世に引き継ぐ様地元の人々と共に存してほしい。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・がんばってください。尾道愛があふれていました。
- ・質問時間が欲しかった。
- ・全国の多くの地方の励みになるご活動。これからも期待します。
- ・尾道空き家再生プロジェクトのさまざまな活動について知ることができ、みなさんの協力で成り立っているんだなあと思いました。
- ・実際に取り組まれる流れ、活用されてる現在の姿も見ることができ、ワクワクしました
- ・すばらしかったです！！ 豊田雅子さんの足どりと積み重ねてこられた実績に感動しました。このような回を市民に無料公開してくださりありがとうございます！

- ・これからも、空き家再生を大学と連携して頑張って欲しいと思いました。
- ・最近尾道の路地裏に本屋が増えていたのは豊田さんの活動のおかげですね。これからもよろしくお願ひします。今日は貴重な話ありがとうございます。尾道市立大学さんこれからも尾道を知れる講座を宜しくお願ひします。今日はありがとうございました。
- ・やっている仕事をしっかりとがんばって成功させて、尾道の街がもっと良く楽しくなるようにとの気持ちを新たにしました。
- ・空き家の利用の仕方がとても分かりやすかったです。
- ・海外でのお話をまた聞かせてください！（聞いてて楽しかったので）
- ・良いイメージのある場所でも問題点は多数あり解決は難しいのだなと感じた。

令和6年度（2024年度）尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第4回）	
日 時	令和6年（2024年）6月20日（木）9:00～10:30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	都市尾道の歴史的環境とまちづくり
講 師	真野 洋介（東京科学大学 環境・社会理工学院建築学系教授）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	24名
アンケート回答者（回収率）	20名（83%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
8	7	0	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点（抜粋）

- ・尾道の小さな暮らしや営みにも目を向けて世の中を観察していくことを学ぶことができ、視野を広げていくことができました。
- ・尾道におけるレジリエンスを、事例のみでなく未来へ向けた問いの形で思考する時間がもう少しあると、ありがとうございました。（学生さんの課題にはあるのかもしれません）
- ・沢山写真が使われ、わかりやすかったです。「小路表記の変せん」や紹介された冊子など、是非読んでみたいと思いました。
- ・カラーのレジュメが見やすくて、資料として持ち帰れるのが嬉しいです。
- ・すばらしかったです。真野先生、定期的にやってほしい。
- ・見える化にできる努力が地域をどうするかに必要なことと知り得ました。
- ・あっという間の1時間。話し上手で魅入ってお聞きしました。私も古民家を子ども図書館に改装中で、住民参加のプロセスが参考になりました。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・人々の努力に目を向けたり、古いものを生かしていくということには価値があるということが分かりました。ありがとうございました。
- ・市内散策を趣味にしていますが、新しい観点での見方ができる様に思いました。
- ・スピーカーからの音が大き過ぎてear plugsが必要なくらいです（前回も）。
- ・今回も勇気をいただきました。真野先生の著書を読みたいと思いました。ありがとうございます。
- ・まちづくりにおいて、すべてを新しくするのではなく、そのあるべきものを残すことが大切だと知りました。
- ・古きを訪ねる活動が、今にどう生かされ、若い方とのつながりについて模索している状況です。
- ・尾道のまちづくりの具体的方法論を考える場があればと思います。

令和6年度（2024年度）尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第5回）	
日 時	令和6年（2024年）6月27日（木）9:00～10:30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	暮らしを考え、人とつながり、まちをつくる—尾道とライプツィヒに学ぶ—〈空き家・空き地〉を起点としたまちづくり
講 師	大谷 悠（福山市立大学都市経営学部准教授／尾道「迷宮堂」共同創設者／ライプツィヒ「日本の家」共同創設者／博士（環境学））

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	29名
アンケート回答者（回収率）	24名（83%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
14	7	0	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・何かを立ち上げて、行っていく上では、犠牲や困難もみられたりするが、つながりができたり、人々の役に立つことができるということが分かりました。
- ・授業内容に沿った資料のテキストが分かりやすく、内容を追いややすくとても良いと思う。
- ・沢山の資料で解りやすく、大変良かったです。
- ・大谷先生の著書を購入して読ませていただいていたが、今日はその「復習」になった。ありがとうございました。
- ・資料が詳しくわかりやすかったです。
- ・スライド、ビデオが分かり易くて良かった。
- ・他人との距離の縮め方などすべて参考になり、日常生活の見直しをしてみたいと思います。（町内会活動などで）
- ・空き家が増加している昨今、人のつながりによって、活用出来る、良い例を教えていただいた様に思います。有意義な講座でした。
- ・とても刺激的で希望のもてる内容で感動しました！
- ・とてもとても良かったです。また大谷先生の講演を聴きたいです。ぜひ再演をお願いします！
- ・「尾道のまちづくり」について、先生の考えをお聞きしたかった。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・先生の尾道の移住がとてもすごいなあと思いました。人によって価値観というものが違い、そのことが勉強になりました。
- ・トップダウンよりも市民が主体となって行うまちづくり、改善の重要性が多少なりとも分かったと思います。プロ的な方法よりも、素人的に試行錯誤をくり返しても、様々なジャンル、国の人と行うことで多様な価値観を反映しやすいのかもと思いました。

- ・2020年に、古民家「迷宮堂」をたちあげられてからの2年間に、福山市立大学都市経営学部の講師に着任されるまでの経緯、ご苦労、人生設計の思い他もお聞かせいただきたい思いもありました。
- ・大谷先生には、(NPO法人尾道空き家再生プロジェクトと協力して) ライプツィヒの日本の家の「ごはんの会」のようなイベントを立ちあげていただけないか(食事よりも歓談中心、参加メンバーも空きPの施設に宿泊している観光客や山手の近隣住民の皆さん等を対象に)。
- ・日本の家の話が興味深く、お話もおもしろかったので、あっという間でした。勉強になりました。また機会があれば、参加したいと思います。よろしくお願ひします。ありがとうございました。
- ・大変そうだが始めてみると素人参加型のプロジェクトは楽しそうだった。
- ・若い方が何故ここまで出来るのか、やるのかが多少理解できました。
- ・自分の経験に基づいた大谷先生の幅広い視野、考え方で感動しました。有難うございました。
- ・タカの視点、アリの視点の考え方方が、とても納得いった。自分が今後していきたい街づくり、何を見なければいけないのか、少し整理されたように思う。〈異人〉の「乱入」これは起こるべきこと、しかしこれが空間の本来の特徴というのも印象的だった。「人との関係がないとつまらない」
- ・ドイツで日本の家をつくり、日本に帰って尾道で空き家再生して迷宮堂を作られ、町づくりに貢献されるパワーはすごいなと思いました。
- ・とても大きな可能性を感じるワクワクする取り組みを知れて、楽しい気分になりました！
- ・大谷さん、素晴らしいご講演をありがとうございました！ ライプツィヒでのご活動にも感服…。様々なトラブルに見舞われても、それすらも全て客観的に静観し整理され研究のデータとされていて、ただただ尊敬しました。迷宮堂にもお邪魔したいです！
- ・とにかく楽しかった！ とても楽しかった！ 私自身にも身近な空き家問題ですが、この講演は「生き方」の話だなと思いました。型にはまつた考え方しかできない自分から、自由にいろんなことにチャレンジできる自分になりたいと強く思いました。ありがとうございました。出会いに感謝感謝感謝！！！ です。
- ・一番前の席だったのですが、空調？の音が大きくて、気になりました。エアコンが効きすぎて、寒かったです。

令和6年度（2024年度）尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第6回）	
日 時	令和6年（2024年）7月4日（木）9:00～10:30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	尾道の人物を主人公とした文学 一拳骨和尚一
講 師	藤沢 毅（元尾道市立大学学長）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	33名
アンケート回答者（回収率）	25名（76%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
11	9	0	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・物外のまんじゅうを中屋さんより買っていただいておりましたが、先生のお話で奥深いことに感激いたしました。
- ・拳骨和尚の名前は知っていましたし、コンニャクも食したことはありました、それ以外のことは知りませんでした。これだけの書・文学を残された方、小学校の授業などで取り上げて、子ども達に伝えたり、尾道市立大学推薦枠の入学者で尾道市内からの高校生は卒論などに選び同じ在校生や市民にも広めて欲しいものです。
- ・講談を楽しむことができたし、尾道の宝について知ることができました。
- ・「物外」のお菓子を用意し、注意を惹く、講談調で読み上げる、など色々工夫されていて楽しかったです。
- ・私は尾道に移り住んだ者で、尾道の事を知らない事が多い中、拳骨和尚の様な方が尾道にいたこと、良い知識を得ることが出来ました。
- ・拳骨和尚の人となりがよくわかりました。講談が面白かったです。
- ・豊富な知識をわかりやすく伝えてくださいました。
- ・実際の講談のように読んでくださいり、目で読むのとは違い面白く拝聴させていただきました。
- ・とてもわかり易くて良かったです。面白かったです。先生の講義を又聞きたいです！
- ・尾道にゆかりがある人物で興味がわきました。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・実際の講談調で聞けて面白かったです！ げんこつ和尚が丁寧に話をされる方で、最初に見たイラストや絵のイメージとギャップがあり、いいキャラクターだなあと思いました。
- ・公開講座の回数を増やしてください。

令和6年度（2024年度）尾道学入門公開授業アンケート集計

尾道市立大学 尾道学入門公開授業（第7回）	
日 時	令和6年（2024年）7月25日（木）9:00～10:30
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401講義室

演 題	地域学の発掘—「尾道学」構築と実践のあらまし—
講 師	林 良司（尾道市史編さん委員会事務局／尾道新聞社嘱託）

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	23名
アンケート回答者（回収率）	20名（87%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
7	6	1	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点

- ・先輩たちの事例からどのようなイベントをしていたのか、画像と共に示されていたのが分かりやすくて面白かったです。
- ・写真がたくさん使われ（古い絵ハガキなど貴重なもの含む）わかりやすかったです。
- ・明治時代の尾道の様子のわかる写真が見れてよかったです。
- ・尾道へ移り住んで40余年の私にとっては、尾道市史が良く理解できる。資料、講演をわかり易く説明していただき、大変参考となりました。
- ・尾道のアーカイブ、伝統の継承…様々な取り組みが若い人に尾道の魅力が受け継がれていく…重要な活動だと感じます。今後も一層のご活躍を。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・今も昔も、市民との関わりが多く、様々な立場の人と町づくりをしていたのだと分かり、面白かったです。
- ・大学の活動を社会人に知ってもらい、協同で活動するきっかけとして大変良い講座でした。ありがとうございました。
- ・文学のまち尾道と言われているとおり、文学から、祇園祭、水祭りの歴史を学べ、又、大学生が尾道に身を置いて、積極的に尾道を知り、学び、これからも財産にして欲しいです。
- ・こうした学習により尾道に関する興味が高まった。これからも機会を見つけては興味を深めていきたい。
- ・尾道の歴史についての資料収集と整理された方々のご尽力に感服します。有難うございました。
- ・尾道学データベースの市民利用開放して欲しい。
- ・公開講座を秋期開催してください。
- ・なつかしい写真を見て昔を思い出した。「平田玉蘿」について知りたい（小説はあるが）。
- ・場所（会場）が遠いので駅の近く（しまなみ交流館など）にしてほしい（参加するのがつらい）。

尾道市立大学地域総合センター主催

令和6年度 公開授業

尾道学入門

入場無料

予約不要

地域に開かれた大学づくりの一環として教養教育科目の講義「尾道学入門」を一般公開いたします。

5/9 (木)

『美しい尾道の私』

尾道市立大学名誉教授 / 福山平成大学経営学部教授

小川 長

5/23 (木)

『求道の画家 平山郁夫』

平山郁夫美術館学芸員

幸野 昌賢

6/6 (木)

『尾道空き家再生プロジェクト』

豊田 雅子

NPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事

真野 洋介

6/20 (木)

『都市尾道の歴史的環境とまちづくり』

大谷 悠

6/27 (木)

『暮らしを考え、人とつながり、まちをつくる - 尾道とライブツイヒに学ぶ
(空き家・空き地)を起点としたまちづくり』

まちづくり活動家 / 福山市立大学都市経営学部専任講師

7/4 (木)

『尾道の人物を主人公とした文学 - 拳骨和尚 -』

藤沢 納

元尾道市立大学学長

7/25 (木)

『地域学の発掘 - 「尾道学」構築と実践のあらまし -』

林 良司

尾道市史編さん委員会事務局 / 尾道新聞社嘱託

- ◆ [時間] 9:00 ~ 10:30 (8:45 開場)
- ◆ [場所] 尾道市立大学 E棟4階 401講義室
※正門から1番近い建物がE棟です 〒722-8506 広島県尾道市久山田町1600番地2
- ◆ [駐車場] 正門前の駐車場をご利用ください。
数に限りがございますので、出来るだけ公共交通機関でお越しください。

問い合わせ先：尾道市立大学 地域総合センター TEL：0848-22-8312 (内線 260)

令和5年度（2023年度）コンピュータ公開講座アンケート集計

尾道市立大学 コンピュータ公開講座	
日 時	令和6年（2024年）3月16日（土）13:00～17:00
会 場	尾道市立大学 D棟2階CG実習室

演 題	AfterEffectsでモーションタイポをつくってみよう
講 師	黒田 教裕（尾道市立大学芸術文化学部美術学科准教授）
対 象	PCの基本的な操作が可能な方
受講料	無料
講座の概要	企業ロゴや映画のタイトルロゴなど、グラフィックが画面上で動き出すモーショングラフィックス。これを制作する際に最も用いられるAdobe AfterEffectsを使って、ご自身やご家族の名前が動き出す10秒程度のモーションタイポを実際に作ってみる講座です。また、この講座で制作したモーションタイポへの簡単な講評もおこないます。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	21名
アンケート回答者（回収率）	9名（43%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
7	2	0	0	0

☆講座のよかったです・改善すべき点（抜粋）

- ・1回だけでなく、複数回講座をやって欲しいと思いました。楽しかったです。
- ・短時間でありながら、一つの作品を作ることができてよかったです。
- ・動作ひとつひとつ丁寧にスクリーンにうつしながら説明してもらえたので、わかりやすかったです。
- ・難しかったけれど楽しく学べました。改善点ではないですが、もっと時間をかけて色々試してみたかったです。
- ・気楽に体験できないソフトを教えてもらいながら使うことができた。サポートの人が数名いた。改善すべき点としては画面と文字が小さい上にパソコンで隠れて見えにくかったこと。直感的に操作できないこともあります。序盤でつまずいたり聞き逃したりすると、何をしているのか全くわからなくなる。声も少し聞きにくい時があった。
- ・良い点：effectの使い方が分かった。皆さんの発想が色々見れた。初めて大学に来て見れた。
- 改善点：能力差がある場合グループ分けしたら良いかも。少し堅苦しい雰囲気がありもう少し最初に解してからしては。全体休憩を間に入れる方が良かったかも。
- ・初めてソフトに触れましたが、基礎内容で分かりやすかったです。
- ・新しい世界が開けた。実習はとても楽しいです。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・無料のソフトウェアだとよりありがとうございます。
- ・大変楽しく時間を忘れて作業してしまいました。ありがとうございました。
- ・マッキントッシュが普段使い慣れたWindowsと微妙に操作感覚が違ったのが難しかったです。とくにCTRLの位置や変換キーの位置など。そして自宅のPCより大きなモニターを使わせて頂いたにもかかわらず、After Effectsの文字が小さくて老眼で読むのに苦労しました。
- ・若い人ばかりで居づらいかな？と心配しながら参加しましたが、幅広い年齢層に驚いたのと、居心地良く受講できました。楽しかったです。ありがとうございます。
- ・隣の市ということもあり、どんな学校かよく知らない。筆等で描く美術のイメージがあり今回のような講座は正直意外だった。すでにやっているかも知れないが、中高生向けにどんなことが学べる学校なのか体験できる講座があると良いのかなと思った。
- ・初めて行き、久しぶりに受講して新しい勉強をして良かった。近くで学べる環境があると学びたい人も増え新しい文化や社会に貢献出来ると思う。
- ・年齢層の幅が広くて驚きました。全員同じペースで進めるのは難しく、作業時間が減ってしまいましたがソフトのおもしろさを知ることができて良かったです。

AfterEffectsで モーションタイポを つくってみよう

3.16 2024 SAT

13:00 ~ 17:00

[受付 12:40]

会場

尾道市立大学D棟2階CG実習室

対象

PCの基本的な操作が可能な方

担当講師

黒田 教裕 (尾道市立大学芸術文化学部美術学科 講師)

受講料
無料

定員
20名

応募者多数の場合は抽選

企業ロゴや映画のタイトルロゴなどグラフィックが画面上で動き出すモーショングラフィックス。これを制作する際に最も用いられる Adobe AfterEffects を使って、ご自身やご家族の名前が動き出す10秒程度のモーションタイポを実際に作ってみる講座です。また、この講座で制作したモーションタイポへの簡単な講評もおこないます。

お問い合わせ

- 公開講座に関するお問い合わせは、以下のアドレス宛にご連絡ください。
尾道市立大学 情報処理研究センター
MAIL : k-kouza@onomichi-u.ac.jp

お申し込み方法

- 右記QRコード(又は以下のURL)の申込フォームに必要事項を入力のうえ、送信してください。

<https://forms.office.com/r/wUjbMsBNFz>

【申込期限】3月13日(水)



- 電話・FAX・ハガキ等では申込みできませんのでご注意ください。

- 参加申し込みは一人ひとりお願ひします。(同じメールアドレスで複数申込は可能です。)

- 申込み後、登録された返信用メールアドレスに、申込み内容を送信します。もし、送られてこない場合は、迷惑メールのフォルダに届いている、またはメールアドレスの誤入力などの可能性があります。まずは、迷惑メールのフォルダなどを確認してください。それでもメールを受信していない場合は、「onomichi-u.ac.jp」からのメールを受信できるパソコン用メールアドレスで、再度申込みをしてください。

その他注意事項

- 講座の音声や映像データを録画・録音・写真として撮影は固くお断りいたします。
- 当センターでは記録のため、講座映像をレコーディングいたします。
- 講座資料を他媒体で配布するなど、受講目的以外での利用は固くお断りいたします。
- 講座終了後のアンケートにぜひご協力ください。

令和6年度（2024年度）コンピュータ公開講座アンケート集計

尾道市立大学 コンピュータ公開講座	
日 時	令和7年（2025年）3月1日（土）13:00～15:00
会 場	尾道市立大学 E棟2階204講義室

演 題	統計ソフト gretl でお手軽経済分析をやってみよう。
講 師	堀江 進也（尾道市立大学経済情報学部経済情報学科教授）
対 象	パソコン持ち込み可能で、パソコンの基本的な操作が可能な方
受講料	無料
講座の概要	経済分析には理論分析と実証分析がありますが、このうち実証分析には座学以上に経験が重要です。しかし、この経験を積む上で、データの収集とともに統計ソフトを使いこなせることは不可欠です。 gretlは、世界の多くの大学で用いられていて、ある程度の分析にたえられる統計ソフトでありながら、簡単に扱えしかも無料で入手できます。身近な噂話の真偽を、実証分析で確かめてみましょう。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	33名
アンケート回答者（回収率）	32名（97%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
6	19	0	1	3

☆講座のよかった点・改善すべき点

- ・都道府県別の消費や可処分所得を元データに分析を行ったが、実際の操作の前にもう少しデータや手法の説明が欲しかった。操作することはできたが、どのような値をどういった目的で分析しているか、わかりにくかったのが残念だった。
- ・資料や使用ソフト情報の事前配布、板書していた情報はプレゼンとして用意・紹介、参加者の多くである高校生向けの話題の選択をしていただけるとより聞きやすくなると思います。
- ・時間管理ができていなかった。
- ・資料プリントが無いところがよかったです。サポートしてくださる方が適切でありがとうございました。
- ・世の中にこういったものがあると気づきを得た事。
- ・声の大きさや話のスピードがちょうどよくて聞きやすかったです。確率の話が分かりやすかったです。
- ・前提とされる知識の説明と実践的なリストの使用でバランスよく分かりやすく学ぶことができました。
- ・最初の話が興味深く楽しかったです。ありがとうございました。
- ・沢山の方がサポートに来てくださってとても分かりやすかったです。
- ・確率の話が聞けたこと。
- ・「市民公開講座」という、限られた時間・幅広い年代の受講者がいる中での講座でしたが、それで

も準備不足感は否めず、講座名に揚げられたソフトを実際に使う時間が講座全体2時間のうち実質10分程度というのは正直、期待を下回るものと言わざるをえません。広告と実際の講座内容に著しい乖離があると感じます。講師の「どうせこの後も大した作業はしない」とのご発言も、受講者の思いに寄り添ったご発言とは思えません。

- ・とても勉強になった。
- ・ていねいに教えてくださって良かった。
- ・分からなかったとき、分かりやすく教えてくださったので良かったです。
- ・先生や生徒のみなさんが分からぬときについていねいに教えてくださって、進められていいなと思いました！
- ・声が大きくてよかったです。
- ・改善すべき点：gretlの使い方に入る前の話がピンとこなかった。
- ・分かりやすい解説やスライドが良かったです。
- ・ていねいにサポートしてくれた。
- ・分からぬところがあつても、ていねいに教えてくれた
- ・ソフトウェアの立ち上げに時間がかかった。
- ・gretlについて知ることができてよかったです。
- ・かなり噛み砕いて教えてくださった分、少し理解できた。データ分析の仕方を見直すキッカケになった。
- ・先生のお話についていく前提知識がゼロなので、2時間ではとても理解できませんでした。「〇〇の知識を持っている」等の受講要件が知りたかったです。
- ・計量経済学を学んでいて良かった。

★ご意見・ご感想

- ・堀江先生のお話はおもしろく、もっといろいろと聞きたかった。しかし、数学が苦手なので、数式だけが出てくると途端に理解が難しくなってしまった。
- ・講座の概要を受講予定者にHP等で公開されてはいかがでしょう。(または受講OKの返信メールでの添付資料として)
- ・ムダな話や雑談が多い。セットアップも事前説明もない。
- ・確率の話が分かりやすかったけど長いです。もう少し、gretlの時間をとって欲しかったです。
- ・ソフトやファイルの読み込みについて丁寧にサポートしてくださりありがとうございました。
- ・「確率」ということに理解が深りました。
- ・統計学についてもっと知りたいと思いました。
- ・とても分かりやすかったです。
- ・経済分析使えるようになりたいと思いました。
- ・全然分からぬことばかりだったけど、みなさんが親身になって教えてくださったので、少しずつ分かって学びを実感できました！ とても楽しかったです！！
- ・gretlの使い方だけかと思ったので、期待が少しつぶれた。高校生への大学説明みたいな感じがした。
- ・統計についてそれほど知識はなかったのですが、なんとなく興味をもつことができました。

- ・楽しかったです。
- ・新しい知識ばかりで楽しかった。
- ・数学と英語をがんばっていきます！
- ・勉強が足りてないことが痛いほど分かった。

統計ソフト gretl で お手軽経済分析 をやってみよう。

経済分析には理論分析と実証分析がありますが、このうち実証分析には座学以上に経験が重要です。しかし、この経験を積む上で、データの収集とともに統計ソフトを使いこなせることは不可欠です。gretlは、世界の多くの大学で用いられていて、ある程度の分析にたえられる統計ソフトであります。簡単に扱えしかも無料で入手できます。身近な噂話の真偽を、実証分析で確かめてみましょう。

□
● 2025 3.1 土

13:00~15:00
【受付 12:40】

受講料 無料
定員 30名
(応募者多数の場合は抽選)

その他注意事項

- 講座の音声や映像データを録画・録音・写真として撮影することは固くお断りいたします。
- 当センターでは記録のため、講座映像をレコーディングいたします。
- 講座資料を他媒体で配布するなど、受講目的以外での利用は固くお断りいたします。
- 講座終了後のアンケートにぜひご協力ください。

お問い合わせ

- 公開講座に関するお問い合わせは、以下のアドレス宛にご連絡ください。
尾道市立大学 情報処理研究センター
MAIL: ict-rc@onomichi-u.ac.jp

担当講師

堀江進也

(尾道市立大学経済情報学部 教授)

対象

ノートパソコンを持ち込みできて、
パソコンの基本的な操作が可能な方

会場

尾道市立大学 E 棟 2 階 204 講義室

お申込方法

- 右記QRコード(又は以下のURL)の申込フォームに必要事項を入力のうえ、送信してください。
<https://forms.office.com/r/jCDsCX2K7U>
- 【申込期限】2月25日(火)
- 電話・FAX・ハガキ等では申込みできませんのでご注意ください。
- 参加申込は一人ひとりお願ひします。(同じメールアドレスで複数申込は可能です。)
- 申込み後、登録された返信用メールアドレスに、申込み内容を送信します。もし、送られてこない場合は、迷惑メールのフォルダに届いている、またはメールアドレスの誤入力などの可能性があります。まずは、迷惑メールのフォルダなどを確認してください。
- それでもメールを受信していない場合は、「onomichi-u.ac.jp」からのメールを受信できるパソコン用メールアドレスで、再度申込みをしてください。

令和5年度（2023年度）情報科学研究会アンケート集計

尾道市立大学 第35回 情報科学研究会	
日 時	令和5年（2023年）12月7日（月）13:10～14:40
会 場	尾道市立大学 E棟4階 401 講義室

演 題	ウェブ調査再考：ウェブ情報資源の可能性と課題
講 師	岡本 真（アカデミック・リソース・ガイド株式会社 代表取締役）
対 象	一般・学生・教職員
受講料	無料
講座の概要	本講演では、ウェブが誕生してから30年の間に拡大した情報調査の可能性を再考します。この30年間でウェブで出来ることは、モノの売買や旅行の手配、オンライン授業やSNSでの発信・交流、そして生成AIの登場と飛躍的に増え、私たちの生活を劇的に変えてきています。しかし、その一方でフェイクニュース等の問題も浮上しています。本講演では原点に立ち返り、ウェブで調査することはどの程度信頼できるのかを真剣に問い合わせ、ウェブで「調べる」ことは今どの程度役に立つかを皆様と一緒に考えます。

〈受講者アンケート掲載項目〉

参加者数	21名
アンケート回答者（回収率）	18名（86%）

講座について				
とても良かった	良かった	ふつう	あまり面白くなかった	面白くなかった
4	12	1	0	0

☆講座の良かった点、改善すべき点（抜粋）

- ・普段触れないような言葉に触れられたことが良かった。
- ・OSINTのこと、有用なデータベースのことを知れて良かった。
- ・一般的な話にとどまらず、「濃い」部分まで聞けたのがよかったです。
- ・患者の家族の為にも信用できる情報が集まる、発信される場がたしかに必要だと思った。
- ・Webで信頼性の高いものについて、いくつか知ることができた。

★ご意見・ご感想（抜粋）

- ・ウェブの利用について見なおす良いきっかけとなった。
- ・WEBの問題点について新しく知ることができた。
- ・求めている正しい情報にたどりつくことが容易になればだれでもOSINTができるようになるとと思った。
- ・質問時間を設けてあり良かった。

ウェブ情報資源の 利便性 と 課題 R5/12/7 THU.



対象|尾道市立大学学生・教職員・一般市民
会場|尾道市立大学E棟4階401講義室

実施日時|令和5年12月7日(木)
13:10~14:40(受付 12:50~)

お申込み方法
学外者(一般の方)は右記QRコード(または以下のURL)の
申込フォームに必要事項を入力のうえ、送信してください。
<https://forms.office.com/r/ChmnN6vbNe>

【申込期限】12月4日

学内者(学生・教職員)の申込みは不要です。

電話・FAX・ハガキ等では申し込みできませんのでご注意ください。

※ 参加費無料
(対面のみ)

講演概要
本講演では、ウェブが誕生してから30年間に拡大した情報調査の可能性を再考します。この30年間でウェブで出来ることは、モノの売買や旅行の手配、オンライン授業やSNSでの発信・交流、そして生成AIの登場と飛躍的に増え、私たちの生活を劇的に変えてきています。しかし、その一方でフェイクニュース等の問題も浮上しています。本講演では原点に立ち返り、ウェブで調査することはどの程度信頼できるのかを真剣に問い合わせ、ウェブで「調べる」ことは今までの程度役に立つかを皆様と一緒に考えます。

講師略歴 岡本 真(おかもと まさと)
アカデミック・リソース・ガイド株式会社代表取締役
東京都出身。国際基督教大学(ICU)卒。編集者等を経て、1999年~2009年、ヤフー株式会社に勤務。Yahoo!知恵袋等の企画・設計や産官学連携を担当。2009年に同社を退職し、1998年に創刊したメールマガジンACADEMIC RESOURCE GUIDE(ARG)を母体にアカデミックリソースガイド株式会社(arg)を設立。著書に『未来の図書館、はじめます』(青弓社、2018年)ほか多数。京都芸術大学非常勤講師、桃山学院大学司書講習非常勤講師、総務省地域情報化アドバイザー等を兼任。



第35回 情報科学研究会

主催|尾道市立大学情報処理研究センター 協力|尾道市立大学地域総合センター 問い合わせ先|尾道市立大学情報処理研究センター E-mail:k-kouza@onomichi-u.ac.jp URL:<https://www.onomichi-u.ac.jp>

令和5、6年度（2023、2024年度）尾道文学談話会 テーマ一覧

尾道文学談話会は、芸術文化学部日本文学科を中心とした本学の教員が、文学や言葉にかかわる様々な話題を提供し、市民の皆様と語り合う談話形式の公開講座です。

【日時】毎月1回（平日18:30～20:00／土曜14:00～15:30）

【場所】尾道市役所 多目的スペース1.2

令和5年度（2023年度）

回	開催日	談話テーマ	講師
第1回	2023年5月13日(土)	昔話の夢 —信じ続けた人—	藤井 佐美 (日本文学科教授)
第2回	2023年6月12日(月)	『雨月物語』を読む（6） —「吉備津の釜」—	藤沢 肇 (日本文学科教授)
第3回	2023年7月6日(木)	『百人一首図絵』の戦略	藤川 功和 (日本文学科教授)
第4回	2023年8月22日(火)	心に残る教科書教材	信木 伸一 (教職支援センター特任教授)
第5回	2023年9月9日(土)	志賀直哉と尾道 —基本的事項の理解のために—	寺杣 雅人 (尾道市立大学名誉教授)

令和6年度（2024年度）

回	開催日	談話テーマ	講師
第1回	2024年4月15日(月)	『紫式部物語・和泉式部物語』の平安異聞を楽しむ	藤井 佐美 (日本文学科教授)
第2回	2024年5月13日(月)	赤神諒『空貝—村上水軍の神姫』の魅力について	原 卓史 (日本文学科教授)
第3回	2024年6月17日(月)	橋本竹下「禽虫絶句二十七首」について	鷹橋 明久 (日本文学科教授)
第4回	2024年7月24日(水)	江戸の本づくり —十返舎一九『的中地本問屋』を読む—	吉田 宰 (日本文学科准教授)
第5回	2024年8月9日(金)	歌謡曲（ウタ）から読み解く日本語	藤本 真理子 (日本文学科教授)
第6回	2024年9月14日(土)	中世英語（1100年～1500年）に見る口語表現	平山 直樹 (日本文学科教授)

尾道文学談話会

日本文学科を中心とした尾道市立大学の教員が、文学や言葉にかかる様々な話題を提供し、市民の皆様と語り合う談話形式の公開講座「二〇二三年度尾道文学談話会」を左記の日程及びテーマで開催します。

2023年 5月—9月 全5回
尾道市役所 2F 多目的スペース 1
(広島県尾道市久保1丁目15-1)

要予約・入場無料（裏面参照）各回先着20名

5/13(土) 14:00-15:30

第1回 昔話の夢－信じ続けた人－

藤井 佐美（日本文学科教授）

6/12(月) 18:30-20:00

第2回 『雨月物語』を読む（6）－「吉備津の釜」－

藤沢 毅（尾道市立大学学長）

7/6 (木) 18:30-20:00

※各回で曜日と時間帯が異なりますのでご注意ください。

第3回 『百人一首図絵』の戦略

藤川 功和（日本文学科教授）

8/22(火) 18:30-20:00

第4回 心に残る教科書教材

信木 伸一（日本文学科教授）

9/9 (土) 14:00-15:30

第5回 志賀直哉と尾道－基本的事項の理解のために－

寺杣 雅人（尾道市立大学名誉教授）

文学って甘くておいしい!

公開講座

尾道文学談話会

日本文学科を中心とした尾道市立大学の教員が、文学や言葉にかかる様々な話題を提供し、市民の皆様と語り合う談話形式の公開講座「令和6年度尾道文学談話会」を左記の日程及びテーマで開催します。

4/15(月) 18:30-20:00
第1回 『紫式部物語・和泉式部物語』の平安異聞を楽しむ
藤井 佐美 (日本文学科教授)

5/13(月) 18:30-20:00
第2回 赤神諒『空貝一村上水軍の神姫』の魅力について
原 順史 (日本文学科教授)

6/17(月) 18:30-20:00
第3回 橋本竹下『禽虫絶句二十七首』について
鷹橋 明久 (日本文学科教授)

7/24(水) 18:30-20:00
第4回 江戸の本づくり 一十返舎一九『的中地本問屋』を読むー
吉田 宰 (日本文学科講師)

8/9(金) 18:30-20:00
第5回 歌謡曲(ウタ)から読み解く日本語
藤本 真理子 (日本文学科准教授)

9/14(土) 14:00-15:30
第6回 中世英語(1100年~1500年)に見る口語表現
平山 直樹 (日本文学科教授)

7月~9月:日程調整中 詳細は大学サイト・広報おのみち等をご覧ください。

2024年 4月~9月 全6回
尾道市役所 2F 多目的スペース1.2 (広島県尾道市久保一丁目15-1)
要予約・入場無料(裏面参照) 各回定員30名

尾道市立大学教員 FM おのみち出演 トークテーマ一覧

FM おのみちの番組『You Gotta Radio』内にて、尾道市立大学教員が研究内容の紹介や大学主催共催の講座・イベント・展示の告知を行うコーナーで行われたトークテーマです。

【日時】毎月第1水曜日 18時15分頃から

【放送局】FM おのみち (周波数 79.4)

年度	開催年月	出演者	学科	トークテーマ
令和5 年度 (2023 年度)	2023年4月	山梨千果子	美術学科	スケッチに出かけよう
	2023年5月			(休み)
	2023年6月	西村有未	美術学科	美術学科教員として、もしくは移住者の目から感じる、絵の街尾道について
	2023年7月	森本幾子	経済情報学科	芸備地方史研究会シンポジウム（尾道）－近世近代の尾道港とその管理－開催のお知らせ
	2023年8月	西村剛	経済情報学科	生活してわかったドイツ・デュッセルドルフ
	2023年9月	森本幾子	経済情報学科	2023年度芸備地方史研究会大会 シンポジウム 近世近代の尾道港とその管理－開催のお知らせ
	2023年10月	野崎眞澄	美術学科	MY FAVORITE THINGS - chips the last show - 野崎眞澄 退任展について
	2023年11月	高島彬	日本文学科	日常にあふれる比喩の世界、【告知】おのみち文学三昧プレミアム + おのみち文学三昧
	2023年12月	鷹橋明久	日本文学科	爽籟軒について－主に名前の由来について、及び、12月9日開催予定の「おのみち文学三昧」のお知らせ
	2024年1月			(休み)
	2024年2月	津村怜花	経済情報学科	『帳合之法』刊行150周年を迎える、福沢諭吉と簿記を考える
	2024年3月	藤井佐美	日本文学科	ドラマと楽しむ伝承学 + 2024年度尾道文学談話会のご案内
令和6 年度 (2024 年度)	2024年4月	渡邊久晃	経済情報学科	消費者行動論とは？概要と実社会との関係
	2024年5月	荒井貴史	経済情報学科	地域と大学、公立大学のミッション
	2024年6月	前田謙二	経済情報学科	大学で何を学ぶのか
	2024年7月	西原美彩	美術学科	アニメーション・イラストレーションの研究室
	2024年8月	市川彰	美術学科	大学美術館で開催中の『Curriculum -尾道市立大学美術学科 授業作品展-』
	2024年9月	本田治	経済情報学科	AIのしくみ
	2024年10月	川口俊宏	経済情報学科	前回出演（2018年6月）以降の備後地域での学外活動報告
	2024年11月	山田和大	日本文学科	思い出に残る国語教材
	2024年12月	藤川功和	日本文学科	第16回 おのみち文学三昧について
	2025年1月			(休み)
	2025年2月	黒田教裕	美術学科	デザイン×私のまち 第22回 地域プレゼンテーションのご案内
	2025年3月	藤井佐美	日本文学科	2025年度尾道文学談話会のご案内

受託研究等一覧表

令和5年度（2023年度）～令和6年度（2024年度）に尾道市立大学で行われた産学連携・産官学連携の受託研究等一覧です。

年度	No.	研究題目	対応者		相手先
			教職員	学生	
令和5年度 (2023年度)	1	令和5年度尾道市人流分析	小川 長木村 文則	経済情報学科5名	尾道市商工課
	2	紙製エコファイルデザイン制作	世永 逸彦	美術学科3名	株式会社小山オフセット印刷所
	3	株式会社京泉工業の50周年を記念したロゴデザイン制作	世永 逸彦	美術学科6名	株式会社京泉工業
	4	水道100周年記念ロゴデザイン制作	世永 逸彦	美術学科3名	尾道市上下水道局
	5	アンデックス株式会社 社名ロゴデザイン制作	世永 逸彦	美術学科6名	アンデックス株式会社
	6	炭素循環社会に貢献するセルロースナノファイバー関連技術開発／CNF利用技術の開発／セルロースナノファイバー材料のLifeCycleAssessment(LCA)評価方法の検討と評価	岡本 隼輔	－	NEDO
	7	しまなみウォーター特別ラベル制作	伊藤 麻子	－	丸善製薬株式会社
令和6年度 (2024年度)	1	尾道みなと小学校校章デザイン制作	伊藤 麻子	－	尾道市教育委員会 学校経営企画課
	2	尾道みなと中学校校章デザイン制作	伊藤 麻子	－	尾道市教育委員会 学校経営企画課
	3	尾道市成人式ポストカードデザイン制作	伊藤 麻子	美術学科3名	尾道市教育委員会 生涯学習課
	4	因島土生商店街シャッターデザイン制作	西原 美彩 伊藤 麻子	美術学科2名	土生町商店街連合会
	5	和作忌マップ・ロゴ制作	小野 環 西原 美彩 伊藤 麻子	美術学科3名	尾道市文化振興課
	6	まちかどフードパントリー看板デザイン制作	伊藤 麻子	美術学科1名	尾道市社会福祉協議会
	7	介護の魅力発信イベント看板制作	林 宏	美術学科1名	尾道福祉専門学校
	8	来島海峡サービスエリアイベント似顔絵制作	桜田 知文	美術学科3名	JBハイウェイサービス株式会社
	9	令和6年度尾道市通行量調査に関する考察作成	岡本 隼輔	経済情報学科4名	尾道市商工課
	10	しまなみウォーター限定ラベルデザイン制作（塩分補給）	伊藤 麻子	－	丸善製薬株式会社
	11	しまなみウォーター2025年夏季特別ラベルデザイン制作	伊藤 麻子	－	丸善製薬株式会社
	12	大浜パーキングエリア下り線イベント似顔絵制作	桜田 知文	美術学科3名	JBハイウェイサービス株式会社

【受託研究】キッズデザイン賞を受賞しました

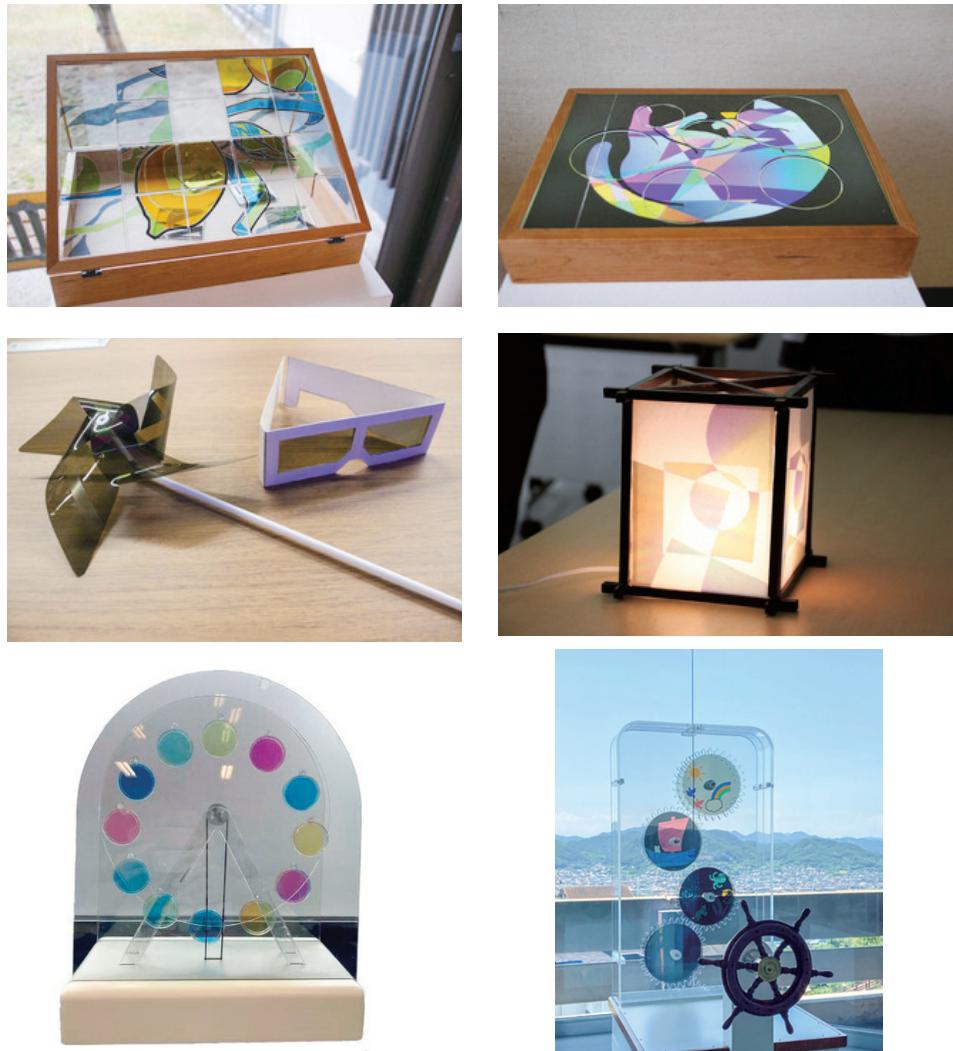
日東电工株式会社尾道事業所との受託研究「偏光板アート制作」について、日東电工株式会社、尾道市立大学、尾道市立美術館、尾道市教育委員会との共同応募にて「第18回キッズデザイン賞（子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門）」を受賞しました。

18thKDawardPressrelease20240821.pdf (kidsdesignaward.jp) ※受賞作品一覧 146

キッズデザイン賞は、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が主催する顕彰制度で、「子どもたちが安全に、そして安心して暮らす」「子どもたちが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」という目的を満たす、製品・サービス・空間・活動・研究の中から、子どもや子育てに関わる社会課題解決に取り組む優れた作品を顕彰するものです。

本学では2020年より偏光板を使用したアート制作を受託研究として行っており、美術学科学生が参加し様々なアイデアや作品を生み出しています。

地域総合センター



尾道市立大学ホームページ掲載
<https://www.onomichi-u.ac.jp/docs/2024111900019/>
公開日 令和6年（2024年）11月25日

【受託研究】本学学生が令和7年尾道市成人式記念品ポストカードのデザインを制作しました

尾道市教育委員会様からの依頼を受け、令和7年尾道市成人式記念品ポストカードのデザインを制作しました。

美術学科デザインコース3年生、村上桃花さんが制作を行いました。橋、クレーン、干し柿、ロープウェイなど、尾道ならではの場所や特産品のイラストで尾道らしさや爽やかさを表しています。令和7（2025）年の成人式にて、新成人のみなさまに配布される予定です。

地域総合センター



地域学修報告 一覧

本学教員が取り組んでいる学生向け、市民向け公開講座・イベント等、地域学習の情報を集約しています。

令和5年度（2023年度）

（1）公開講座など一般向け

NO	担当教員	活動名	実施日
1	経済情報学部	「経済情報学部公開講演会」 (会場：尾道市立大学講義室) 経済情報学部主催の公開講演会。「ICT 教育の現在と将来（いまとこれから）」 《担当講師》渡辺健次（外部招聘講師）	2023年 11月2日（木）
2	日本文学科	「尾道文学談話会」 (会場：尾道市役所多目的スペース 1.2) 日本文学科教員を中心とする一般向け公開講座。 《担当講師》藤井佐美／藤沢毅／藤川功和／信木伸一／寺杣雅人（日本文学科）	2023年 5月～9月 毎月1回開催
3	尾道市立大学 日本文学会	「おのみち文学三昧」 (会場：しまなみ交流館大ホール) 日本文学科3年生と大学院1年生の研究発表会に基づく研究成果の公開と、講演会の一般公開。	2023年 12月9日（土）
4	美術学科	「地域プレゼンテーション課題」 (展示：尾道市立大学美術館／発表会：しまなみ交流館大ホール) 美術学科デザインコース3年生の課題。尾道や出身地をテーマに企画・制作を行う。	展示：2024年2月22日（木）～3月4日（月） 発表会：3月2日（土）
5		「地域プレゼンテーション課題 2022 選抜展」 (会場：しまなみ交流館2階ホワイエ) 広島県中小企業家同友会尾道支部の設立30周年記念イベントで、地域プレゼンテーション課題2022の選抜作品展を行った。	2023年 5月26日（金）
6	地域総合 センター	「尾道学入門公開授業」 (会場：尾道市立大学講義室) 地域に開かれた大学づくりの一環として、教養教育科目の講義「尾道学入門」を一般公開した。 《担当講師》大谷治／村上選／幸野昌賢／豊田雅子／真野洋介／大谷悠／寺杣雅人／林良司（外部講師）栗田広暁／森本幾子／堀江進也（経済情報学科）灰谷謙二／藤井佐美（日本文学科）小野環（美術学科）藤沢毅（学長）	2023年度前期 (木曜日1限)
7		「教養講座」 (会場：尾道市役所多目的スペース 1.2) 経済情報学科、日本文学科、美術学科の教員が、各専門分野に基づくテーマで行う公開講座。 《担当講師》宮谷聰美（日本文学科）／森本幾子（経済情報学科）／西村有未（美術学科）	2023年 10月（全3回）
8	情報処理 研究センター	「コンピュータ公開講座」 (会場：尾道市立大学CG実習室) 「AfterEffectsでモーションタイポをつくってみよう」 《担当講師》黒田教裕（美術学科）	2024年 3月16日（土）
9		「情報科学研究会」 (会場：尾道市立大学講義室) 「ウェブ情報資源の可能性と課題」 《担当講師》岡本真（外部招聘講師）	2023年 12月7日（木）
10	「尾道の町の 顔」研究会 (森本 幾子・ 吉田 宰・藤本 真理子)	「ミニ報告会「尾道の「顔」－町としてのイメージ形成」 大学のある尾道の町のさまざまな側面に目を向け、町のイメージの形成について考える研究会をとおして、参加学生どうしの交流をはかる学内の報告会。	2023年 12月14日（木）
11		「公開研究会「尾道の町の顔」」 (会場：尾道市商業会議所記念館2階議場) 「坂のまち」「猫のまち」など、尾道のもつさまざまな顔について歴史や文学を交えながら話す公開研究会を行った。	2024年 2月28日（水）
12		「「尾道の「顔」－町としてのイメージ形成」展示会」 (会場：尾道市まちなか文化交流館（Bank)) 尾道の歴史、文学、言語資料をテーマとしたポスター展示。	2024年 2月29日（木） ～3月9日（土）

NO	担当教員	活動名	実施日
13	小川 長 (経済情報学科)	「石井哲代／小川長 哲代おばあちゃんトークショー「上等、上等でございます」」 (会場：しまなみ交流館大ホール) 『102歳、一人暮らし。』の著者、哲代おばあちゃんと石井哲代先生と、小学校教諭時代の教え子である本学経済情報学部小川教授の師弟コンビが、人生や幸福、教育などについて熱く、愉快なトークを繰り広げる、講演&トークショー。	2023年 4月 8日 (土)
14		「小川長教授退職記念最終講義「ボクが学者として考えてきたこと」」 (会場：尾道市役所多目的スペース12) 2023年度末に退職となった経済情報学部小川長教授による最終講義を一般の方向けに開催。	2024年 2月 10日 (土)
15		「制作をめぐる話」 自身の美術家としての制作と実践を紹介。	2024年 2月 23日 (金)
16	小野 環 (美術学科)	「ワークショップ「大広間観測」」 レクチャーと実技ワークショップ。	2024年 2月 24日 (土)
17		「展覧会企画」 尾道に招聘してきた海外作家の創作活動の成果報告。	2023年9月 16日 (土) ~ 11月 12日 (日)
18		「ORGANIZING ABANDON 空き家の再生 / 転生」 あととプロジェクトと空家再生の関係についてのアーティストを交えての鼎談。	2024年 9月 23日 (月)
19		「Re-visit history 尾道の知られざる歴史」 アートプロジェクトを通じて見えてきた尾道の知られざる歴史についての発表とクロストーク。	2023年 10月 1日 (日)
20	小野 環 (美術学科)	「NEW LANDSKAP ツアー」 アートプロジェクトの現場をめぐる解説ツアー。	2023年 9月 17日 (日)、 9月 24日 (日)
21		「尾道建築塾 「失建築編」」 尾道旧市街の失われた建築を見学・解説する (NPO 法人尾道空家再生プロジェクト)。	2023年 5月 28日 (日)
22		「小林和作をめぐる」 小林和作ゆかりの場所を巡るツアー。	2023年 11月 5日 (日)
23		「和作旧居活用で見えたもの」 小林和作旧居の再起動計画のこれまでと展望について。	2023年 11月 5日 (日)
24	木村 文則 (経済情報学科)	「尾道市 デジタル技術を活用した人流データ活用事業への参加」 産官学(尾道市、株式会社 BIPROGY、尾道市立大学)でのデータ分析事業に参加。「データ分析チーム」を組織し、収集したデータの整形および分析を担当。	2023年度
25	灰谷 謙二 (日本文学科)	「大切にしたい方言の暮らしと思い出ー母の言葉からー」 (第49期尾道いきいき大学 尾道市地域福祉課) 60歳以上の市内在住者を対象に具体的な方言体験を振り返り、方言を残そうとする情緒的な態度、心理が、感傷的なものではなく存在確認のための重要な人のいとなみの一部であることをお話しした。	2023年 9月 8日 (金)
26	林 宏 (美術学科)	「LIFE 手から生まれる暮らしのカタチ」 (会場：ONOMICHI U2) デザインコース クラフトデザイン3年生による展覧会。	2023年11月 11日 (土) ~ 11月 20日 (月)
27	藤井 佐美 (日本文学科)	「久山田の歴史教室 その1」 (会場：久山田公民館) 栗原公民会主催。久山田町の歴史に関する講演会。歴史編。	2023年 7月 8日 (土)
28		「久山田の歴史教室 その2」 (会場：久山田公民館) 栗原公民館主催。久山田町の文化に関する講演会。伝承文化篇。	2023年 7月 22日 (土)
29	八木 力俊 (キャリアサポートセンター)	「日本財団・海と日本 PROJECT in 向島ドック」 向島ドック株式会社から依頼を受け、学生の業界研究と専門分野の学習を活かした地域活動を目的として、小学生の船の写生大会のインストラクターを担った。	2023年 7月 17日 (月)
30		「JOBWAY2023」 広島県中小企業家同友会主催の企業調査及びプレゼンテーション大会。学生への一般公募を行い、立候補者が企業を調査し発表した。	2023年 11月 25日 (土)
31	世永 逸彦 (美術学科)	「摺×刷×展」 (会場：ONOMICHI U2) デザインコース世永研究室がデザイン実習Ⅰの2年生課題として出題したアルファベットデザイン課題作品の展示。	2023年11月 11日 (土) ~ 11月 20日 (月)

(2) 学生向け授業など

NO	担当教員	活動名	実施日
1	地域総合センター	「『尾道学入門』(教養教育科目)」 教養教育科目の講義。尾道の歴史・文化・経済等に関する知識を修得する。	2023年度前期 (全15回)
2	日本文学科	「おのみち文化スタディ」 日本文学科の新入生歓迎行事の一つ。上級学生スタッフと教員が新入生と一緒に尾道を散策する。	2023年5月13日(土)散策、 2023年6月8日(木)事後発表会
3		「フィールドワーク」 日本文学科3年生以上を対象とする授業。フィールドワークの基礎知識を実習とともに学ぶ。	通年(前期～後期授業期間)
4	尾道市立大学 日本文学会	「おのみち文学三昧プレミアムの特別企画」 ライト文芸作家・三川みりさんと藤沢毅学長による対談と質問コーナー、ビブリオバトル。	2023年 11月3日(金)
5	美術学科	「地域プレゼンテーション課題2023」 デザインコース3年生が尾道地域または自身の出身地域を題材にして作品制作を行い、本学美術館での展示とギャラリートーク、また、広島県中小企業家同友会の協力を得て、しまなみ交流館で尾道市地域の方をアドバイザーとして向かえて発表会を開催した。	2023年度後期
6		「モノクローム写真課題 フォトウォーク」 デザイン実習Ⅰの選択課題「モノクローム写真」のうち1回、尾道市街地をスナップ撮影していくフォトウォークを実施した。	2023年度前期
7		「風景スケッチ課題」 美術館見学とスケッチ。	2023年 4月18日(火)
8	「尾道の町の顔」研究会 (森本 幾子・吉田 宰・藤本 真理子)	「フィールドワーク「吉源酒造場」」 尾道市内にある「吉源酒造場」に教員と学生で赴き、フィールドワークを実施した。	2024年 2月7日(水)
9	井本 伸 (経済情報学科)	「ゼミ：他大学の学生との交流」 関西大学にて、関西大学・広島大学の学生と合同ゼミ(研究発表、グループディスカッション)	2023年 9月30日(土)
10		「ゼミ：他大学との交流」 広島大学にて、広島大学の学生と合同ゼミ(卒業論文発表会)	2023年 12月16日(土)
11	太田 啓介 (非常勤講師)	「景観デザインと地域活性化」 大学院科目「デザイン学特講」の中で、尾道の景観デザインを分析していくことで、地域活性化について学んでいく。	2023年度前期
12	岡本 隼輔 (経済情報学科)	「フィールドワーク：愛媛県松山市における廃棄物処理施設の視察」 学生とともに地域経済と環境問題について考察するためのフィールドワーク実施。	2023年 5月25日(木)
13		「フィールドワーク：広島県東広島市における地域振興等の視察」 学生とともに地域振興策について考察するためのフィールドワーク実施。	2023年 7月28日(金)
14		「フィールドワーク：兵庫県(南あわじ市、神戸市)における地域振興等の視察」 学生とともに治水整備や地域産業について考察するためのフィールドワーク実施。	2023年 9月11日(月)
15	木村 文則 (経済情報学科)	「尾道商業高校 総合的な探究学習への参加」 学生が1名参加し、高校生の発表に対するコメントおよび助言を行った。	2023年6月
16		「尾道市主催プログラミング教室 ボランティア」 木村ゼミの学生6名が参加し、尾道市主催の小学生向けプログラミング教室での質問対応サポートを行った。	2023年 9月2日(土)、 3日(日)
17	栗田 広暁 (経済情報学科)	「科目『地方財政論』」 科目「地方財政論」の第4回授業で、地域に関わる資料「尾道市令和5年度当初予算の概要」を教材にした。	2023年度前期
18		「科目『地方財政論』」 科目「地方財政論」の第7回授業で、尾道市公表資料「財政健全化判断比率・資金不足比率の公表について」を教材にした。	2023年度前期
19		「科目『地方財政論』」 科目「地方財政論」の第14回授業で、地域に関わる資料「尾道市高齢者福祉計画及び第8期介護保険事業計画」を教材とした。	2023年度前期
20	高垣 俊之 (日本文学科)	「Onomichi and Literature」 科目「日本文学のための英語」の第14回授業で、尾道ゆかりの作品を英語で読みます。	2024年 1月16日(火)

NO	担当教員	活動名	実施日
21	趙 怡純 (経済情報学科)	「グループ研究」 ゼミでチームに分かれてグループ研究を行いました。「経営学に関わる内容もしくは尾道の企業に関する内容」というテーマを出したところ、あるチームがまるか食品株式会社を取り上げて研究を進めました。実際に会社に訪問し、工場見学とインタビュー調査を実施しました。最終的に「中小企業の海外進出と地域貢献—まるか食品の事例を通じて—」という題目をつけて研究成果をまとめ上げました。2024年2月には他大学と合同ゼミ（東北学院大学、武庫川女子大学、阪南大学、尾道市立大学）を行い、研究成果を報告しました。その際、他大学の学生や教員から大変高い評価をいただきました。	2023年度前期
22	中村 讓 (美術学科)	「芸術的視点を取り入れた幼児教育事業」 美術学科の教員と学生が講師として、尾道市内の幼稚園に赴き、園児を対象とした、「砂子絵を体験する活動」や「絵具を用いた絵画技法を体験する活動」を行った。	2023年 6月26日(月)、 7月11日(火)、 7月18日(火)、 10月31日(火)、 11月8日(水)、 11月17日(金)
23	野田 尚之 (非常勤講師)	「写真課題のためのフォトウォーク」 久山田町周辺、尾道市街、向島など授業内の複数回でフォトウォークを実施して、それぞれの景色や建物などを撮影して写真作品を制作していく。	2023年度前期、 後期
24	藤井 佐美 (日本文学科)	「科目『民話研究』」 尾道の民話・行事等の伝承状況について、保存された映像・音声等の資料とともに解説した。	2023年度後期
25		「科目『瀬戸内文化論』」 しまなみ海道をめぐる伝承文化の事例紹介と島々の歴史解説をおこなった。	2023年度前期
26		「科目『民俗学2』」 民間伝承を映像等の傍証資料から紹介し、地域社会における問題点と対応策についての考察を促した。	2023年度後期
27		「科目『伝承文学専門演習b』」 尾道の民話資料を輪読し、履修者の調査・研究成果を授業で共有し討議をおこなった。	2023年度後期
28		「科目『文化財学』」 オムニバス授業において尾道の様々な文化財の解説をおこない、フィールドワークも実施した。	2023年度後期
29	真野 洋介 (非常勤講師)	「尾道の景観デザインのフィールドワーク」 大学院科目「デザイン学特講」の第7回授業で、尾道商店街や斜面地のフィールドワークを通して景観デザインと地域活性化について考えていった。	2023年 9月27日(水)
30	森本 幾子 (経済情報学科)	「尾道フィールドワーク」 持光寺において尾道の歴史についてのレクチャーを聞く。	2023年度前期
31		「尾道フィールドワーク」 尾道市のコワーキングスペースにおいて、地域の情報交換の場の活用方法を学ぶ。尾道の港としての成り立ちを現地のフィールドワークによって学ぶ。	2023年度後期
32		「尾道フィールドワーク」 向島ドックを見学し、社長および広報担当の方の話を聞くことによって、尾道の歴史的産業の成り立ちと現在の状況について学ぶ。	2023年度後期
33		「経済情報学科選択必須科目「地域経済史」」 近代の尾道商人と北前船商人の取引を記した仕切状の解説、尾道商人の資産と文化への富の還元について、近世期に尾道を訪れた旅人と地域経済や社会との関係についての講義。	2023年度前期
34	山本 賢太郎 (非常勤講師)	「科目『地域の伝統文化(囲碁)』」 尾道市の市技である囲碁を身につけ、尾道のより一層の理解に役立てる。	2023年度後期

令和6年度（2024年度）

（1）公開講座など一般向け

NO	担当教員	活動名	実施日
1	地域総合センター	「尾道学入門公開授業」 (会場：尾道市立大学講義室) 地域に開かれた大学づくりの一環として、教養教育科目の講義「尾道学入門」を一般公開し、講座後質疑応答時間を設けた。 《担当講師》小川長／幸野昌賢／豊田雅子／真野洋介／大谷悠／藤沢毅／林良司（外部講師） 森本幾子／林直樹／木村文則／堀江進也（経済情報学科） 灰谷謙二／藤井佐美（日本文学科） 桜田知文／小野環（美術学科）	2024年度前期 (木曜日1限)
2		「教養講座」 (会場：尾道市役所多目的スペース1.2) 地域に開かれた大学をめざし、教育研究活動の一端を地域に還元することを目的として「教養講座」を開講。毎回担当講師が変わるオムニバス形式の講座。 《担当講師》南郷毅（経済情報学科） 高島彬／吉田宰（日本文学科） 山梨千果子／小野環（美術学科）	2024年 10月2日（水） 10月12日（土） 10月16日（水） 10月30日（水）
3	経済情報学科 地域総合センター	「ポスター展示」 (会場：広島銀行尾道栗原支店) 本学の紹介ポスターと、経済情報学部津村ゼミでの研究をまとめたポスターを展示了。	2024年6月～
4	尾道の「顔」研究会	「ポスター展示」 (会場：尾道市立大学) オープンキャンパスにて、尾道のイメージを作るものを、時間的・空間的に、近く・遠くから観察するという、本研究会のコンセプトを図式化したポスターの展示を行った。	2024年 8月10日（土）
5		「「尾道市市史編さん委員会事務局における尾道の「引き札」調査」 2024年度学長裁量教育研究費（共同研究）「尾道の「顔」形成の基礎的研究」共同研究 教員3名（日本文学科 平山直樹、藤本真理子、経済情報学科 森本幾子）で尾道市市史編さん室を訪れ、「おのみち文学三昧」でのポスター展示の内容に関係する「大藤忠、兵衛旧蔵引き札コレクション」内の引き札を閲覧し、その特徴を記録する活動を実施した。	2024年 11月7日（木）
6		「ポスター展示」 (会場：しまなみ交流館2階ホワイエ) 「学長裁量教育研究費「尾道の「顔」形成の基礎的研究」の研究成果の展示を行った。 しまなみ交流館2階ホワイエにて「おのみち文学三昧」（日本文学科主催）と同時開催にて展示。	2024年 12月7日（土）
7		「尾道市の歴史資料（引き札、古地図、古い観光パンフレット、古い写真・写真絵葉書）の調査」 (会場：尾道市市史編さん室) 尾道の「顔」研究会メンバーの教員2名と学生1名で、林良司氏の説明を聴きながら、調査を行った。	2025年 3月17日（月）
8	日本文学科	「尾道文学談話会」 (会場：尾道市役所多目的スペース1.2) 日本文学科教員を中心とする一般向け公開講座。 《担当講師》藤井佐美／原卓史／鷹橋明久／吉田宰／藤本真理子／平山直樹（日本文学科）	2024年 4月～9月 毎月1回開催
9	日本文学科 尾道市立大学 日本文学会	「おのみち文学三昧」 (会場：しまなみ交流館大ホール) 日本文学科3年生研究発表会に基づく研究成果の公開、教員による日頃の研究成果の公開、および講演会の一般公開。	2024年 12月7日（土）
10	林 直樹 (経済情報学科)	「コジマ・ムジカ・コレギアの活動へのボランティア協力」 「アンサンブルアカデミー inしまなみ」の修了演奏会、および「しまなみ音楽休暇村」のフィナーレコンサートのステージ補助者として、本学経済情報学科学生2名がボランティアとして参加。	2025年 3月29日（土） 3月30日（日）
11	森本幾子 (経済情報学科)	「第37回全国北前船セミナー基調講演「北前船商人と瀬戸内地域の経済的、文化的交流」（石川県加賀市）」 近世期の尾道や瀬戸内地域の商人と北前船との取引関係、文化交流に関する講演を実施。	2024年 8月25日（日）
12		「公開ゼミ：尾道の歴史的遺産と集客－学生のアイデアから－」 (会場：尾道商業会議所記念館) 尾道の歴史的遺産と尾道を訪れる人々の関係について、おもに「滞在」、「住む」、「情報発信」のそれぞれの視点から学生のアイデアを発表した。	2024年 12月22日（日）
13		「卒業論文執筆のためのフィールドワーク①」 2024年度卒業生の卒業論文執筆のためのフィールドワーク：「尾道山波伝統行事の継承と問題－フィードワークからの提言－」（ゼミ生大久保絆菜さん）	2024年度後期

NO	担当教員	活動名	実施日
11	森本幾子 (経済情報学科)	「卒業論文執筆のためのフィールドワーク②尾道ブルワリーさん」 2024年度卒業生の卒業論文執筆のためのフィールドワーク:「クラフトビールを広島県でより広げるには-尾道ブルワリーフィールドワークを通して-」	2024年度後期
13		「尾道カルチャークラブ (尾道の高等学校校長ほか教育文化関係者の会) における講座「近世後期尾道における消費活動と旅人-来訪者の受容と地域社会の変容-」(グリーンヒルホテル尾道)」 近世期尾道を訪れた行商人、医療関係者、芸能者と尾道町の関係についての研究成果を講演した。	2025年 3月22日(土)
16	藤本真理子 (日本語学 (古典語)ゼミ)	「昭和の記憶」 ゼミ学生の指導をとおして、学生と三訪会会員との交流を座談会形式で行った。	2024年 6月22日(土)
17	藤本真理子 (日本文学科 2年生学年担当)	「WHAT'S おのみち文化スタディ!?-地域と繋がる日本文学科の学び-」 オープンキャンパスにてポスター展示をした。	2024年 8月10日(土)
18	山田和大 (日本文学科)	「各教科等の見方・考え方を働かせた、STEAM型探究活動を体験する」 広島県教育委員会主催「STEAM型カリキュラム推進研修」において、高等学校教員対象のワークショップにおけるファシリテーターを担当した。	2024年 6月19日(水)
19		「古典の立場から考える「国語力」」 令和6年度広島県高等学校教育研究会国語部会広島東支部主催の研修会(パネルディスカッション「いま『国語力』を問う-高校×入試×大学-」)の中で、基調提案者の一人として古典(特に漢文)教育の立場から「国語力」について提案するとともに、パネラーとして協議に参加した。	2024年 12月12日(木)
20	中村 謙 鈴木恵麻 山梨千果子 (美術学科)	「日本画ワークショップ」 地域の方を対象として小色紙サイズに日本画制作を行った。	2024年 11月29日(金)
21	中村 謙 鈴木恵麻 山梨千果子 村松航汰 (美術学科)	「再興109回院展広島展にてギャラリートークやワークショップを開催」 院展広島展の会場である平山郁夫美術館にてギャラリートークやワークショップを開催。	2025年 3月1日(土) 3月9日(日) 3月15日(土)
22	市川 彰 (美術学科)	「第50期尾道いきいき大学教養講座」「日本絵画 鑑賞の愉しみ~俵屋宗達「風神雷神図屏風」を考えてみる~」 場所:尾道市総合福祉センター	2024年 9月13日(金)
23	伊藤麻子 (美術学科)	「ポスター展」 (会場:尾道市まちなか文化交流施設Bank) グラフィック・アドバタイジング領域の課題で取り組んだポスター展を行い地域の皆さんに見ていただく「摺×刷×展」を実施。同時にイラストレーション・アニメーション領域で取り組んだ課題の展示も同時開催した。	2024年12月12日(木)~ 12月14日(土)
24	小野 環 (美術学科)	「建築塾 たてもの探訪編」 尾道市内の失われた建築を解説しながら巡るまち歩きの企画。	2024年5月
25		「第15回尾道まちづくり発表会~持続可能なまちを支える視野と活動~」 これから持続可能な尾道のまちを考えるヒントとなる、近隣の町での継続的な取り組みから学ぶ会。コメントーターを務めた。	2024年 5月17日(金)
26		「和作ウイークにおける展覧会企画」 小林和作没後50周年を記念する「和作ウイーク」における展覧会「未完のわざく」、「マルチプレーヤー和作」、「和作の引き出し」の企画運営を行った。	2024年 11月3日(日) ~10日(日)
27		「トークイベント「マルチプレーヤー和作」」 和作ウイーク2024の展覧会企画に至るリサーチから見えてきた新たな小林和作像について2020年にスタートした和作研究会メンバーが話す。	2024年 11月9日(土)
28		「墓の影響学 第6セミナー 再生の影響学」 東京大学中井悠ゼミ主催のトークイベントで発表とディスカッションを行った。	2025年 3月16日(日)

(2) 学生向け授業など

NO	担当教員	活動名	実施日
1	地域総合センター	「尾道学入門（教養教育科目）」 尾道の経済・文化・歴史について学ぶ。 《担当講師》小川長／幸野昌賢／豊田雅子／真野洋介／大谷悠／藤沢毅／林良司（外部講師）森本幾子／林直樹／木村文則／堀江進也（経済情報学科） 灰谷謙二／藤井佐美（日本文学科） 桜田知文／小野環（美術学科）	2024年 前期 (全15回)
2		「尾道灯台てらすプロジェクト」 灯台の存在意義を高めること等を目的としている日本財団「海と灯台プロジェクト」のサポートを受け、テレビ新広島と株式会社omoroiが共同で行うもの。「尾道の灯台を起点とした宿泊需要喚起のための実証調査」を行う企画として実行された。テレビ新広島から依頼を受け、希望する本学学生2名が参加。	2024年 11月21日(木)
3	経済情報学科	「商店街へのAIの導入」 AIとさまざまな法律の接点を踏まえて、商店街に出て、商店街のビジネスにどのような形でAIを導入することができるかについて考察した。	2024年度前期
4		「本学経済情報学部主催の公開講演会」 神戸大学名誉教授・広島修道大学名誉教授の豊田利久先生による「為替レートと日本経済の構造変化」をテーマとする講演。学生や一般の方合わせて約140名の参加。	2024年 10月25日(金)
5		「2024年度 経済情報学部公開ゼミ研究発表会」 経済、経営、情報各コースの代表者が卒業論文の内容について報告する公開発表会。発表者は、経済コース：大久保緋菜（森本ゼミ）経営コース：山元海鈴（趙ゼミ）情報コース：目次彩恵（高山ゼミ）。	2025年 1月16日(木)
6	日本文学科	「おのみち文化スタディ」 日本文学科の新入生歓迎行事の一つ。上級学生スタッフと教員が新入生と一緒に尾道を散策する。また後日、散策に関する報告会を行う。	2024年5月11日(土) 散策、 2024年6月14日(金)報告会
7		「フィールドワーク」 日本文学科3年生以上を対象とする授業。フィールドワークの基礎知識を実習とともに学ぶ。	通年 (前期～後期授業期間)
8	美術学科 デザインコース	「デザイン×私のまち 第22回 地域プレゼンテーション」 尾道地域または学生の出身地域を題材に作品制作またはデザイン企画を行い、尾道市民へ向けてプレゼンテーションによる発表と展覧会を実施した。	展覧会：2025年2月22日(土)～25日(火) 発表会：2025年3月1日(土)
9	栗田広暁 (経済情報学科)	「フィールドワーク」 地域包括ケアシステムなどについて考察するため、ゼミの学生とともに尾道の御調地域（公立みづぎ総合病院近辺）を散策した。	2024年 10月5日(土)
10		「財政学2」 科目「財政学2」の第10回～11回授業で、地域に関わる資料「尾道市令和6年度当初予算の概要」を教材にした。	2024年 12月4日(水) 12月11日(水)
11	神崎稔章 (経済情報学科)	「ヒアリング調査」 尾道市役所にて、尾道市の企業活性化の取り組みと企業価値に関するヒアリング調査を実施し、担当課の方々と議論した。	2024年 9月2日(月)
12	岡本隼輔 (経済情報学科)	「フィールドワーク：ゆすはらペレットの視察」 地域由来木質バイオマスを原料とした燃料ペレットに関わる地域経済と環境問題について考察するためのフィールドワークを実施。	2024年 9月19日(木)
13		「フィールドワーク：早明浦ダムの視察」 地域経済発展において重要な基盤の一つである治水事業を司るダムについて考察するためのフィールドワークを実施。本ダムは四国地方で最大規模のものである。	2024年 9月20日(金)
14		「フィールドワーク：豊稔池堰堤の視察」 地域経済発展において重要な基盤の一つである治水事業を司るダムについて考察するためのフィールドワークを実施。本施設は昭和初期から農業土木を支えたもので、現在では重要文化財にも指定されている。	2024年 9月20日(金)
15		「金融セミナー：人生とお金」 尾道市を中心に金融等のセミナー事業を展開している株式会社プロシード様から加藤雄大氏をお招きして、学生向けに「ライフサイクルと人生の三大資金」「勤労と“金労”」といったことをテーマにご講演いただいた。	2024年 5月20日(月)

NO	担当教員	活動名	実施日
16	森本幾子 (経済情報学科)	「『専門演習Ⅰ』でのフィールドワーク『ONOMICHIクリエーターズマーケット』経営者(廣瀬百子様)の話を聞く」 他県出身の経営者から、尾道で店舗を経営するに至った経緯、経営上の喜びや苦労などについて話を聞き、学生が質問をする機会を設けた。	2024年後期(10月)
17		「『専門演習Ⅰ』でのフィールドワーク『尾道の歴史的景観を学ぶ』」 尾道の町のつくりや景観形成、歴史的建造物などの歴史について、現地でフィールドワークを実施することによって理解を深めた。	2024年度5月(前期)
18		「『専門演習Ⅰ』フィールドワーク②」 宮島の歴史に詳しい県立広島大学名誉教授の案内により、宮島と尾道の歴史的景観等の比較のための宮島フィールドワークを行った。	2024年11月(2024年度後期)
19		「『地域経済史』(経済情報学科3年、4年生対象講義)」 尾道と北前船商人ほか他の商人との取引関係を「仕切状」や古文書を通して紹介した。	2024年度前期
20		「2024年度『尾道学入門』ガイダンス担当」 教養教育「尾道学入門」の講義目的、今後の内容、特徴の説明を第一回のガイダンスにて行った。	2024年度4月
21	藤井佐美 (日本文学科)	「科目『民話研究』」 尾道の昔話・伝説・年中行事等の伝承状況を、映像や音声資料とともに解説した。	2024年度前期
22		「科目『民俗学2』」 民間伝承に関する映像や音声等の傍証資料を教材とし、現代の地域社会における課題・対策の事例について講述した。	2024年度後期
23		「伝承文学専門演習b」 広島県の昔話に関する報告資料を教材とし演習をおこなった。	2024年度後期
24		「科目『文化財学』」 オムニバス授業において尾道の様々な文化財の解説をおこない、フィールドワークも実施した。	2024年度後期
25		「科目『瀬戸内文化論』」 しまなみ海道をめぐる伝承文化の事例紹介と島々の歴史解説をおこなった。また、ゲストスピーカーとのディスカッション授業もおこなった。	2024年度前期
26	宮谷聰美 (日本文学科)	「フィールドワーク『浄土寺藏源氏物語図扇面貼交屏風』『源氏物語の世界展』見学」 ゼミ活動の一環として、尾道浄土寺で特別公開された「源氏物語図貼交屏風」、広島県立歴史博物館で開催された「源氏物語の世界展」を見学した。	2024年11月4日(月)
27	山田和大 (日本文学科)	「教職課程学生対象の教職の実際にに関する学び」 広島県教育委員会の方を招き、「教員の一日」(科目「教師論」11/6)、「マナー・コミュニケーション講座~教員として人とつながる」(科目「教職実践演習」11/15)、「特別支援教育の考えを生かした個別最適な学びとICTを活用した授業」(科目「教育の方法と技術・教育におけるICT活用」12/6)という内容を学ぶ機会を設けた。	2024年11月6日(水) 11月15日(金) 12月6日(金)
28		「出前授業『中国文学が日本文学に与えた影響』」 広島県立広高等学校における出前授業	2024年9月18日(水)
29		「教職課程で学ぶ学生の学外実習」 広島大学附属福山中・高等学校で行われた公開研究会に、「国語科教育法Ⅱ」を受講している学生とともに参加し、研究授業を参観して授業の実際についての理解を深めるとともに、研究協議を通して授業づくりについての学びを深める機会を設けた。	2024年11月22日(金)
30	中村 謙 山梨千果子 小西美幸 (美術学科)	「芸術的な視点を取り入れた幼児教育事業」 尾道市内幼稚園・小学校での活動(高須幼稚園・三成幼稚園・木ノ庄東幼稚園・高須幼稚園・美木原小学校)「砂子絵を体験しよう」「とろとろえのぐででこぼこおえかき」を行った。	2024年5月29日(水)、 6月11日(火)、 6月13日(木)、 6月25日(火)、 10月24日(木)、 10月22日(火)、 10月29日(火)、 11月1日(金)
31	西村有未 (美術学科)	「公益社団法人尾道法人会 女性部会主催「税に関する絵はがきコンクール」」 尾道市内の小学生を対象とした、税に関する絵はがきコンクールの審査員。	2024年10月26日(土)

地域学修の風景

【地域学修】令和6年度（2024年度）「瀬戸内文化論」 ゲストスピーカーとのディスカッション授業を行いました。

科目「瀬戸内文化論」のゲストスピーカーによる貴重なお話とディスカッションを通して、尾道の歴史や文化継承に向けての多様な取り組みについて学びました。（2024年7月12日）

ゲストスピーカー：尾道西國寺 麻生 裕雄 副住職
授業担当教員：日本文学科教授 藤井 佐美

【授業の様子】



【学生の授業感想より】

今回の講義で、西國寺の詳細に関してや、麻生さん自身の貴重な経験など、この機会ならではのお話を伺うことができました。時間が超過してしまうほど数多くの質問が寄せられていましたが、それら一つひとつの質問に丁寧にお答えいただいたおかげで、西國寺だけでなく、尾道の歴史や文化といった部分においても非常に関心が湧きました。

その中でも非常に印象に残ったのは、西國寺や境内の中に残る歴史的な建造物を後世に遺していくために必要なのは、多くの人々の協力があってこそ成り立っている、というお話です。尾道に様々な重要文化財や歴史的価値のあるものたちが今もこうして遺されていることは、多くの人々の協力や助け合いが行われているからこそその産物であるということを改めて理解しました。現代において、歴史的価値のあるものを排除する、または杜撰に扱うような話を聞くことが多いように感じていましたが、今回お話をうかがって、先人たちが後世に遺そうと尽力してきた想いを継いでいくことが何より重要であると感じました。伝統的な歴史や文化を遺していくとする政策は、お寺や神社、行政の人々だけでなく、私たち一般人も考えていかなければならない課題の一つであると思います。私も、歴史的価値のある文化や建造物を一つでも多く後世に繋げられるような活動に積極的に関わっていきたいと考えました。

撮影協力 地域総合センター

目次

地域学修紹介

昔話資料集『芸備の昔話』の輪読記録

-二〇二四年度伝承文学専門演習 b の報告より -

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授 藤井 佐美 ━━━━━━━━━━ [2]



藤井 佐美 (ふじい さみ)

日本文学科教授

伝承文学・民俗学を担当しています。書承（文字）と口承（言い伝え）の響き合いにより生み出された魅力的な文芸や日本の文化を学生たちと一緒に学び、楽しみ、伝えることができればと思います。毎年、日本文学科教員による公開講座：尾道文学談話会も開催しておりますので、会報とあわせてぜひお楽しみください。

【地域学修紹介】

昔話資料集『芸備の昔話』の輪読記録 -二〇二四年度伝承文学専門演習bの報告より-

尾道市立大学芸術文化学部日本文学科教授
藤井 佐美

本稿は、二〇二四年度伝承文学専門演習bの授業記録です。近年、後期の演習bでは瀬戸内に伝承された昔話の資料集を輪読しており、当該年度は広島県師範学校編『芸備の昔話』（一九七九年、歴史図書社）を分担し読み進めました。

資料集の冒頭には一九三九年七月の序文（広島県師範学校長並びに広島県師範学校郷土係主任記）に続き、刊行までの経緯に関する村岡浅夫の解説があります。それによると、内容はおよそ一九三五年頃まで伝承されていた昔話が報告されており、採集および記録について、

本稿（広島県師範学校）生徒の手を煩わしたものと、備後島嶼部の小学校、青年学校約二十校の先生方に依頼して児童生徒の手を煩わしたもので共に老婆老爺の耳から直接聞いたものを纏めたものである。量的には此の数倍であつたがこれを昔話研究界の指導者柳田國男氏の勞によつて価値の有為を識別して戴いたものが本書である。

とあり、当時の生徒と教員の成果であることと、各話の末尾に残された注記が柳田による気づきであることがわかります。また、解説では柳田からの書伝に、

- ・広島県下に最近まで是だけ多種の話が残つていたことも意外。
- ・それがこの地方において独自に発達し変化して居たことも興味がある。
- ・詳しく其成長分布の経路を調べたら学問上にも有益だらうと思う。

とコメントされていました。

そもそも出版部数も限られていた地域の昔話集が研究対象として読まることは稀であり、広く知られる機会も皆無に等しいといえます。そして、伝承されていた話はもとより採集者の労さえも忘れ去られています。この資料集の「此の書の生ひ立ちと使命」には、

本当の伝承者は「今ごろの人は馬鹿げてゐると言ふて取合はぬが、まじめにきいてくれる人があればぜひ、話してきかせ、後の世に伝へ

たい」という希みをもつてゐる筈である。かう云ふ人々の支持と熱意によつてのみ此の学問は伸びて行くのである。かう云ふ人々が死なないうちに尋ね出してきいておくことが何よりも急務である。本書は謂はばその手引きとも云ふべきである。

との前書きがあります。

以下、本稿の内容は演習成果の一端ですが、戦前の広島県に伝承されていた数多の昔話および資料集のご紹介を兼ねるものです。

【凡例】

一、昔話一覧表

一二名の学生レポートを総括した一覧表は、分担整理No.、目次、書中の開始頁数、記載された話名と伝承地、学生が抽出した語り始めと語り受けの文言、注の○は柳田による各話注記の有無を示します。続く昔話研究の推移を比較したタイプインデックス（昔話採集標目、日本昔話大成、日本昔話通観）の分類番号と話名においては、×は未載であるとの報告、△は検討を要する話、空欄は担当者未報告（既存の分類話名に準じ省略）を示します。授業進行の都合により後編の「笑話十題」（整理No.144～158、目次No.31、206～212頁）の輪読と掲載は割愛しましたが、副題は以下の通りです。

	学生1	担当							
2	前編 1	整理No.							
2	1	目次No.							
3	1	頁							
隣の寝太郎・その1	田螺息子		話名						
神石郡豊松村	高田郡北村		伝承地						
昔々	若い者が	語り始め							
×	トウカツチリ	語り受け							
○	○	注							
7	5	昔話採集標目							
隣の寝太郎	田螺息子	日本昔話大成							
126	134	日本昔話通観							
鳩提灯	田螺息子								
236A	139								
隣の寝太郎・鳩提灯型	たにし息子								

一、昔話一覧表

- 1 一枚の着物（佐伯郡大柿村、高田郡北村）
 2 三人盲・その1（佐伯郡大柿村）、三人盲・その2（豊田郡大崎南村）
 3 あきれ坊（神石郡豊松村）
 4 ひばりとちよんぎいす（立花）
 5 すばな男（佐伯郡水内村）
 6 蜂と蟻（蘆品郡新市町）
 7 けちん坊・その1（佐伯郡大柿町）、けちん坊・その2（上小村）
 8 法螺吹き・その1（双三郡作木村）、法螺吹き・その2（神石郡永野村）、法螺吹き・その3（佐伯郡水内村）
 9 聞き違ひ・その1（双三郡作木村）、聞き違い・その2（佐伯郡水内村）
 10 あはて者（深安郡御野村）
- 二、研究テーマ
- 担当話（整理No.）から報告された個人の研究テーマ
- 三、昔話採集標目
- 資料集の附録（記載：民間伝承二ノ三）より引用。一九三五年の時点における標目に関しては、柳田國男と関敬吾が残した昔話採集報告の経緯を論じた石井正己「『昔話採集手帖』の方法」（『東京学芸大学紀要 第2部門 人文科学』54 一〇二三年 東京学芸大学）に詳しい。

						学生2										担当
17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	整理No.	
11	10	9	8	同右	同右	7	同右	6	5	同右	4	同右	3	同右	目次No.	
30	29	28	26	25	21	19	18	17	15	13	12	11	5	4	頁	
手無し娘・その1	継子と笛	皿々山	蛇智入	猿智入・その3	猿智入・その2	猿智入・その1	蛇女房・その2	蛇女房・その1	狐女房	鶴女房	鶴女房・その1	天人女房・その2	天人女房・その1	隣の寝太郎・その2	話名	
比婆郡帝釈村	不明地	不明地	比婆郡比和町	世羅郡広定村	比婆郡敷信村	佐伯郡大柿町	神石郡豊松村	御調郡久井村	御調郡久井村	双三郡木村	蘆品郡河佐村	比婆郡敷信村	双三郡作木村	比婆郡敷信村	伝承地	
昔	或る日	は本子 姉娘は継子 妹娘	或る人に	おぢいさんが	或る所に	昔々或所に、	昔々	蛇が	昔	昔	昔	むかしむかし	昔	昔々	語り始め	
昔こつぶりとびのくそ	たかつたので離縁になつた かかったので離縁になつた 継母が殺した事が分 と讀んだげな	だ 脊戸へづり落ちて死ん	親のいふことをきいた 方がよいものだよ	昔かつぶりこどじょう の目	そして妹は家に又帰つ て来ました	昔かつぶり、けつちり こ。どぢようの目王	×	×	昔こんぶり	×	×	×	昔かつぶりこ	語り受け		
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	注	
25	24	19	17	16	16	16	15	15	12	11	11	10	10	7	昔話採集標目	
手無し娘	継子と笛	皿々山	蛇智入	猿智入	猿智入	猿智入	蛇女房	蛇女房	狐女房	鶴女房	天人女房	天人女房	天人女房	隣の寝太郎	日本昔話大成	
208	217	206	104A	×	×	103	110	110	116B・狐	115	115	118	118	126	日本昔話通観	
手無し娘	継子と笛	皿々山	蛙報恩	×	×	猿智入	蛇女房	蛇女房	型狐女房—一人女房	鶴女房	天人女房	天人女房	天人女房	鳩提灯		
178	274B	175	205G	211	211	210A	224	224	225A	229A	229B	221	221	236A		
手なし娘	型継子の訴え—継子と笛	皿々山	蛇婿入り—蟹報恩型	猪婿入り	猪婿入り	猪婿入り—嫁入り型	蛇女房	蛇女房	狐女房—離別型	鶴女房—謎解き型	鶴女房—謎解き型	天人女房	天人女房	隣の寝太郎—鳩提灯型		

												学生3			担当	
33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18 整理No.	
19	18	17	16	同右	同右	同右	15	14	13	同右	同右	同右	12	同右	同右 目次No.	
51	50	48	47	45	45	44	43	42	40	39	38	38	36	34	33 頁	
狼の眉毛	炭焼長者	打出の小槌・その1	龍宮童子	大歳の客・その4	大歳の客・その3	大歳の客・その2	大歳の客・その1	取付く引付く	三人兄弟	継子いぢめ・その4	継子いぢめ・その3	継子いぢめ・その2	継子いぢめ・その1	手無し娘・その3	手無し娘・その2	話名
三次市作木町上作木	三次市広定村	江田島市大柿町	江田島市大柿町	安芸高田市北村	江田島市大柿町	庄原市帝釈村	安芸高田市北村	江田島市大柿町	庄原市帝釈村	江田島市大柿町	福山市御野村	江田島市大柿町	比婆郡敷信村	神石郡豊松村	伝承地	
昔或所に	が孝行な炭焼息子	昔々或る所に	昔の	今の尾道市の	主人夫婦は	昔々或所に	昔或所に	昔ある所に	昔或る所に	お熊は十四で	父親の留守に	昔	昔々	昔	語り始め	
昔こつぶり	仲よく暮したさうな	眞似事はせぬ事です	殺したんじやげな	今は橋本と云ふ	めでたしめでたし	むかしかつぶりこ	一生を幸福に暮した	人まねをするもんじや	ヨウノメ	ムカシカツブリコドジ	すぐに官吏の手にかけ	歩いて居ると云ふ	パツト目が開いた	暮したそうですとさ	語り受け	
○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	注	
×	×	40	37	34	34	34	34	30	27	×	×	×	×	25	25	昔話採集標目
×	×	打出の小槌	△龍宮童子	大歳の客	大歳の客	大歳の客	大歳の客	取付く引付く	△三人兄弟	×	×	×	×	手無し娘	手無し娘	日本昔話大成
172	127	413	223	199B	202	202	202	163B	173	×	×	220A	220B	208	208	日本昔話通観
109	145B	117	75	18	18	18	14B	104	159	×	×	×	×	178	178	日本昔話通観
	△		△							×	×			手なし娘	手なし娘	

					学生5									学生4	担当
48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	整理No.
28	27	26	同右	25	24	同右	同右	23	同右	同右	22	同右	21	20	目次No.
82	79	78	76	75	71	70	67	66	64	63	59	57	55	54	頁
牛方山姥	若水	二人兄弟	金の茄子	屁こき娘	竹伐爺	地蔵淨土・その3	地蔵淨土・その2	地蔵淨土・その1	鼠の淨土・その3	鼠の淨土・その2	鼠の淨土・その1	鼻きき六平・その2	鼻きき六平・その1	猿長者	話名
佐伯郡大柿町	神石郡豊松村	双三郡作木村	佐伯郡吉坂村	山縣郡吉坂村	佐伯郡大柿町	双三郡作木村	神石郡豊松村	山縣郡川迫村	世羅郡広定村	御調郡久井村	比婆郡田森村	安芸郡江田島村大須	佐伯郡中村	高田郡北村	伝承地
昔	昔々或る所	昔或所	昔或所に	昔或所に	昔々或る所に	昔或る所に	昔昔その昔	昔或る所に	ある所に	昔昔ある所に	昔或る所に	マイに／＼にのう	昔なんぢやげなあのう	が子供のない老婆	語り始め
×	×	×	×	×	×	あと昔コツブリ	×	昔こつぶり	×	×	めでたしめでたし	まあそんだけ	×	×	語り収め
○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	注
65	×	26	78	78	53	50	50	50	49	49	49	80	80	58	昔話採集標目
牛方山姥	×	兄弟話	金の茄子	△金の茄子	竹伐爺	地蔵淨土	地蔵淨土	地蔵淨土	鼠淨土	鼠淨土	鼠淨土	見透し六平	見透し六平	犬と猫と指輪	
×	本格新12	177-178B	522	386	189	194	184	184	185	185	185	626A	626A	165	日本昔話大成
531⑤	29	168	429	1118	90	81	81	81	82	82	82	319	319	383	
かちかち山	若返りの水	兄弟の村救い	金の瓜種	屁ひり嫁	竹切り爺	地蔵淨土	地蔵淨土	地蔵淨土	鼠の淨土	鼠の淨土	鼠の淨土	名鼻きき源助(原題・高)	名鼻きき源助(原題・高)	犬と猫と玉	日本昔話通観

											学生6				担当		
63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	整理No.		
39	同右	38	37	36	同右	35	同右	34	33	32	31	同右	30	29	目次No.		
107	105	101	100	98	97	95	92	90	89	88	87	85	83	頁			
前和尚と小僧咄(ハ)名	和尚と小僧咄(ハ)名	和尚と小僧咄(ロ)留	和尚と小僧咄(ロ)天	和尚と小僧咄(イ)留	和尚と小僧咄(イ)天	親捨山	運定めの話・その2	狐の話・その2	狐の話・その1	寶化物	夜蜘蛛	諸万事	孝行坂・その2	孝行坂・その1	物を言ふまい	話名	
双三郡作木村	神石郡永野村	高田郡北村		佐伯郡大柿町	佐伯郡大柿町	世羅郡広定村		蘆品郡上山村	神石郡豊松村		佐伯郡水内村	高田郡北村	神石村豊松村上豊松	御調郡久井村	伝承地		
毎晩小僧を	昔或る寺に	昔々或山寺に	(解説文のみ)	昔年寄の	獵士が	昔ある所に	(解説文のみ)	昔山奥に	昔或所に	子取り婆が	諸万事ちえは	昔	昔或所に	昔々	語り始め		
食べた	うのめ	むかしこつぶりどじよ	とーかつちり	と云ふ	やめました	ないもんだ	×	食べたとさ	なつた	しまつたげな	以下脱文	×	一昔コップブリ	×	語り取り	注	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
×	×	×	×	74	73	73	×	×	68	×	×	×	×	×	×	○	
×	×	×	×	親捨山	運定め話	運定め話	×	×	寶化物	×	×	×	×	×	×	昔話採集標目	
529B・534	529A	×	×	523A・B	×	新30A	×	×	258	×	362D	362D	474	×	日本昔話大成		
		×	×		×		×	×		×				×			
604	605	×	×	410A	×	148	×	×	295	×	99B	99B	99A	×	日本昔話通観		
僧一小僧改名	みそり	和尚と小僧一卵は白なす、610一和尚と小	和尚と小僧一卵は白なす、610一和尚と小	姥捨て山一難題型	×	運定めー夫婦の因縁	×	×	宝化け物	×	鬼の面ー愚息型	鬼の面ー愚息型	鬼の面ー老女型	×			

										学生7			担当
77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64 整理No.
52	51	50	49	48	47	46	45	44	同右	43	42	41	40 目次No.
130	129	126	125	121	119	118	116	115	114	113	112	109	108 頁
商売	忘れん坊	馬鹿息子・寺迎へ	嘘上手	話千両	鬼の子小綱	狂歌咄	俵薬師	かこうしようか	奇妙奇毒どうしようか	はちひき・その2	はちひき・その1	大もつけ小もつけ	女房思案・絵姿女房 和尚と小僧咄(二) 橋 と端(ホ)その他
佐伯郡大柿町	×	御調郡立花村	双三郡作木村	高田郡北村	神石郡豊松村	豊田郡大崎南村	世羅郡大広定村	神石郡豊松村	×	御調郡久井村	高田郡北村	高田郡北村	御調郡立花村
馬鹿な子供を	行つて 他所へよばれに	昔或處に	話上手の彦八は	昔丹波の國の	昔或所に	大阪の八坂峠で	男に 昔或富限者の下	昔或所に	出入の男が	或日	播州の山の中に	昔或る所に	和尚が
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	とうがつちり	云ふた
×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○ 注
×	×	×	×	77	59	×	76	×	×	×	×	×	×
×	×	×	×	話千両	鬼の子小綱	×	俵薬師	×	×	×	×	×	×
331	362C	333A・B	×	515	247B	×	618	114	507・508	507・508	114	120B	530
929	1047B	870	×	434	328A	×	438	215	806	805	215	217A	608
ちやつくりかき	物の名忘れー酢あえ型	法事の使い	×	話の功德	妻女奪還一人影花型	×	俵薬師	△竜宮女房	牛八匹	牛八匹	竜宮女房	絵姿女房ー難題型	和尚と小僧ー指合図

			学生9									学生8		担当	
92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78 整理No.	
同右	同右	同右	61	60	同右	59	同右	同右	58	57	56	55	54	53 目次No.	
150	148	147	143	142	141	140	140	139	138	136	135	133	132	130 頁	
猿と蟹・その4	猿と蟹・その3	猿と蟹・その2	猿と蟹・その1	雁と亀	田螺と鳥・その2	田螺と鳥・その1	古屋の漏藏・その3	古屋の漏藏・その2	古屋の漏藏・その1	片脚脚絆	金ひり馬	旅学問・2医者使ひ	旅学問・1魚売り	愚か聾	
神石郡豊松村	安芸郡下蒲刈島村	深安郡八尋村	神石郡豊松村	×	豊田郡大崎南村	不明地	×	×	比婆郡敷信村	佐伯郡大柿町	山縣郡川迫村	沼隈郡田尻村	蘆品郡河佐村	×	
昔或所に	猿と蟹が	昔々	昔或所に	×	元昔	昔々の其の昔	昔おばあさんと	の豊田郡大崎南村	昔々或所に	昔かしき（ずつ）とむかしの話	昔大昔	馬鹿息子に	馬鹿な息子が	(解説のみ)	
×	これで終わりでがんす	それがまつこう一昔	昔こつぶりどぢやうの目	×	云ふた	もぐり込んだげな	赤いげな	ではない	の日	昔カツブリ、ドジョウ	取つたげな	云ふたそな	云ふた	×	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	云ひます				注	
98	98	98	98	93	×	×	×	×	94	89	79	×	×	×	
猿と蟹	猿と蟹	猿と蟹	猿と蟹	雁と亀	×	×	×	×	古屋の漏藏	片脚脚絆	金ひり馬	×	×	×	
×	23	23	28	×	45	44	×	×	33A・B	58	621A・B	×	318	339	日本昔話大成
×	猿と蟹の寄合餅	猿と蟹の寄合餅	爺と猿	×			×	×				×			
×	527C	527C	522A	×	537	537	×	×	583	449	629	×	1078	1018	日本昔話通観
×	餅争い一尻はさみ型	餅争い一尻はさみ型	柿争い一仇討ち型	×	田螺と鳥一嘆願型	田螺と鳥一巧言型	×	×	古屋の漏り	片脚脚絆（鳥）	金ひり馬	旅学問			

										学生10						担当	
109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	後編98	97	96	95	94	93	整理No.
同右	同右	6	5	同右	同右	4	同右	同右	3	2	1	64	63	62	同右	同右	目次No.
170	169	169	168	167	166	166	165	165	163	159	157	154	153	152	151	150	頁
継子いぢめ・その3	継子いぢめ・その2	継子いぢめ・その1	継子の椎拾ひ	難題聾・その3	難題聾・その2	難題聾・その1	山田白瀧	山田白瀧	山田白瀧・その1	瓜姫	桃太郎	長い話	かちかち山	猿と蟹・その6	猿と蟹・その5	話名	
深安郡御野村	佐伯郡大柿町	深安郡御野村	豊田郡大崎南村	×	×	蘆品郡河佐村	×	×	世羅郡津名村	佐伯郡大柿町	佐伯郡大柿町	佐伯郡大柿町	高田北村	比婆郡整信村	沼隈郡田尻村	伝承地	
継母が	父が東京へ	昔々	子供二人で	店の旦那が	一把の藁を	大阪の財産家	深安郡御野村と	某村の報告は	昔々	昔々或處に	昔、或る處に	昔々或る所に	昔ある所に	昔々或る所に	向ふの山で	語り始め	
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	めでたしめでたし	×	×	語り収め	
×	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	注	
×	×	×	22	9	9	9	8	8	8	3	1	100	99	×	98	98	昔話採集標目
×	×	×	継子の椎拾い	難題聾	難題聾	難題聾	山田白瀧	山田白瀧	山田白瀧	瓜姫	桃太郎	果なし話	かちかち山	猿と蟹	猿と蟹	日本昔話大成	
×	×	×	212	131	131	123	133	133	133	144A	143	642F	32A	29	7C	23	日本昔話通観
×	×	×										鼠の旅行、天昇り	勝々山	雀の仇討	貉と猿と川瀬	猿と蟹の寄合餅	
×	200	×	172	246	246	243	235	235	235	128	127	1184	335	525	558	527C	
×	継子の生還	×	継子の木の実拾い	難題聾一わの藁	難題聾一わの藁	難題聾一葉子の死体	歌姫入り一ごもく型	歌姫入り一ごもく型	歌姫入り一ごもく型	瓜姫	桃太郎	蛙果てなし話一とびこむ	狸の婆汁	雀の仇討	兎の分配	餅争い一尻はさみ型	

									学生11					担当		
124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	整理No.	
15	同右	同右	14	同右	同右	13	12	11	10	9	同右	8	7	同右	目次No.	
188	186	185	182	181	180	179	179	178	176	175	174	172	171	170	頁	
長い名・その1	その3	天道さんの金の綱・その2	天道さんの金の綱・その1	猿地蔵・その3	猿地蔵・その2	猿地蔵・その1	鳥呑爺	文福茶釜	塩吹臼	龍宮童子	炭焼長者・その2	炭焼長者・その1	藁しべ長者	継子いぢめ・その4	話名	
神石郡豊松村	安芸郡下蒲刈島	佐白郡大柿町	御調郡立花村	山縣郡吉坂村	高田郡北村	比婆郡敷信村	豊田郡大崎南村	比和町	世羅郡甲山町	比婆郡敷信村	賀茂郡	御調郡久井村	世羅郡広定村	深安郡神渡邊町	伝承地	
子供のない親に	昔々大昔	或所に	昔々の大昔	昔或所に	昔	お爺さんは	爺が草刈に	馬追が	昔々	爺婆がいた	頃内なる名は	昔々、或る處の	昔或る所に	一人の継母と	語り始め	
×	×	×	×	かつちりこ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	語り止め	
×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	注	
×	×	×	64	×	×	55	54	44	38	37	33	33	31	×	昔話採集標目	
×	×	×	の綱	天道さんの金	×	×	猿地蔵	鳥呑爺	文福茶釜	鹽吹臼	龍宮童子	炭焼長者	藁しべ長者	×		
638	×	×	245	×	×	195	188	237B	167	223	149A・153	149A・153	155	205B	日本昔話大成	
	×	×			×	×										
857	×	×	358	×	×	103	91	370	110	75	145A	145A	96	195	日本昔話通観	
	×	×			×	×					炭焼長者－初婚型	炭焼長者－初婚型	藁しべ長者	米埋め糞埋め		

									学生12					担当	
139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	125 整理No.	
26	同右	25	24	23	22	21	20	19	同右	18	同右	17	16	同右 目次No.	
202	201	199	198	197	197	196	194	193	193	192	191	190	189	188 頁	
若返り水	鼠経・その2	鼠経・その1	婆ゐるか	大力比べ	口無し女房	ひひ猿退治	猫化け話	黄金小犬	鳶不幸・その2	鳶不幸・その1	三人片輪・その2	三人片輪・その1	まのよい獵師	長い名・その2 話名	
佐伯郡大柿町	深安郡御野村	神石郡豊松村	高田郡北村	×	佐伯郡大柿町	×	×	比婆郡敷信村	某地	佐伯郡大柿町	深安郡御野村	高田郡北村	蘆品郡新市村	豊田郡沼田東村 伝承地	
或年の元旦に	前を三人の子供の名	昔	昔ある所に	昔	或一人の男が	夜婆は	昔昔或る所に	昔或處に	昔	昔或る所に	昔々或る所に	昔々或る所に	昔	昔話を語り始め	
×	×	×	×	×	×	それがまつこう一昔	×	×	×	×	とうかつちり	×	×	語り取り	
○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○ 注	
×	×	×	×	×	66	61	×	37	92	92	×	83	81	×	昔話採集標目
×	×	×	×	×	食はず女房	猿神退治	×	竜宮童子	鳶不幸	鳶不幸	三人片輪	まのよい獵師	×	日本昔話大成	
本格新12	382	382	401	480	244	256	254	223	48	48	×	431B	464	×	日本昔話通観
若返り水	鼠経	鼠経	婆いるか	力較べ	口無し女房	猿神退治△猿経立・鬼の子小綱	猫の秘密、猫と南瓜	竜宮童子	鳶不幸	鳶不幸	×	、	、	、	日本昔話通観
29	901A	901A	266	843	356	275・328A	282	76	455	455	×	759	1140	×	日本昔話通観
若返り水	念佛と泥棒—鼠経型	念佛と泥棒—鼠経型	婆いるか	仁王と賀王	食わぬ女房	猿神退治・妻女奪還・人影花型	猫とかぼちゃ	竜宮犬	雨蛙不幸	雨蛙不幸	、	、	、	、	日本昔話通観

					担当
143	142	141	140		整理No.
30	29	28	27		目次No.
205	205	204	202	頁	話名
天狗の面	正直爺	小判ひり猫	猿師長者	神石郡豊松村	伝承地
御調郡久井村	×	御調郡久井村	御調郡久井村	昔或所に	語り始め
昔	或分限者の所	昔ある所に	一昔こつぶり	一昔こつぶり	語り始め
×	×	×	×	×	語り始め
○	×	×	×	×	注
42	×	37	34	大歳の客	昔話採集標目
金銀の扇	×	竜宮童子	竜宮童子	大歳の客A	日本昔話大成
469	×	223	199A	大歳の客A	日本昔話大成
鼻高扇	×	竜宮童子	竜宮童子	大みそかの客—授福型	日本昔話通観
113	×	76	14A	大みそかの客—授福型	日本昔話通観
鼻高扇	×	竜宮犬	竜宮犬	大みそかの客—授福型	日本昔話通観

一、研究テーマ（最終レポートより）

学生1（担当：前編1～10）

「狐女房」

・茨城県に伝承された類話とは

・狐に対するイメージ

・狐女房の正体が露見する契機

・誰に正体を目撃されたか

学生2（担当：11～19）

「継子と笛」（継子の訴え—継子と笛型）

・竹の笛が登場しない東日本の話

学生3（担当：20～33）

「狼の眉毛」

・狼の存在について

・人の本性を覗くときに使用された物の違い

・狼の生息地と伝承地域の関連性

・「狼の眉毛」と他の昔話の混合型について

学生4（担当：34～42）

「猿長者」

・『芸備の昔話』収録「猿長者」に見られる問題

・『芸備の昔話』取録長者話との比較

・「大歳の客」という上位分類、「芸備版」に振り返って

・「水」の持つ若返りの力

・「若水」を語る伝承

・身を清める水

・身を清める水

・「猿長者」で用いられる「水」の位置づけ

学生5（担当：43～51）

「孝行坂」と「肉付き面」

・話の分布

・主人公の性別

・家を出るきっかけ

・面の種類の分布

・「肉付き面」の面の種類

・「孝行坂」と「肉付き面」の比較

・「面が顔に引っ付く」展開の必要性

学生6 (担当: 52~65)

「寶化物」

・三井家を語る民話

学生7 (担当: 66~78)

「鬼の子小綱」

・鬼と賊の関係

・咲く花の違いについて

学生8 (担当: 79~88)

「古屋の漏り」

・逃走した動物 - 狼と虎

・「古屋の漏り」と敬称 - 漏り殿・ムリ殿・スリ殿・雨漏り様・漏りどん

学生9 (担当: 89~97)

「猿と蟹 その6」

・狡猾型の動物について

・兎と狸の力関係

・災難にあう川獺について

学生10 (担当: 後編98~113)

「藁しべ長者」

・取り換えられるもの「味噌」について

・味噌と刀の関係性

・味噌の用途に地域差はあるか

・「藁しべ長者」における型について
・観音祈願型と難題婿型の分布図

学生11 (担当: 114~128)

「猿地蔵 その1」

・猿退治型の猿地蔵と日本の猿の分布について

・三猿との関係性について

学生12 (担当: 129~143)

「天狗の面」

・天狗の描かれ方について

・鼻高扇に見られる教訓について

・鴻池家について

三、昔話採集標目（資料集記載のまま引用）

- 一 桃太郎 桃より男子生まる。長じて鬼を退治し、姫を得、長者となる。
- 二 力太郎 堀の人形、人となり力強く、娘の為に化物を退治し夫婦となる。
- 三 瓜姫 瓜より娘生る。殿様に見出され、玉の輿に乗り幸運を得る。
- 四 子育て幽霊 墓の中に幽霊の子生れ、人に育てられて後高僧となる。
- 五 田螺息子 爺婆神に子を願ひ田螺を拾ふ。田螺奇策により長者の娘を得る。
- 六 一寸法師 婆の掌より小さな子供生れ、鬼ヶ島を征伐し宝を得る。
- 七 隣の寝太郎 不精者奇智により隣の長者の娘を貰ひ、栄えて幸福となる。
- 八 山田白瀧 召使の一人、歌難題を解き、殿様より白瀧姫を貰ふ。
- 九 難題智 難題を解決し、長者の智となり幸運を得る。
- 一〇 天人女房 天女の衣を隠し夫婦となるが、後女は衣を得て天へ去る。
- 一一 鶴女房 鶴報恩。鶴の羽で機を織るが、正体を見られて去る。
- 一二 狐女房 狐報恩。子供に正体を見られ、恋しくばの歌を残して去る。
- 一三 魚女房 魚報恩。甘い料理を作り恩を報ずるが、正体を見られ去る。
- 一四 龍宮女房 花壳龍宮に花を献じ、如意宝を持てる娘を嫁に貰ふ。
- 一五 蛇女房 蛇報恩。正体を見られ子供の為に目玉を剥抜いて去る。

- 一六 猿智入 爺、猿に畠を耕して貰ひ娘を嫁にやる。機智により逃る。
- 一七 蛇智入り ある男、危難の蛙を助け娘を蛇の嫁にやる。蛙娘を救ふ。
- 一八 糸福米福 繼娘、或者の助により母の難題を解き幸福を得る。
- 一九 皿々山 繼母譚、継娘と本子と歌競争により幸福な婚姻をする。
- 二〇 姥皮 繼娘、家を追はれるが姥皮の力で風呂焚より長者の嫁となる。
- 二一 灰坊太郎 姥皮は女であるに対し、これは男。
- 二二 繼子の椎拾ひ 椎拾ひに行き継子は鬼に助けられ、本子は殺さる。
- 二三 お月お星 繼娘虐待にあひ、本子の妹と家を去る。後父に探し出さる。
- 二四 繼子と笛 兄弟父の不在に継母に殺さる。笛の音により父に発見さる。
- 二五 手無し娘 繼娘母に手を切られ、奇蹟により手が生へ、後幸福な婚姻。
- 二六 兄弟話 弟は正直の故に或もの力により栄え、兄は没落する。
- 二七 三人兄弟 兄二人は小贍の故に嫁探しに失敗。弟勇気により成功。
- 二八 五郎の缺椀 兄弟三人職業習得。二人は失敗、弟泥棒を習ひ成功。
- 二九 八石山 弟、兄に種畝を借り、一本の夕顔が生え沢山の米を得る。
- 三〇 取付く引付く よき婆には大判がつき、隣の婆真似そこね汚物つく。
- 三一 薫しへ長者 貧しき男一本の藁により長者となる。
- 三二 蜻蛉長者 正直な百姓蜻蛉の案内により黄金を得、長者となる。
- 三三 炭焼長者 娘、神に願ひ貧しき炭焼の嫁となるが、黄金を得る。
- 三四 大歳の客 隣の爺型、大歳の客黄金となり、爺婆幸福を得る。
- 三五 笠地蔵 貧乏者米代にて笠を買ひ、濡れ地蔵に被せ幸運を得る。
- 三六 黄金の鉈 正直爺淵に鉈を落とし黄金の鉈を得、隣の爺真似そこなふ。
- 三七 龍宮童子 花壳、水に花を投じ童子を得幸福となるが、後追出して失敗。
- 三八 塩吹白 兄、弟の臼を盗み海上で廻し共に沈み、臼果てなく塩を吹く。

- 三九 宝手拭 弘法水系。女中は僧に手拭を貰ひ、主婦蛇を貰ふ。
- 四〇 打出の小槌 爺、門松を水に投じ槌を得、富む。隣の爺失敗。
- 四一 聰耳 男、鯛を助け聰耳を得、肴の言葉を解し長者の聰となる。
- 四二 金銀の扇 花を高下せしむる扇を得悪用し幸福となるが、のち失敗。
- 四三 尻泣篋 孝行息子神に願ひ不思議な篋を得、沢山の金を得る。
- 四五 文福茶釜 狸が茶釜に化ける話。
- 四五 腰折雀 舌切雀系の話。
- 四六 猫檀家 寺の飼猫層に化け正体を見られ去るが、化けて寺に多くの檀家を与える。
- 四七 歌ひ骸骨 曾て殺された者の髑髏、歌によつて仇を討つ。
- 四八 見るなの座敷 或男、鶯の家の留守を全うし一文銭を貰ひ幸運を得るが、他の男禁を破り不幸となる。
- 四九 鼠淨土 爺握飯の案内で鼠の里に到り宝を得、隣の爺真似そこなふ。
- 五〇 地蔵淨土 前同。地蔵の助けにより男の捨てた宝を得る。
- 五一 上の爺下の爺 隣の爺系。但し犬は下の爺の梁に掛かつたものと説く。
- 五二 灰播爺 花咲爺系、犬は婆が川で拾つた桃の中より生る。
- 五三 竹伐爺 殿様の竹を伐り、とがめられ屁によつて幸運を得る。
- 五四 鳥呑爺 誤つて四十雀を呑み尻が鳴るやうになる、後半前同。
- 五五 猿地蔵 爺山で昼寝をし猿に地蔵と間違へられ、幸運を得る。
- 五六 瘤取話 一般の話に似たり、隣の爺系。
- 五七 なら梨取り 父の薬として梨取りに到り、兄二人は失敗。弟勇気により成功。
- 五八 犬と猫と指輪 宝指環を無くし犬と猫の力により再び得て幸福となる。
- 五九 鬼の子小綱 逃竄譚。鬼に泣はれた娘、可笑な真似をし危難を逃る。

- 六〇 水の神の使 貧乏男沼の女の文使をし宝犬を得るが、慢心して元の貧に還る。
- 六一 猿神退治 ある男、牲を要する怪物を退治し、村を安泰にする。
- 六二 旅人馬 禁を犯し馬となれる男ある者の助言に依り友人に助けられ元の人間に還り幸福を得る。
- 六三 三枚の護符 小僧山で危難にあひ、三枚の札の力により危難を逃る。
- 六四 天道さん金の綱 二人の子供鬼婆に追はれ金の綱により天上に逃る。
- 六五 牛方山姥 牛方鬼婆に牛と共に持物悉く食はれるが、後退治する。
- 六六 食はず女房 ある男飯食はぬ女房を娶る。化物なりし為危難にあふ。
- 六七 千匹狼 ある男、山で鍛冶屋の姿に化けて怪猫を退治する。
- 六八 宝化物 侍、空家に出る金、銀、銅の化物の正体を発見する。
- 六九 化物問答 ある男、化物の難題を解き、その正体をあばく。
- 七〇 大工と鬼 大工、鬼の妨害による難工事の橋を、鬼の正体を発見して成功す。
- 七一 八化け頭巾 ある男、狐を欺き、その化け宝を奪ふ。
- 七二 天狗の隠れ蓑 ある男ある物を機智により天狗の宝蓑と交換。
- 七三 運定め話 ある男、子供の運命を語る神の話を立聴。
- 七四 親捨山 禁を破り捨つべき親を助け、親の機智により難題を解決し幸福獲得。
- 七五 智恵有り殿 ある男、誤つて人を殺せる者を段々の機智により助く。
- 七六 俵薬師 小僧主人を欺き俵に入れ捨てらる。牛方を欺き身代りとす。
- 七七 話千両 ある男、旅で儲けた金で話を買ひ、しあわせになる。
- 七八 金の茄子 母、屁をひり家を追はる。子供機智により母を元に還し幸運を得る。
- 七九 金ひり馬 貧乏者、物持の兄へ銭をひると欺き瘦馬を高く売る。
- 八〇 見透し六平 見透したと嘘をつく男殿様の紛失物を偶然言ひ当てる。

- 八一 まのよい獵師 獵師が偶然により様々の獲物を捕へて行く話。
- 八二 源五郎の天昇り 花を高くする太鼓を拾ひ悪用して幸福を得るが、後失敗。
- 八三 三人片輪 目腐れ・がんべ・蚤たかれの三人兄弟の可笑しい所作をする話。
- 八四 医者駕籠 敷医者籠に乗りたく罪人を乗せる唐丸駕籠に乗り失敗。
- 八五 頓智彦八 彦八頓智により狐を欺き烟に肥料をかけさせる話。
- 八六 粗忽惣兵衛 あわて者、旅行の途中様々の失敗を演ずる。
- 八七 尼裁判 田舎者、都より鏡を買って帰り、夫婦喧嘩をする話。
- 八八 時鳥と兄弟 盲の兄、弟を邪推して腹を割り、罰により時鳥となる。
- 八九 片脚脚絆 親子供の失踪を知り脚絆のまゝ探しに出で、郭公となる。
- 九〇 雲雀借金 雲雀は元金貸し、太陽に金を課し催促の為あの如く鳴く。
- 九一 水乞鳥 小僧馬に水をやらず殺して水乞鳥となる。水呑めば雨降れと鳴く。
- 九二 鳶不孝 死せる親の真意に反し水辺に埋め、心配の余り鳴いて鳶となる。
- 九三 雁と亀 亀雁に運ばれて宿がへの途中、空中より落ち甲を破る。
- 九四 古屋の漏藏 虎狼馬盜に至り振るや漏に捕へらる。猿助けんとして尾を捕らる。
- 九五 動物競争 田螺と鼈の競争。田螺機智により労せずして勝つ。
- 九六 尻尾の釣 猿、齦に欺かれ釣に行き、尾が切れ、今の如く短くなる。
- 九七 猿と蔓 餅を搗き、競争によつて食ふ。猿ずくして蔓に負く。
- 九八 猿と蟹 猿、蟹に柿を与へず、尻をはさまれ今の如く顔赤くなる。
- 九九 かちかち山 一般に行はれるものと大同小異。
- 一〇〇 果なし話 聴手が話をせがむのを防がんとしてなすもの。

尾道市立大学地域総合センター叢書13

印刷・発行日 2025年9月

編集・発行 尾道市立大学地域総合センター

〒722-8506

広島県尾道市久山田町1600番地2

TEL (0848) 22-8311

FAX (0848) 22-5460

表紙デザイン 世永 逸彦

印刷所 大東印刷株式会社

〒723-0052

広島県三原市皆実4丁目5-30

TEL (0848) 62-3389